

2016

履修要項

機械システム工学科

理工学部

Faculty of Science and Technology

You,
Unlimited



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

学部・学科英文名

龍谷大学	Ryukoku University
理工学部	Faculty of Science and Technology
数理情報学科	Department of Applied Mathematics and Informatics
電子情報学科	Department of Electronics and Informatics
機械システム工学科	Department of Mechanical and Systems Engineering
物質化学科	Department of Materials Chemistry
情報メディア学科	Department of Media Informatics
環境ソリューション工学科	Department of Environmental Solution Technology

はじめに

この履修要項は、龍谷大学理工学部において開設されているすべての授業科目を紹介し、みなさんが卒業するまでに履修しなければならない単位数、履修方法、その他有意義な学修のために必要な事項を説明しています。この要項を熟読し、明確な学修目的をもって系統的に履修してください。学期の始めには、詳細な履修に関するガイダンスが行われますのであわせて利用してください。それでもなお、不明な点があれば理工学部教務課窓口でたずねるようにしましょう。

『履修要項』は卒業まで使用します。大切に保管し、活用してください。今後は、新入生以外には改めた『履修要項』の配付はいたしません。

また、学年暦や年度ごとに発生する変更、『履修要項』配付後に発生した変更等については、履修説明会や本学ホームページ (<http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>) 等を通じてお伝えします。

学部生のみなさんへ

新入生の皆さんは、本学理工学部に入學し、これからの学生生活に胸をはずませていることと思います。大学における生活は多面的かつ多彩ですが、その中心は勉学です。在学生の皆さんも、新学期を迎えて新たな決意と希望を持って勉学に取り組もうとしていることでしょう。

何事においてもそうですが、目標を設定し、その目標に向けて弛まぬ努力を行うことが大切です。皆さんの探究心や積極性、自主性がその支えとなります。大学生活を通して、基礎力と幅広い教養、そして自分で課題を見つけ出し、よく考えて解決していくような力を身に付けて欲しいと思います。また、敬いと思いやりのある人格を培いながら高い見識を身に付けて欲しいと思います。

一方、理工学部では、社会的・職業的自立につながるキャリア教育に加え、社会の要請に応えるために「グローバルな視点を備えた科学・技術者」の育成をめざし、英語コミュニケーション能力とグローバル実践力を備えた人材の育成にも取り組んでいます。これらを実現するために、理学と工学における基礎から専門までの体系的な教育課程を編成するとともに、独自の学部・大学院一貫の理系グローバル教育を展開しています。

本冊子（「履修要項」）では、理工学部において勉学を進めていく上で必要となる重要事項が網羅されています。単位制度をはじめ、卒業・進級要件や履修登録、教育課程の編成・履修方法、学生生活に関する事項等が記載されていますので、学生の皆さんは必ず本冊子をお読みください。（教員免許状取得〈「数学」、「理科」、「工業」、「情報」〉に関する教職課程の説明は別冊「教職課程ガイドブック」に記載しています。）履修の仕方を誤ると留年や卒業延期に繋がる恐れがありますので、充分に気をつけて下さい。本冊子を読んで不明な点や疑問に思う点があれば、遠慮なく理工学部教務課の窓口にご相談にきてください。

さて、2014年度入学生から新カリキュラムを導入しました。新カリキュラムでは、学生の主体的な学びを促すため、全学科とも第1 Semesterを「学生が自主的かつ継続的に学修する習慣を身につける期間」として位置づけ、各学科の専門性を意識した独自の初年次教育プログラムを実施しています。また、皆さんの学習をサポートするために、数学、物理等の理工系基礎科目の個別指導をおこなう「初年次学習支援センター」や大学院生によるチューター制度等を連動させ、初年次から手厚い学習支援体制を整えています。さらに教員と学生アシスタントによる「フレッシュャーズ・ステップアップ・サポート（クラス会）」を定期的に開催し、皆さんの勉学と学生生活をサポートします。

グローバル教育の一環として、2014年度から新たに学生の皆さんが学部低年次から日常的にグローバル社会で求められる英語コミュニケーション能力（特に「スピーキング」「リスニング」の能力）の向上に取り組める環境を整えるため、社会学部、国際文化学部と連携して、「イングリッシュラウンジ」を開設しました。全学の国際センターが主催するグローバル教育プログラムでは、本学北米拠点（Ryukoku University Berkeley Center：RUBeC）を活用したBerkeley Intercultural English（BIE）プログラムも用意していますので、利用して下さい。理工学部の皆さんには、専門科目が多くなる前の1年生と2年生の間に、夏・春の5週間のプログラムを履修するのがお薦めです。

また、理工学部3年次では、大学で修得した知識や技術が実社会でどのように役立つかを実地で学ぶため、国内企業での学外実習にとどまらず、米国・シリコンバレーの近郊にある日系企業等で実習をおこなう「グローバル人材育成プログラム」を開講しています。さらに大学院まで進学を考えている皆さんには、北米拠点での大学院プログラムや理工学研究科独自の10校を超える海外の大学との学生交換プログラムも整っております。

繰り返しになりますが、本冊子を読んで不明な点や疑問に思う点があれば、遠慮なく理工学部教務課の窓口にご相談にきてください。履修の仕方が誤ったことにより、卒業延期等の事態を招くことがないようにして下さい。

皆さんの学生生活が楽しく実りあるものとなることを願っております。

2016年4月

理工学部長 松木平 淳太

学 年 暦

大学行事、授業日、休日の授業実施日、定期試験期間、休業期間などの日程が、学年暦として毎年度定められています。

毎年度変更されますので、本学ホームページ（<http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>）で必ず確認してください。

龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- ・すべてのいのちを大切にする「平等」の心
- ・真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・生かされていることへの「感謝」の心
- ・人類の対話と共存を願う「平和」の心

龍谷大学の教育にかかる基本方針

建学の精神に基づいて、「平等」、「自立」、「内省」、「感謝」、「平和」の意味を深く理解し、豊かな人間性と共生（ともいき）の精神を涵養するとともに、人間教育、教養教育、専門教育を通じて、「広い学識」と「進取の精神」を持って人類社会に貢献する人間を育成する。

理工学部教育理念・目的

建学の精神に基づいて、科学と人間の調和を重視し、理学と工学における基礎から応用にいたるまでの広範な教育・研究を通じて技術の高度化に対し貢献できる高い倫理観を持った科学技術者を育成することを目的とする。

学位授与の方針〔学士（理学・工学）〕

理工学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

[学生に保証する基本的な資質]

(建学の精神)

- 仏教、ことに浄土真宗に根ざす建学の精神の意味を深く理解している。
- 建学の精神に基づいて、豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、社会的責務に対する自覚を持っている。

(知識・理解)

- 科学技術の進歩に対応できる専門分野の基礎から応用にいたる知識を身につけている。
- 英語についての基本的な知識を持ち、英語と日本語の基本的な成り立ちや機能の違いを理解している。
- 幅広く社会全体を見渡すために必要な知識や教養を身につけている。

(思考・判断)

- 科学技術が自然や社会に対してどのような影響力を持っているかをよく理解し、グローバルな視点から自律的にまた論理的に判断することができる。
- 基本的な論理的思考能力を持ち、外国の文化や事情について柔軟かつ公正な思考、判断ができる。
- 論理的能力・問題解決力を身につけている。

(興味・関心)

- 問題を解決するために必要となる専門的知識を自ら進んで修得し、時代の変化や社会の要請に合致した学習を継続的に行うことができる。
- 広く日本を取り巻く国際情勢や文化に対する興味を持ち、国際的な視野から幅広い知識を身につけている。

(態度)

- 高い倫理性をもって、専門的知識と技術を総合的に活用することができる。
- 世界的な視野をもって社会が直面するさまざまな課題に主体的・積極的に対応することができる。
- 日本語だけでなく英語を通じて、外国からの情報を得、文化を理解吸収しようとする姿勢を持つ。

(技能・表現)

- 科学技術の進歩に対応できる基礎から応用にいたる専門の技術を身につけている。
- 知的生産の技術を身につけている。
- 国際化時代に対応できる英語で読む・書く・聴く・話すという四技能の基礎的運用能力を持っている。

[学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法]

- (1) 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
- (2) 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上（2013年度以前入学生は134単位以上）の単位数を必要とする。
- (3) 卒業認定を受けるためには、「特別研究論文（卒業論文）」を提出し、審査に合格しなければならない。

教育課程編成・実施の方針

理工学部の「教育理念・目的」、「学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専門科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境の向上・学習支援態勢を整備する。

- 仏教の思想と高い倫理性を養うための科目である「仏教の思想」（2科目）を必修科目として設置する。
- 視野の広い技術者となるために必要な幅広い教養を身につけるため、教養教育科目を人文社会学系学部と共同で開講する。
- 国際化に対応できる語学力を身につけるため、読む・書く・聞く・話すことを基礎とする英語科目を1年次から連続して開講し、その後、理工学部専任教員による科目においてより専門的かつ実践的な英語教育を展開する。
- 専門科目を1年次から配置して、基礎から応用への体系的なカリキュラム体制とする。専門基礎科目においては、講義科目と演習を組み合わせ、知識を確実に身につけさせる。加えて、外部講師による最先端の科学に関する講義科目や「学外実習」等の企業現場や実地研修を行うインターンシップ型科目を専門の講義科目と併せて行う。

学生支援（修学支援、学生生活支援、キャリア支援）の方針

学生支援の方針

本学では、修学支援、学生生活支援、キャリア支援の3つの方針に基づき、すべての学生に対して支援を行う。

修学支援の方針

本学における修学支援は、すべての学生に等しく教育機会を提供することを目的とし、学生一人ひとりが学修を円滑に進め、継続していくことができるよう、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

- 修学に関する相談体制を整備し、教職員が相互に連携して相談・指導に取り組む。また、必要に応じて補習・補充教育を実施する。
- 留年者及び休・退学者の状況把握と分析を行い、関係する各組織が連携して適切な対応策を講じる。
- 障がいのある学生に対して実効性ある支援体制を整備し、それぞれの学生に適した学修環境を実現する。
- 本学独自の奨学金制度を整備し、意欲ある学生に学ぶ機会を提供する。

学生生活支援の方針

本学における学生生活支援は、学生の人権尊重を基本とし、学生一人ひとりが心身ともに健康で、かつ安全で安定した学生生活を送るために必要な基盤を整備するとともに、豊かな人間性を育み、自らが主体的に活動できるよう、「生活支援」「経済支援」「課外活動支援」を柱とした総合的な取り組みを行う。

「生活支援」は、保健管理、事件・事故防止、相談等の学生生活に係わる環境を整備する。

「経済支援」は、学生の家計急変や社会環境の変化等に応じた奨学金、貸付金等の経済的な支援を行う。

「課外活動支援」は、学生の人間的成長に寄与するため、学生が自主的に課外活動・社会活動に参加できるための環境を整備する。

キャリア支援の方針

本学におけるキャリア支援は、学生の社会的・職業的自立に向けて必要となる知識、能力、態度を育むとともに、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現を目的として、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学のおよび体系的に取り組む。

「キャリア教育」は、学部と各組織が連携し、正課教育および正課外教育を通して、社会で必要となる基礎的・汎用的能力を育成するとともに、職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力が身につくように取り組む。

「進路・就職支援」は、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多様な支援プログラムを実施するとともに、face to faceの面談を重視し、学生の個々の状況を踏まえたきめ細かな支援を行う。

ガイダンス

学期の始めには各種のガイダンスが行われます。

このガイダンスは、みなさんが学修の計画を立てたり、履修に必要な手続きをスムーズに行うための説明や指導をするものです。

その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、諸資格取得のためのガイダンス等も開催されます。

これらの連絡は、以下「大学からの連絡・通知の掲示」のとおり行われるので十分注意しなければなりません。

大学からの連絡・通知の掲示

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きすべて掲示で行います。また、ポータル上でも適宜連絡や通知を行います。掲示やポータルを見落としのために後で支障をきたさないよう、大学に来たらまず掲示板を見る、またポータルを確認する習慣をつけましょう。

なお、電話による問い合わせには、一切応じません。

1. 各種掲示内容別の掲示板とその位置

掲示板の名称	掲示の内容	設置場所
理工学部掲示板		1号館
社会学部掲示板	履修方法、定期試験、レポート作成など、教育課程に関すること（一部休講・補講情報）	6号館 (2号館連絡通路)
農学部掲示板		9号館
学生部掲示板	奨学金やアルバイトなど、学生生活に関すること	1号館
教職センター掲示板	教職課程に関すること	3号館
キャリアセンター掲示板	就職、資格講座等に関すること	1号館
図書館掲示板	図書館に関すること	図書館前

※大学の事務組織変更やキャンパス整備等により掲示内容や掲示板の設置場所が変更になる場合があります。

休講・補講・教室変更情報について

休講・補講・教室変更情報については、本学のポータル上で公開しています。アクセス方法等については、以下の事項をご参照ください。

(1) アクセス方法 <パソコン用>

本学ホームページ (<http://www.ryukoku.ac.jp>) の「ポータルサイト(学内者向け)」からアクセスしてください。

ポータルの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。

<携帯電話用>

携帯電話用ポータルの利用には初回のみパソコン用ポータルから「携帯電話アクセス番号の設定」が必要です。設定方法は、パソコン用ポータルをご覧ください。設定完了後、URLが自動的に通知されます。

(2) 公開対象科目 本学開講科目

(3) 公開期間 <パソコン用>

休講：休講日を含めて30日前から公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更（臨時）：変更日を含めて30日分を表示しています。

教室変更（恒常）：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

<携帯電話（フィーチャーフォン）用>

休講：休講日を含めて2日前から公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更（臨時）：変更日を含めて2日分を表示しています。

教室変更（恒常）：変更日を含めて前後28日分を表示しています。

(4) 注意事項 ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。

・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。

※本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供する公式の情報は上記サイトのみです。

※休講、補講、教室変更の公開については、メールでの配信サービスも実施しています。

パソコン用ポータルの「連絡先・メールアドレス・メール受信設定」で設定可能です。

※休講、補講、教室変更情報については、本学のポータル以外に一部掲示板でも公開しています。

目 次

学部生のみなさんへ	i
学年暦	ii
龍谷大学の「建学の精神」	ii
龍谷大学の教育にかかる基本方針	ii
理工学部 教育理念・目的	iii
理工学部 学位授与の方針	iii
理工学部 教育課程編成・実施の方針	iv
学生支援（修学支援、学生生活支援、キャリア支援）の方針	v
ガイダンス	vi
大学からの連絡・通知の掲示	vi
休講・補講・教室変更情報について	vii

第1部 履修の心得

I. 履修をはじめるにあたって	2
1. 長期的な履修計画を立てること / 2. 系統的に科目を履修すること	
3. 自主的に学修をすること	
II. 単位制度と単位の認定	3
1. 単位制度 / 2. 履修登録制度 / 3. 授業科目の履修 / 4. 授業時間	
5. 卒業要件単位および学士号 / 6. 卒業見込（卒業年次生対象） / 7. 進級制度	
8. 入学前に修得した単位の認定	
III. 授業科目の開設方法	6
1. セメスター制 / 2. 先修制	
IV. 履修登録	7
1. 履修登録の日程 / 2. 履修登録手続のスケジュール / 3. 履修登録に際しての注意事項	
4. 履修登録制限単位数 / 5. 予備・事前登録 / 6. 履修登録要領 / 7. 履修辞退制度	
V. 成績評価	13
1. 成績評価の方法 / 2. 成績評価の基準 / 3. 平均点とGPA / 4. 成績疑義	
5. 筆答試験の時期 / 6. 筆答試験の受験資格 / 7. 筆答試験の受験の注意事項	
8. 筆答試験の答案の無効 / 9. 筆答試験における不正行為	
10. レポート試験における不正行為 / 11. 追試験 / 12. 筆答試験時間	
VI. 教育支援	18
1. 学科の委員 / 2. クラス担任制 / 3. 教員との面談 / 4. T.A.制度	
5. チューター制度 / 6. 理工学部初年次学習支援センター / 7. L.A.制度	
8. ライティングセンター / 9. その他	

第2部 教育課程

I 理工学部の教学理念と教育目標	22
II 機械システム工学科の教学理念と教育目標	24
III 教育課程の編成・履修方法	26
1. 授業科目の区分 / 2. 必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目	
①教養教育科目の履修方法	27
1. 必修科目の履修について / 2. 学科指定・クラス指定 / 3. 教養教育科目の予備登録について	
4. 教養科目について / 5. 日本語科目等（留学生対象科目）について	

②学部固有科目の履修方法	41
1. 学部内共通科目の履修方法 / 2. 学科固有科目の履修方法 / 3. 卒業・進級の要件	
4. 設置科目 / 5. カリキュラムフローチャート	
③固有科目カリキュラム対照表	54
④他学科科目の履修について	56
⑤日本技術者教育認定機構（J A B E E）について	57
⑥卒業年次生の大学院授業科目の履修について	58
Ⅳ その他の教育課程・教育プログラム	59
大学コンソーシアム京都「単位互換制度」および「インターンシップ・プログラム」について	
環びわ湖大学・地域コンソーシアム「単位互換制度」について	
放送大学科目の受講について	
協定型インターンシッププログラム	
第3部 諸課程	
Ⅰ. 諸課程	74
第4部 学修生活の手引き	
Ⅰ. 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室について	78
Ⅱ. 気象警報発令および交通機関の運行中止に伴う授業および定期試験の取り扱いについて	83
Ⅲ. 学籍の取り扱い	86
Ⅳ. 通学について（自転車・バイク・自動車）	90
第5部 大学院進学を目指す方へ	
Ⅰ. 理工学研究科について	92
Ⅱ. 入学試験について	92
Ⅲ. 経済的支援（給付奨学金）について	93
Ⅳ. 研究助成について	94
第6部 付録	
Ⅰ. 教員名簿	96
Ⅱ. 緊急時の対応について	98
Ⅲ. 学舎見取図	102

履修要項

目 教育理念的

履修心得

心 履修
得 の

履修心得

単位制度と
単位の認定

履修心得

授業科目の
開設方法

履修心得

履修登録

履修心得

成績評価

教育課程

教育課程
編成方法

教育課程

科 教養教育
目

教育課程

専学
攻 科部

教育課程

その他の
教育課程

諸
課
程

学 学
修 修
生 生
活 活

手 引
き

目 大
指 学
す 院
方 進
へ 学
を

付
録

履修の心得

I 履修をはじめるときにあたって

大学生にとって、学問をすることが第一の目的です。この目的を達成するために、これから述べることに十分留意して勉学に取り組んでください。大学では、学生生活や履修に関するすべてのことが自分の責任に委ねられていますので、それだけに各自が十分な理解のもと履修することが望まれます。

1. 長期的な履修計画を立てること

大学における学業は、一定の単位数を修得することによって完了します（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたは多くの組み合わせがあります）。卒業に必要な単位の修得は、学部には設置されている授業科目にもとづいて行われます。単位とは、それぞれの授業科目を通して得られる学修の量をあらわすものです。

授業科目は、「**教養教育科目**」、および「**学部固有科目**」からなります。みなさんはこれらの科目群から卒業に必要な一定の単位数を満たすよう履修しなければなりません。

各学年ごとに、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が配当されています。なお年度によって開講される科目が異なるので、1学年間あるいは1学期間の履修計画をたてるときは、同時に次年期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

すべての科目は必修科目、選択必修科目（教養教育科目では「**基幹科目**」に該当）、選択科目、随意科目のいずれかに分類されます。

必修科目とは、卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

選択必修科目（基幹科目）とは、指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。

選択科目とは、どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件として定められた単位数は修得する必要がある、この要件を欠く場合は卒業の認定を受けることができません。

随意科目とは、単位の認定はされますが、卒業要件の単位数には含まれない科目です。各種の資格取得にかかわる科目が該当します。

また、**理工学部では各学科の科目を系統的に履修するために、各学年毎に進級の必要要件（進級制度）を設けています。4年間で卒業要件を満たすとともに各学年毎に進級要件を満たさなければならないことを念頭に置いて下さい。**

2. 系統的に科目を履修すること

各学年に設置されている授業科目、カリキュラムフローチャートを参考にして、系統だった履修をすることが重要です。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修は、たとえ4年間在学したとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて各科目の性格や開講学期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において、みなさんは自ら選んだテーマに主体的に取り組む、専門的な視点に立って研究することです。テーマの研究にとって土台となる知識や思考力さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3. 自主的に学修をすること

十分な学修成果をあげるためには、単に教室で講義を聞くだけでなく、講義そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、講義以外に自主的な学修が必要です。教室での講義時間の2倍あるいはそれ以上の自主的な学修が行われてはじめて満足な理解が可能となります。そのため、シラバス（講義概要・授業計画）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、講義を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問したり、先生や友人・先輩とのディスカッションを通じて理解を深めることも大切です。

Ⅱ 単位制度と単位の認定

1. 単位制度

大学での学修はすべて単位制になっています。単位制とは、すべての科目に一定の単位数が定められており、その科目を履修して単位を修得し、定められた卒業要件単位数を満たすことで卒業が認定される制度です。

<単位とは>

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単位数	学 修 時 間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合		
	自主	授業	合計	自主	授業	合計
1				15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

<単位の計算方法>

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ① 本学では単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ② 本学では1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③ 本学では学期完結型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、学期連結型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○ 講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区 分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	6時間(授業2時間+自主4時間)×15週=90時間	90時間÷45時間(1単位につき)=2単位
学期連結型授業の場合	6時間(授業2時間+自主4時間)×30週=180時間	180時間÷45時間(1単位につき)=4単位

○ 外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区 分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	3時間(授業2時間+自主1時間)×15週=45時間	45時間÷45時間(1単位につき)=1単位
学期連結型授業の場合	3時間(授業2時間+自主1時間)×30週=90時間	90時間÷45時間(1単位につき)=2単位

<単位の認定>

一つの授業科目に定められた単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- (1) 単位の認定を受けようとする科目について、履修登録をすること。
- (2) その科目の授業に出席し、履修に必要な学修をすること。

- (3) その科目の試験を受け（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆記試験とは限らない。詳細はシラバスの成績評価の方法で確認してください。）、その成績評価で合格（60点以上）をすること。

2. 履修登録制度

履修登録とは、科目を履修するための手続きです。この登録をしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるようすべて自分の責任において取り組まなければなりません。

(1) 履修登録の意味

履修登録は、自らの学修計画に従って科目を履修するための手続きであり、学修計画の出発点となるものです。履修登録をしていない科目は履修できません。

(2) 履修登録の方法

Semester制により履修登録は、第1学期、第2学期の年2回行われます（ただし、4年次生以上は、第1学期に第2学期開講科目を含む通年分の履修登録をする必要があります）。

第1学期履修登録は、第1学期開講科目と学期連結型（通年）科目および8月と9月に開講される集中講義科目を登録します。

第2学期履修登録は第2学期開講科目を登録します。なお、第2学期登録時に学期連結型（通年）科目の履修を放棄して別の第2学期開講科目を登録することはできません。

3. 授業科目の履修

履修登録をした授業を受けるということは、その科目に定められている単位数に見合った量の学修をするということです。

学修の内容には、授業形態に応じて教室での学修とその準備のための学修とを含んでいます。

このうち、教室での学修は、授業に出席し、その中で学修するということです。総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。

また、準備のための学修は、「Webシラバス（講義概要・授業計画）」の中で「授業時間外における予・復習の指示」で示される内容を中心に、参考文献等も利用しながら、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行われる学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修のいかにかかっていると云えます。

4. 授業時間

本学における1回の授業時間は、後に説明する授業科目の開設方法に関係なく、いずれの場合でも90分です。また、それぞれの授業時間を「**講時**」といいます。年間を通して各講時の時間帯は次のとおりです。

授業配置時間

	時 間 帯	月	火	水	木	金	土
1 講時	9:20～10:50	○	○	○	○	○	○
2 講時	11:05～12:35	○	○	○	○	○	○
3 講時	13:35～15:05	○	○	○	○	○	○
4 講時	15:20～16:50	○	○	○	○	○	○
5 講時	17:00～18:30	○	○	○	○	○	○

5. 卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、数理情報学科では「**学士（理学）**」、電子情報学科・機械システム工学科・物質化学科・情報メディア学科・環境ソリューション工学科では「**学士（工学）**」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。

卒業するためには、大学が定める教育課程にしたがって学修し、124単位（2013年度以前入学生は134単位）以上を修得しなければなりません。

(1) 卒業の要件

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

① 所定在学年数

本学の教育課程を修了するには、4年以上在学しなければなりません。

これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間はこの在学期間に加えません。

② 所定単位の修得

本学部の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに履修すべき単位数を指定しています。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

(2) 卒業の時期

卒業認定は、毎年学年の終わり（3月）に行います。

なお、在学期間が4年以上の学生で、卒業要件単位を修めた場合は、前期終了時（9月）に認定することがあります。（9月卒業）

⚠ 注意事項

9月卒業を希望する者は、4月初旬に所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続きを完了してください。本人の申し出がなければ、たとえ卒業要件を満たしていても、9月卒業の対象にはなりません。

6. 卒業見込（卒業年次生対象）

「卒業見込」とは、4年次の学生がそのまま学修を続けて学年末に卒業できることが見込まれる状態のことを言います。「卒業見込」の状態である時のみ、卒業見込証明書の発行を受けることが可能です。具体的には、次の2つの条件を満たしている学生が「卒業見込」と見なされます。

- 1) 4年次であること。
- 2) 修得済みの単位数と、履修登録している科目の単位数をあわせると、卒業要件単位（最低）数表に示す各区分の単位数以上になること

通常は、4年次の履修登録により「卒業見込」となります。しかし、前期の単位取得状況により、「卒業見込」でなくなることがあります。万が一、「卒業見込」でなくなった場合には、必ず前期成績表配付後直ちに理工学部教務課に申し出てください。

7. 進級制度

理工学部では、各学科の科目を系統的に履修するために、各学年毎に進級の必要要件（進級制度）を設けています。履修登録するにあたっては、細心の注意をすることが必要です。

8. 入学前に修得した単位の認定

学則第38条にもとづき、1年次に願い出た者に限り、以前に在学した大学で修得した科目を、本学理工学部の科目として認定することがあります。詳細は、入学後すみやかに、理工学部教務課窓口に申し出てください。

Ⅲ 授業科目の開設方法

1. セメスター制

理工学部の授業は、セメスター制で開講されています。セメスター制とは、半年を1学期とするもので、1学年を、原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分し*、以後4学年までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。これら学年、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

学年	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
学期	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目（詳細は「第2部教育課程」の「I. 教育課程の編成方法」を参照）が配当されています。これらの科目の中からどの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目は、それを履修しないと卒業することができない科目です。また選択必修科目も同じ性格を有する科目のため、配当されたセメスターにおいて必ず履修しなければなりません。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、講義を通しての学修と自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

※：実際に授業を開講する上での第1学期（前期）、第2学期（後期）の区分は、毎年度学年暦によって決定されます。

2. 先修制

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された科目の修得を必要とする制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

したがって、先修科目が設定されている授業科目とその履修の要件となる授業科目を同一学期に履修することはできません。先修制をとっている科目は次のとおりです。

教養教育科目

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
ドイツ語セミナー A,B	「ドイツ語 I A, I B, II A, II B」の中からいずれか1単位
フランス語セミナー A,B	「フランス語 I A, I B, II A, II B」の中からいずれか1単位
中国語セミナー A,B	「中国語 I A, I B, II A, II B」の中からいずれか1単位
コリア語セミナー A,B	「コリア語 I A, I B, II A, II B」の中からいずれか1単位

学部固有科目

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
MO T 演習	「MO T 概論」2単位

Ⅳ 履 修 登 録

履修登録は、自らの学習計画に従ってその年度・学期（セメスター）に履修しようとする授業科目を届け出る手続であり、みなさんの学習計画の出発点となるものです。この登録をしていなければ、たとえ授業に出席しても、試験を受けることや単位の認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるよう、すべて自分の責任において取り組まなければなりません。

1. 履修登録の日程

履修登録の日程は毎年度変更されますので、本学ホームページ（<http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>）で確認してください。

2. 履修登録手続のスケジュール

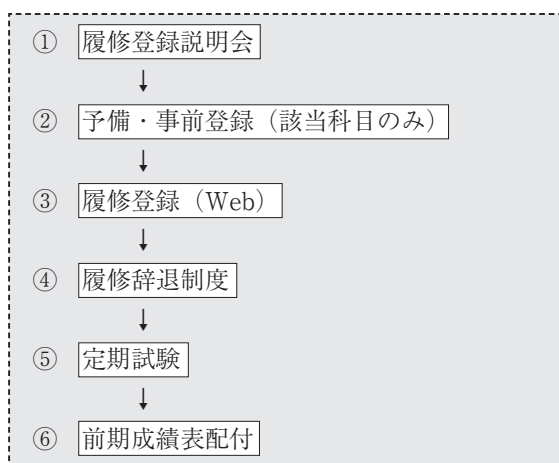
1～3年次生は、履修登録が前期・後期の年2回行われます。ただし、4年次生については、卒業見込判定の関係から、前期に1年分の履修登録を行います。

1～3年次生	年2回登録	前期：通年・前期科目登録
		後期：後期科目登録
卒業年次生	年1回登録	前期：通年・前期・後期科目登録

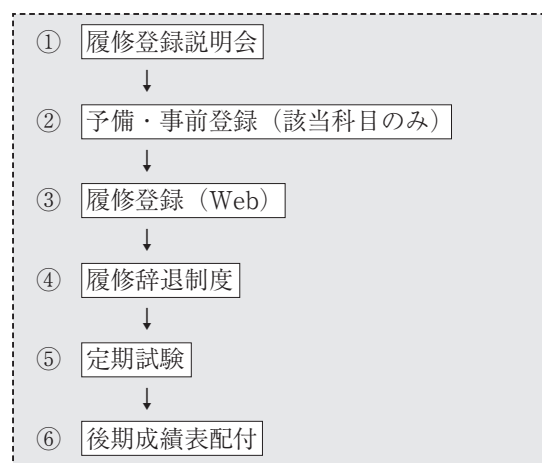
履修登録に関する手続きのスケジュールは以下の通りです。

〈1～3年次生〉

前期



後期

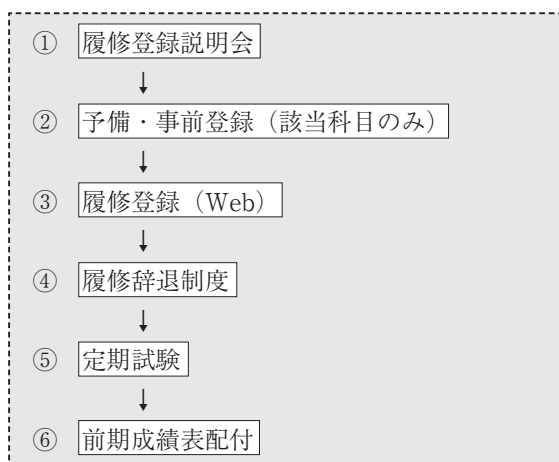


⚠ 注意事項

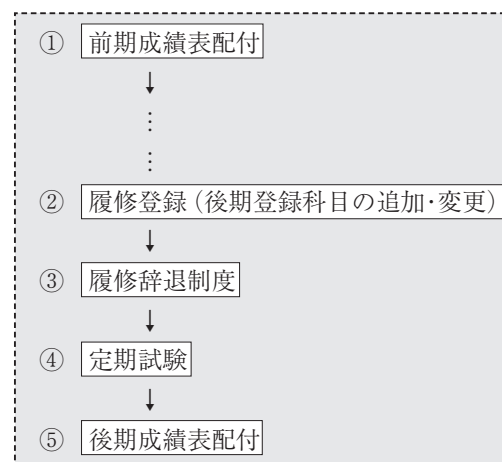
- 一度登録した通年科目は、履修辞退制度による登録の取消の場合を除き、途中で放棄・変更することはありません。通年科目を登録する際は、必ず後期に履修すべき科目がないかを確認してください。

〈卒業年次生〉

前期



後期



⚠ 注意事項

- 前期登録時は、卒業見込判定の関係から、その年度に履修しようとする全科目を登録してください。

3. 履修登録に際しての注意事項

① **単位の修得**

履修登録した科目でなければ、受講、受験、単位の修得はできません。

② **二重登録の禁止**

同一時間帯に2科目以上履修登録することはできません。二重登録した場合、該当科目は全て無効となりますので注意してください。

③ **修得済み科目の登録禁止**

既に単位を修得した科目を再び履修登録することはできません。

④ **登録制限単位数**

制限単位数を超えて履修登録することはできません。ただし、随意科目（諸課程科目など）は制限単位数に含みません。

⑤ **履修配当年次**

現年次より上の年次に配当されている科目を履修登録することはできません。（留年生に対する特別措置は除く）

⑥ **クラス、学科指定**

学科や学籍番号によってクラスあるいは学科が指定される科目（英語、スポーツ技術学、仏教の思想等）があるので注意して登録してください。Web登録画面にて確認して下さい。

⑦ **登録科目の追加、変更の禁止**

登録日以後の科目の変更、追加、修正は認めません。ただし、履修不可能科目の登録によるエラーがあった場合はこの限りではありません。（履修辞退制度による登録取消は除く）

〈その他〉

- ① 必修科目が配当されている学年にあっては、その年次において登録してください。
- ② 所属年次までに配当されている授業科目以外の科目は登録できません。
- ③ 授業時間割表に従って登録してください。（特に、同一授業科目について複数の担当者がある場合や、週2回学期完結授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください。）

4. 履修登録制限単位数

大学での学修は、単位制度の趣旨、教育効果（自主的な学修時間の確保）および健康管理の点から、一度に多くの科目を履修することは適当ではありません。

このため、理工学部では次のとおり履修登録制限を行っています。ここに定める単位数を超えて履修登録することはできません。よく考えて卒業までの履修計画を立てる必要があります。

1. 2011年度以前入学生＜機械システム工学科＞

学 年	1年次	2年次	3年次	卒業年次生
前期制限単位数	30	30	30	60
後期制限単位数	30	30	30	

* 通年科目、前期・後期のペア科目については、前期・後期それぞれ単位数の半分ずつをカウントします。

⚠ 上記履修登録制限単位数に含まれない科目

- ① 諸課程科目（教職課程、本願寺派教師資格課程、博物館学芸員課程）などの随意科目
- ② 集中講義期間に実施される「情報と職業」（2単位）
- ③ 大学コンソーシアム京都と環びわ湖大学・地域コンソーシアムの単位互換制度科目

2. 2012年度～2013年度入学生＜機械システム工学科＞

学 年	1年次	2年次	3年次	卒業年次生
前期制限単位数	25	25	25	50
後期制限単位数	25	25	25	

* 通年科目、前期・後期のペア科目については、前期・後期それぞれ単位数の半分ずつをカウントします。

【履修登録制限単位数に関する特別措置】

2012年度～2013年度入学生については、学部が定める所定の手続きをおこなった場合、以下の科目を上記履修登録制限単位数（半期25単位、年間50単位）から除外することができます。ただし、総履修登録単位数は半期30単位、年間60単位を超えることはできません。

<履修登録制限単位数から除外できる科目>

諸課程科目	教職課程科目	人権論A, 人権論B, 日本国憲法, スポーツ技術学A, スポーツ技術学B, 英語ⅠA, 英語ⅠB, 英語ⅡA, 英語ⅡB, 英語Ⅲ, 英語Ⅳ, ドイツ語ⅠA, ドイツ語ⅠB, フランス語ⅠA, フランス語ⅠB, 中国語ⅠA, 中国語ⅠB, 教育原論A, 教育原論B, 発達と教育A, 発達と教育B
再履修科目		過去に履修したが、単位修得できなかった科目
集中講義科目		情報と職業

⚠ 注意事項

以下の科目も履修登録制限単位数に含まれません。履修を希望する場合は、「IV. 履修登録」に従い所定の履修登録手続をしてください。

- ① 諸課程科目（教職課程、本願寺派教師資格課程、博物館学芸員課程）などの随意科目
- ② 大学コンソーシアム京都と環びわ湖大学・地域コンソーシアムの単位互換制度科目

3. 2014年度以降入学生<機械システム工学科>

学 年	1年次	2年次	3年次	卒業年次生
前期制限単位数	24	24	24	49
後期制限単位数	25	25	25	

* 通年科目、前期・後期のペア科目については、前期・後期それぞれ単位数の半分ずつをカウントします。

⚠ 上記履修登録制限単位数に含まれない科目

- ① 諸課程科目（教職課程、本願寺派教師資格課程、博物館学芸員課程）などの随意科目
- ② 集中講義期間に実施される「情報と職業」（2単位）
- ③ 大学コンソーシアム京都と環びわ湖大学・地域コンソーシアムの単位互換制度科目

5. 予備・事前登録

予備・事前登録とは、受講者数を調整するため、通常の履修登録（本登録）に先だって行われるものです。予備・事前登録手続きの必要な科目は、この手続きをしなければ受講できません。

履修登録 - 1) 予備登録 …………… (広義)	受講可否を抽選（無作為抽出）により決めます。 教養教育科目や言語科目（選択外国語科目）においてこの手続きが必要です。
2) 事前登録 ……………	受講可否を申請書の内容や過去の成績などにより決めます。 必修外国語の再履修や一部の学部固有科目等においてこの手続きが必要です。
3) 履修登録(本登録) …… (狭義)	履修する科目（予備・事前登録にて受講可となった科目を含む）が確定します。

6. 履修登録要領

(1) 登録の心得

- ① 登録は、すべて自己の責任においてなされなければならないので、十分に注意して履修登録を行ってください。なお、登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく理工学部教務課窓口にご相談してください。
- ② 登録不備等が卒業延期等重大な結果につながる場合があるので必ず登録確認を行ってください。
- ③ 時間割、教室、担当者等について変更が生じる場合があるので、随時理工学部掲示板とポータルで確認してください。

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 授業時間割等に変更が生じた場合は、理工学部掲示板に掲示しますので注意してください。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく理工学部教務課窓口にご相談してください。
- ③ Web履修登録画面から、定められた期日に必ず登録してください。

※登録期間は履修説明会・ポータルサイト（学内者向け）等で確認してください。

⚠ 注意事項

- * 通年科目、前期・後期のペア科目の単位数は、前期・後期にそれぞれ半分ずつカウントされます。
- * 半期に完結するペア科目（半期で1週間に2回講義が行われる科目）の単位数は、半期にカウントされます。
(例) 前期ペアで4単位の科目の場合は、前期に4単位を加算します。
(例) 前・後期ペアで4単位の科目、通年で4単位の科目の場合は、前・後期それぞれに2単位ずつ加算します。
- * 集中講義Ⅱの期間に実施される科目は、9月卒業を希望する者は受講できません。

④ 受講登録確認表の出力による登録確認

本人が登録した授業科目は、登録完了後、各自でその場で「受講登録確認表」を出力して確認することができますので、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問がある場合は、ただちに、理工学部教務課窓口へ申し出てください。

(3) 履修登録の確認

授業科目が正確に登録されているかは、自己の責任において必ず確認してください。

もし、確認せずに間違っただま登録を放置しておくと、受講している科目が無効となり、試験が受けられなくなるので注意してください。

登録確認を怠ったために、登録不備等により留年や卒業延期等の重大な不利益を被った例が生じているので、確認は1科目ずつ慎重に行ってください。

7. 履修辞退制度 ※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、「授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合」や「受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合」など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録の確認時における登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正や取消」するものであり、以前の履修は一切残りませんが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履修履歴が記録として残ります。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、『履修要項』および『シラバス』を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行いません。したがって、履修辞退した科目は平均点やGPAの計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履歴および履修辞退履歴として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退できない科目

原則として、開講科目のすべてを「履修辞退」の対象科目としています。

ただし、下記のとおり、カリキュラムの関係において、学部（学科・専攻・コース）で学修する上で“必修としている授業科目”や“予め定員を設け募集した科目”、“本学以外の団体等への手続きにおいて調整が困難である科目”など「履修辞退制度」の対象としない（＝履修辞退を認めない）科目を設定していますので、履修登録の際、必ず確認してください。

◆履修辞退対象外科目の一覧

科目区分	備考
必修科目	
事前登録が必要となる科目※	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にわけて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」および「環びわ湖大学・地域コンソーシアム」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が本学他学部の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習に関する科目、介護等体験、教育実習指導Ⅰ・ⅡA・ⅡB	実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。
集中講義科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。
その他各学部が設定する科目	各学部（学科・専攻・コース）において設定する科目別表「◆学部等が設定する履修辞退対象外科目の一覧」のとおり。

※教養教育科目の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

◆学部等が設定する履修辞退対象外科目の一覧

学部等	履修辞退の対象外とする科目
理工学部 数理情報学科	基礎セミナー
理工学部 環境ソリューション工学科	<2013年度以前入学生> 「都市環境施設実験A」、「都市環境施設実験B」 <2014年度以降入学生> 「都市環境施設実験」、「野外調査実習」

(4) 履修辞退の申出期間

履修辞退の申出期間は各学期において1週間程度設けられます。履修説明会・ポータルサイト（学内者向け）等で確認してください。

(5) 履修辞退の申出方法

履修辞退の申出期間にポータルの「Web履修辞退申請」から申請してください。

受付期間中にポータルを利用した申請ができない理由を有する者は、事前に理工学部教務課に相談してください。

(6) 留意事項

- ① 通年科目について、第1学期（前期）期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期（後期）の当該科目の単位数は履修登録制限単位から除外され、カウントされません。また、第2学期（後期）の履修登録時に、履修辞退した科目の同一曜講時に学期完結型の後期開講科目を履修登録することができます。

なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
第1学期（前期）	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期（前期）分はカウントしますが、第2学期（後期）分はカウントしません
第2学期（後期）	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

- ② 履修辞退申し出による授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生および社会人）が、通年科目の辞退を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の授業料は徴収しません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の履修料は理由の如何にかかわらず返還しません。

V 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1. 成績評価の方法

成績評価には、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちのひとつまたは複数を合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100点を満点とし60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ② 一度合格点を得た科目（=既修得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

段階評価と評点			
S (90～100点)	A (80～89点)	B (70～79点)	C (60～69点)

上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- ⑥ 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月下旬、第2学期（後期）分を3月下旬に配付します。期日と場所は別途掲示等でお知らせします。

3. 平均点とGPA

(1) 平均点

平均点は、登録科目の素点（100点満点）の合計と単位数をかけたものを、登録科目の総単位数で割ったものです。

$$\text{平均点} = \frac{\sum (\text{登録科目の素点} \times \text{単位数})}{\sum (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「英語I A」（1単位）80点、「心理学入門」（2単位）40点、「物理学I」（2単位）78点が登録科目の結果とした場合、平均点は次のように計算されます。

$$\text{平均点} = \frac{(90 \times 2) + (80 \times 1) + (40 \times 2) + (78 \times 2)}{2 + 1 + 2 + 2} = \frac{496}{7} = 70.86$$

(2) GPA

GPAとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことであり、従来の修得単位数による学修到達後判定に加え、どの程度のレベルで単位を修得したかを一目で表すものとして考えられたものです。算出方法は、各教科の評価点（100点満点）を下表のように換算し直し、その合計を登録科目の総単位数で割って算出します。

$$GPA = \frac{\sum (\text{登録科目のグレードポイント} \times \text{単位数})}{\sum (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「英語I A」（1単位）80点、「心理学入門」（2単位）40点、「環境と人間A」（2単位）78点が登録科目の結果とした場合、GPAは次のように計算されます。

$$GPA = \frac{(4 \times 2) + (3 \times 1) + (0 \times 2) + (2 \times 2)}{2 + 1 + 2 + 2} = \frac{15}{7} = 2.14$$

素点	グレードポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

(3) 各科目の算入基準

平均点およびGPAの計算をする際、下表のとおり取り扱います。

科目の区分	取り扱い
卒業要件となる科目 (卒業要件上、余剰分となる科目も含む)	算入する
随意科目	算入しない
再履修により合格した場合、当初履修し不合格となった科目	算入しない

*再履修で不合格の場合は、高得点の方を算入します。

理工学部としては平均点を使用することとし、GPAは参考までに学業成績表に表記することとします。

4. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、理工学部教務課窓口に提出してください。**授業担当者に直接申し出てはいけません。**

なお、申出期間については、別途掲示等で確認してください。

5. 筆答試験の時期

定期試験（学期末・学年末試験）	個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験
追試験	定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験（追試験の項を参照のこと）

6. 筆答試験の受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

- (1) その科目について、有効な履修登録がなされていること。
- (2) 定められた学費を納入していること。

- (3) 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- (4) 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

7. 筆答試験の受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- (1) 指定された試験場で受験すること。
- (2) 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。
- (3) 学生証を携帯すること。
- (4) 学生証は写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。
万一学生証を忘れた場合には、事前に理工学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。
- (5) 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
- (6) 参照を許可されたもの以外は、指示された場所におくこと。
[担当教員の指示がない限り、電子機器等の使用を認めない。]
- (7) 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、かばんの中に入れること。
- (8) 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

8. 筆答試験の答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

- (1) 無記名の場合。
- (2) 指定された場所に提出しない場合。
- (3) 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合。
- (4) 受験態度の不良な場合。

9. 筆答試験における不正行為

- (1) 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。
さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。
- (2) 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。
 - ① 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合。
 - ② 監督者の指示に従わない場合。
 - ③ 身代わり受験を行ったとき、または行わせた場合。
 - ④ カンニングペーパー等を所持していた場合。
 - ⑤ 携帯電話、スマートフォン、情報端末等をかばん等にしまっていない場合。
 - ⑥ 許可された以外のものを参照した場合。
 - ⑦ 机上等への書き込みをしていた場合。
 - ⑧ 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合。
 - ⑨ 答案用紙の交換および見せ合いをした場合。
 - ⑩ その他、①～⑨に準じる行為を行った場合。

10. レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等から複写したような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定をおこなわない場合があります。

参考 レポート提出要領

① レポートの提出方法

- (ア) レポートは授業担当者の指示に従って提出すること。
- (イ) レポートは指示されたところに提出し、郵送の場合は宛名を確認の上、必ず「書留」で発送すること。
- (ウ) 授業担当者に直接提出するように指示のあるものについて、事故を防ぐため事情のいかんを問わず、理工学部教務課窓口では一切取り扱わない。
- (エ) 提出期限は厳守すること。（期限を経過したものは受理しない。）
- (オ) その他、指示に従わない場合は無効となる。

② レポートの提出形式

用紙・規格等は次のとおりとする。

用紙種別	字数	大きさ	書き方	綴じ方	綴じ位置
龍大論文用紙	400字	B4判	縦書き	右側	A
龍大原稿用紙	400字	B4判	横書き	上側	B
レポート用紙		A4判	横書き	左側	C

- 必ずホッチキスで綴じること。
- 表紙の書き方、綴じ方は下図のとおり。（但し、担当者より別途指示がある場合は、指示に従うこと。）

表紙記入・綴じ方法

(B)

テーマ

学部	学科
年 組	学籍番号
氏 名	
提出日	

学 科	
担 当	教授
開講時間	曜日 講時

(A)

11. 追試験

(1) 追試験の受験資格

次の各号に該当する者は、追試験を受験することができます。

- ① 病気や怪我、試験時における体調不良等による受験ができなかった者。
- ② 親族（原則として3親等まで）の葬儀により受験ができなかった者。
- ③ 公認サークルの公式戦に選手として参加することにより受験ができなかった者。
- ④ 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）や就職活動（説明会、筆記試験、面接等）により受験ができなかった者。
- ⑤ 単位互換科目（大学コンソーシアム京都科目、環びわ湖大学・地域コンソーシアム科目）、放送大学科目の試験により受験ができなかった者。
- ⑥ インターンシップ（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）により受験ができなかった者。
- ⑦ 交通機関の遅延等により受験ができなかった者。
- ⑧ 交通事故や災害等により受験ができなかった者。
- ⑨ 裁判員制度による裁判員（候補者）に選任されたことにより受験できなかった者。
- ⑩ 短期大学部実習科目受講により4年制学部定期試験の受験ができなかった者。
- ⑪ その他、学部教授会が特に必要と認めた者。

追試験受験希望者は、追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内）に理工学部教務課窓口へ提出しなければなりません。

交通遅延証明書のうち、Web発行によるものは本人が乗車したことを証明するものではありませんので、欠席理由の証明書として、本学では取扱いできません。

交通遅延証明書は従来通り、「本人が乗降した際に各駅にて受け取るができるもの」のみを証明書として取扱います。

なお、定期試験当日、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に理工学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

(2) 追試験の受験料は、1科目1,000円です。

(3) 実技・実習科目、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。

詳細については、定期試験前に理工学部掲示板にて確認してください。

12. 筆答試験時間

(1) 筆答試験時間割は、原則として試験の14日前に掲示およびポータルにより発表します。

試験時間は、次のとおりです。

講 時	開始時刻	終 了 時 刻	
		右記以外の全科目 (60分)	理工学部固有科目 (学部内共通科目) (学科固有科目) (90分)
1 講時	9 : 20	10 : 20	10 : 50
2 講時	11 : 10	12 : 10	12 : 40
3 講時	13 : 30	14 : 30	15 : 00
4 講時	15 : 20	16 : 20	16 : 50
5 講時	17 : 10	18 : 10	18 : 40

Ⅵ 教育支援

理工学部には、学修に関することから学生生活まで、さまざまなサポート体制があります。ここでそのいくつかを紹介しますので、積極的に利用してください。

1. 学科の委員

理工学部では、学科毎に教員が諸委員を担当して、学科の運営にあたっています。以下に、みなさんに関わりの大きい委員を紹介しますので、それぞれに関わる事について、なんでも相談してください。(各委員は1年毎に変更されます。担当教員は掲示します。)

担 当	担 当 内 容
学 科 主 任	総合的に学科の運営を担当します。
教 務 委 員	学科の授業運営を担当します。 時間割の作成や履修説明会なども行います。2名の教員が担当します。
学 生 生 活 委 員	学修以外の学生生活について、学生部と連携して担当します。
就 職 担 当 委 員	就職活動について、キャリアセンターと連携して担当します。2名の教員が担当します。
学外実習実施委員	3年次生配当科目「学外実習（キャリア実践実習）」の運営を担当します。

2. クラス担任制

入学してから各研究室に配属されるまで、全学生に対してクラス担任を配置します。どんなことでも気軽に相談してください。新入生オリエンテーションでのクラス会をはじめとして、定期的に開催し、学修相談・懇親交流を行います。また、食事会を実施するクラスもあり、学科全体の懇親会なども開かれます。

3. 教員との面談

理工学部の専任教員との面談は、各自で行うようにしてください。また、在室時間は、各研究室のドアのスケジュールシートを参考にしてください。

学科によっては、学科のHPに各教員のスケジュール表が示されています。

他学部の教員との面談も、各自で行うようにしてください。研究室の所在や出校日などは理工学部教務課窓口で問い合わせてください。

非常勤の教員は、担当授業の曜講時以外は出校しておられませんので、できるだけ、授業の際に直接申し出てください。

教員によっては、オフィスアワーを実施している場合がありますので、そちらも利用してください。

4. T.A.制度

ほとんどの実験・実習科目に、大学院生などによるT.A. (Teaching Assistant) を配置し、教員と連携して、少人数による双方向・対話型のきめ細かな指導を行っています。

5. チューター制度

授業で十分に理解できなかった内容や、高校までの基礎的な内容など、学修に対する相談に大学院生などが個別に対応してくれます。チューターには、決められた時間・場所で待機している常駐型と、個人指導の個別型があります。常駐型の実施日時は掲示板等でお知らせします。個別型については、教務委員に相談してください。

6. 理工学部初年次学習支援センター

「理工学部初年次学習支援センター」を開設し、外部講師・上級生が理工系基礎科目「数学・物理」を中心とした学習指導・学習相談を実施しています。

開設場所・開設時間等、詳細については、オリエンテーションおよび掲示板等でお知らせいたします。

7. L.A.制度

計算機実習室での自習をサポートするために、学生によるL.A（Learning Assistant）を配置しています。

8. ライティングセンター

当センターは、学生のみなさんにおけるアカデミックライティングの技術を向上させるための機関です。具体的には、卒業論文・卒業研究、レポート、ゼミ発表のほか、書くことに関する相談を受けつけます。何からはじめればいいのかわからないときや行き詰ったときなど、下記の開室期間を参照のうえ、自由に利用してください。相談には、本学各学部の大学院生など、みなさんの先輩にあたるスタッフが応じますので、本学に合った的確なアドバイスが受けられます。

◆場 所 智光館地下1階（生協コンビニ下）

◆開室日時 月・水・金 11：30～16：00（授業実施期間中）

9. その他

カウンセリングを行う学生相談室や、セクシュアル・ハラスメントに関する相談員も配置しています。

各相談窓口がわからない場合は、理工学部教務課窓口へ問い合わせてください。

教 育 課 程

I 理工学部の教学理念と教育目標

理工学部は、日本の仏教系大学では初めての自然科学系学部で、情報化と国際化が著しい現代において、**科学と人間の調和**を最も重視し、技術の高度化のみならず精神文化の豊かさに対し貢献できる科学技術者の育成を教学の理念としています。

20世紀において科学技術は大きな発展を遂げ、われわれの生活に多大の貢献をしてきましたが、同時に環境に対して大きな負荷を与え、また精神文化や倫理にも少なからず影響を与えてきました。特に、科学技術に携わる人材の倫理観の欠如は、大きな社会的問題を引き起こしています。本学設立の基礎である仏教の思想と高い倫理性を基礎におき、最新の科学技術の高度な専門知識を備え、21世紀の社会に大いに貢献できる有為な人材を育てることこそ本学理工学部に与えられた使命であり、存在価値であります。

自然を学ぶことから出発した**理学**と、人間生活の向上に資することを目的とした**工学**とは引き離すことのできない自然科学の2大分野であり、共に急速に発展しています。これら最新の理学と工学を融合させることにより、新しい視点に立った学問の道を開き、若い世代に教育していくことによって、時代の要請にかなない先端技術の発展に寄与し得る人材を育成することを理工学部の目標としています。このため、基礎から応用までバランスがとれ、科学全体を総合した教育課程を構成しています。

教養教育科目

人間性を高めるため、入学初年度に**仏教の思想**を必須科目として設定しています。また、他学部との共同開講である**教養科目**（**スポーツ科学**を含む）の受講を義務付け、科学偏重や視野の狭い技術者にならないような配慮をしています。また、国際化に対応して系統的な**英語教育**を実施し、その他の外国語の履修の機会や**倫理教育科目**を設定しています。

学部固有科目

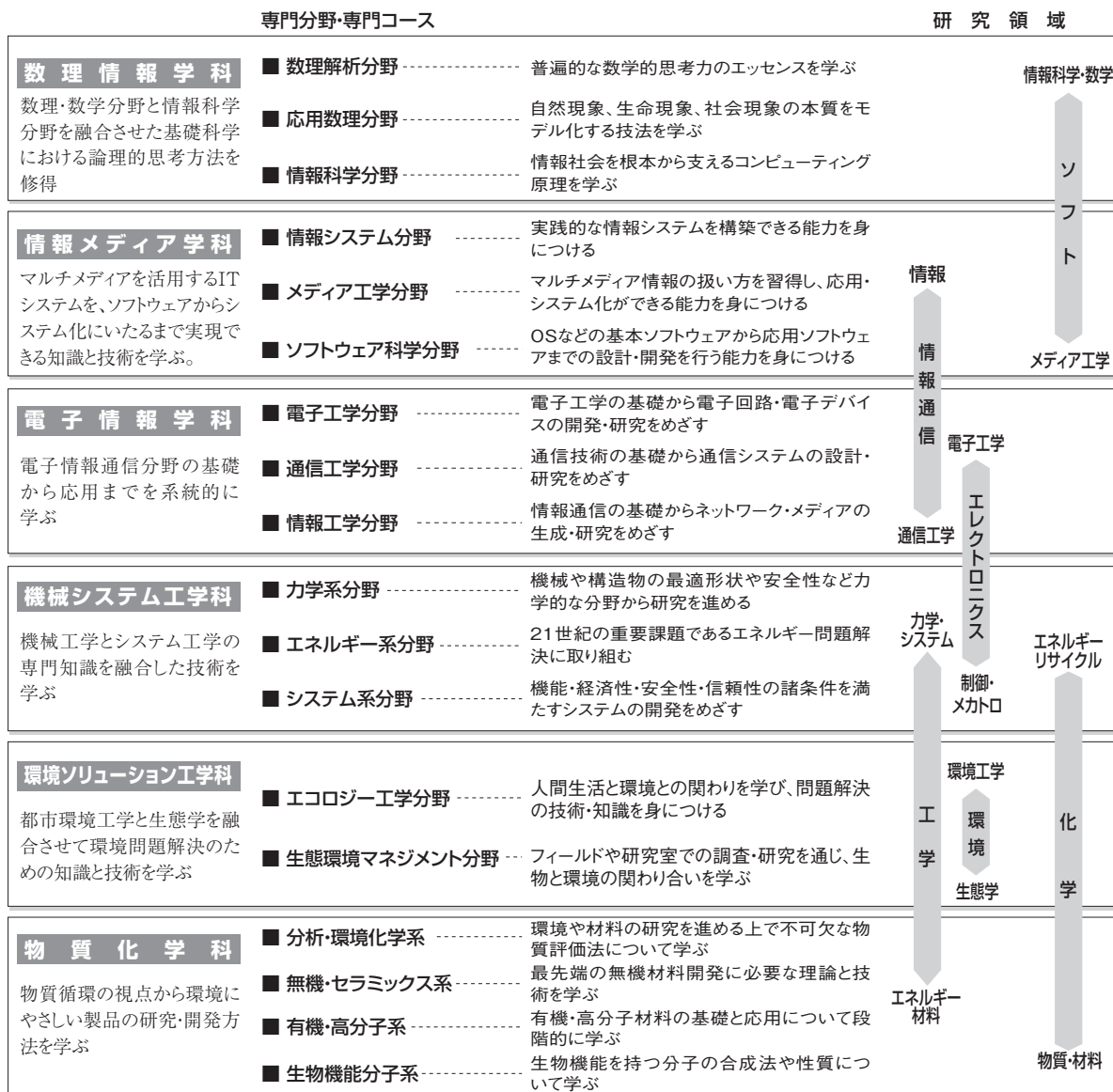
<学部内共通科目>

学部共通の基礎教育として、実践力のある技術者・研究者としての基礎を確立するために、情報リテラシー教育を含むコンピュータ関連科目を基礎から応用まで段階的に用意して、専門的な計算機実習、理工学基礎実験（物理実験）、学外実習や総合実習・特別演習を学部内共通の必修または選択必修科目とし、**基礎技術**の強化を行っています。

<学科固有科目>

専門科目については、各学科の特性に合わせたカリキュラムが編成されています。現代の自然科学を代表するキーワードは、「**情報**」「**システム**」「**エネルギー**」「**材料・物質**」「**環境**」です。これらを軸として、**数理情報学科**では数理科学と情報科学が、**情報メディア学科**では情報科学とメディア工学が、**電子情報学科**では電子工学と情報通信工学が、**機械システム工学科**では機械工学とシステム工学が、**環境ソリューション工学科**では都市環境工学と生態学が、**物質化学科**では材料・物質と化学が、それぞれ組み合わせられた専門課程のカリキュラムが編成されています。さらに、個々の科目の内容を統合し応用する力を育てるために、**卒業研究**を高単位の必修科目とし、極めて重要視しています。なお、科目選択の幅を広げるため、制限内で他学科の科目の履修も認めています。

学科構成図



教育課程
 教育課程
 編成方法

科学技術は日進月歩であり、社会が求める人材も変化して行きます。一旦設定した教育内容も時代の要請に応じて変化させていかなければなりません。理工学部が設立当時より継続している**学外実習**は、学生を企業に派遣し実習を行わせるものですが、学生自身が実社会において使われている最先端技術を知り、勉学の必要性を実感すると共に、社会が求めている人材や備えるべき知識についての情報を企業等から直接得る良い機会となります。また、企業との**共同研究**から得られる情報も大切です。これらの情報を基に、学生に付与すべき知識を見直しカリキュラムに反映していくことで、常に社会のニーズに即した教育内容となり、実践力をもつ人材を育てることができます。

同時にキャリア教育にも積極的に取り組み、将来に対する意識の啓発等のために「キャリアデザイン」と「キャリアプランニング」を開講しています。

幼少時代から科学技術に関する興味を持たせ、科学者の芽を育てていくことも大切です。理工学部では教職につく人材の育成にも努力しています。学科によって中学校教諭一種免許（数学・理科）、および高等学校教諭一種免許（数学、情報、工業、理科）を取得することができます。

Ⅱ 機械システム工学科の教学理念と教育目標

教育理念

機械システム工学科は、技術と人間の調和を最も重視しながら、H³:頭脳 (Head)、心 (Heart)、手 (Hands) を通じた新しい技術の創造と高度化ができる技術者の育成を教学の理念とする。

教育目標

○機械システム技術者として必要な幅広い教養と機械工学分野およびシステム工学分野の専門知識を縦横無尽に駆使することで新たな問題を発見・解決し、複雑に多様化しながら変革していく社会に柔軟に対応する実践的技術者を育成することを目標とする。

○人文社会や自然科学からなる基礎的教養と情報と情報処理手段の活用能力を身につけることにより、能動的に社会に貢献できる幅広い視野と倫理観を修得することを目標とする。

○個別の科学技術の向上を扱う従来からの機械工学分野および全体的な視点を持つシステム工学分野をバランス良く学修することにより、それらの学問に立脚した“ものづくり”のできる創造的思考能力を体得することを目標とする。

○生涯学習体系に備えた社会や地域に開かれた教育システムとすることで、自主的な問題発見・解決能力、設計・創造能力を持った地域社会の活性化に貢献できる機械システム技術者を育成することを目標とする。

教育カリキュラム

○演習や実験などの実学を重視し、実践的、体験的に学べる施設を用いて、五感を駆使した機械システム工学の学修を実践することで、感動と臨場感のある理解を達成する。

○学生の人格を尊重し、個性や能力が発揮できる教育を目指し、教員と学生間の人格的接触を緊密にし、人間としてのモラルを身につけ、積極的な人格形成や勉学に対する動機付けを促すとともに、相互のコミュニケーションによる創造の精神の涵養に勤める。

【基礎科目】

○英語、数学、理科の基礎的科目を設置し、数学では特に微分積分学、理科では物理学（力学）に重点を置いている。微分積分学においては、講義に引き続き演習時間を設け、講義内容の理解を深めることができる。

○物理実験においては、実験を通じて物理現象を観察する目を養うことのみならず、実験機器の取り扱い方やレポートの書き方など将来に役立つ基本的事項について学修する。

○大学の講義の修得が困難な学生に対して、「基礎数学」や「基礎物理学」といったリメディアル科目も設置している。

【専門科目】

○機器の分解・組立実習などを通して初年度より機械システム工学に興味をもつことができるよう「機械システム工学入門」を新設した（2014年度以降入学生）。

○機械工学分野では、「材料力学」、「熱力学」、「流体力学」、「機械材料学」、「機械加工学」、「材料強度学」、「機械力学」（2014年度以降入学生）、「振動工学」（2007～2013年度入学生）、「流体力学」、「熱工学」、「伝熱工学」などを体系的に学修する。

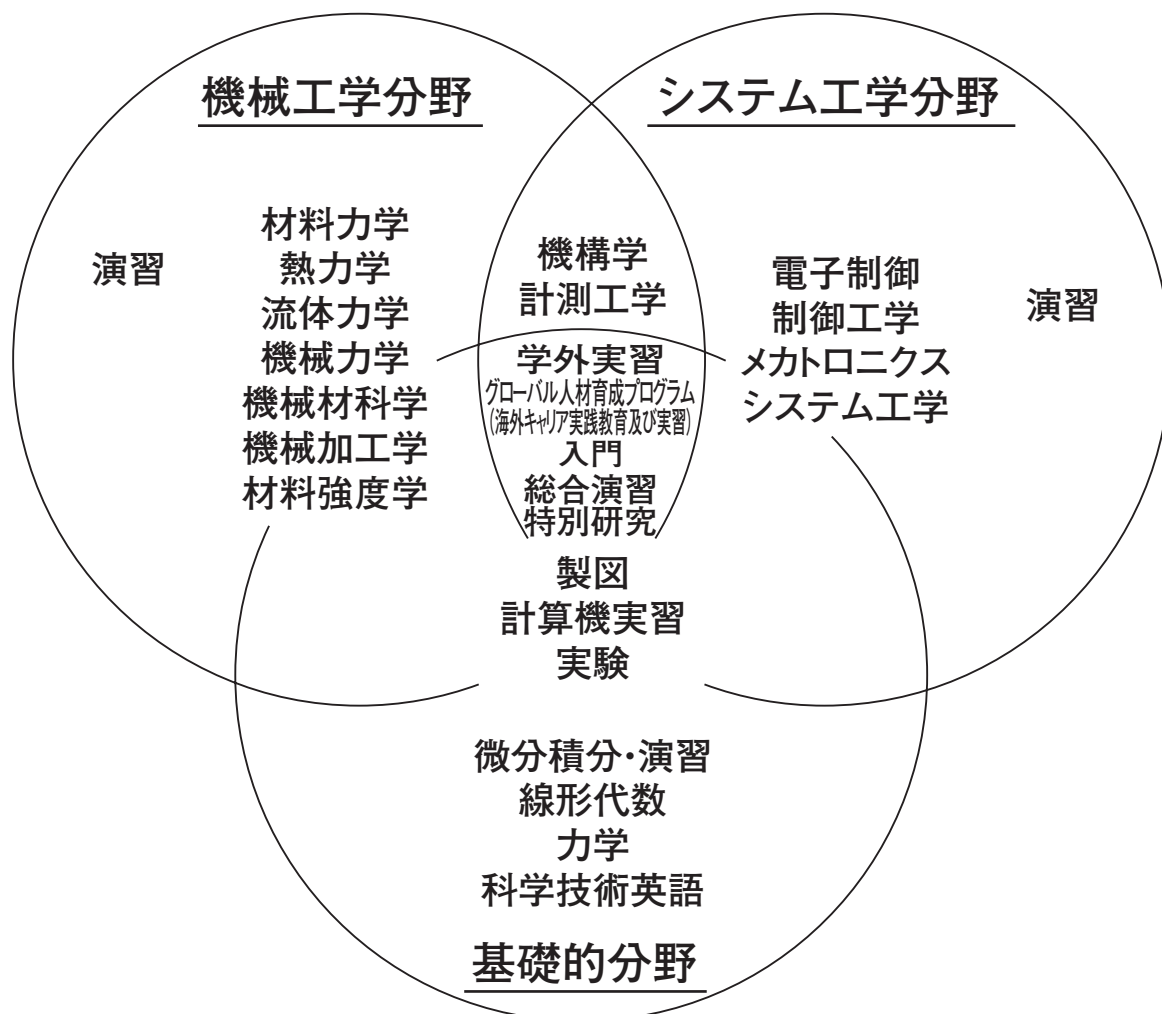
○システム工学分野では、「電子制御」、「制御工学」、「機構学」、「システム工学」、「メカトロニクス」、「計測工学」などを体系的に幅広く学修する。

○「材料力学・機械力学演習」（2014年度以降入学生）、「材料力学演習」（2007～2013年度入学生）、「熱・流体演習」、「電子・制御演習」を通して、機械工学分野とシステム工学分野の基礎的能力を身につける。

○実学である「機械製図」、「要素設計」、「設計製図」などを通して“ものづくり”の基礎を修得し、「計算機実習」では情報収集・データ分析、実践的な情報の活用能力を身に付ける。

○「機械システム工学総合演習」や「機械システム工学実験」を通して、機械システム工学の専門知識の理解を深め、問題発見・解決のための基礎的能力を養う。

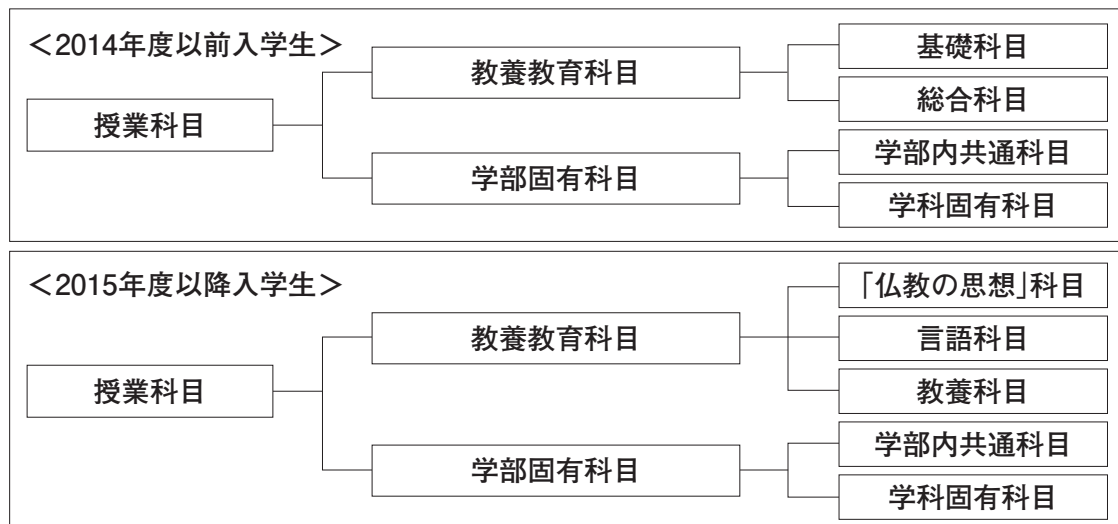
○「学外実習」（2007～2008年度入学生）、「学外実習（キャリア実践実習）」（2009年度以降入学生）、「グローバル人材育成プログラム」（2011年度以降入学生）「海外キャリア実践教育及び実習」（2009年度～2010年度入学生）や「特別研究」を通じて自己啓発・自己管理能力、コミュニケーション能力を養成するとともに、問題発見・解決のための実践的能力を養う。



III 教育課程の編成・履修方法

1. 授業科目の区分

理工学部教育課程（カリキュラム）の編成は、「教養教育科目」「学部固有科目」から編成されています。さらに、教養教育科目は、2014年度以前入学生は「基礎科目」「総合科目」、2015年度以降入学生は「『仏教の思想』科目」「言語科目」「教養科目」で編成され、学部固有科目は「学部内共通科目」「学科固有科目」で編成されます。これらの分類のことを授業科目の区分といいます。



(1) 教養教育科目

教養教育科目は、学部固有科目との有機的な結びつきのもとに、幅広い教養と総合的判断力を養うことを目的とし開講しています。瀬田学舎の3学部が共同して開講します。

(2) 学部固有科目

学部固有科目は、専門領域に関する授業科目であり、理工学部共通の基礎教育を行う学部内共通科目と、各学科専門分野の基礎および応用を教育する学科固有科目に分類されます。

2. 必修科目・選択必修科目（基幹科目）・選択科目・随意科目

すべての授業科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目のいずれかに指定されています。

(1) 必修科目

卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

(2) 選択必修科目（教養教育科目では基幹科目に該当）

指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。なお、数理情報学科では「コア選択必修科目」と呼びます。

(3) 選択科目

どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件として定められた単位数は修得する必要がある、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。

(4) 随意科目

単位の認定はされますが、卒業要件の単位数には含まれない科目です。各種の資格取得にかかわる科目等が該当します。

①教養教育科目の履修方法 【2015年度以降入学生】

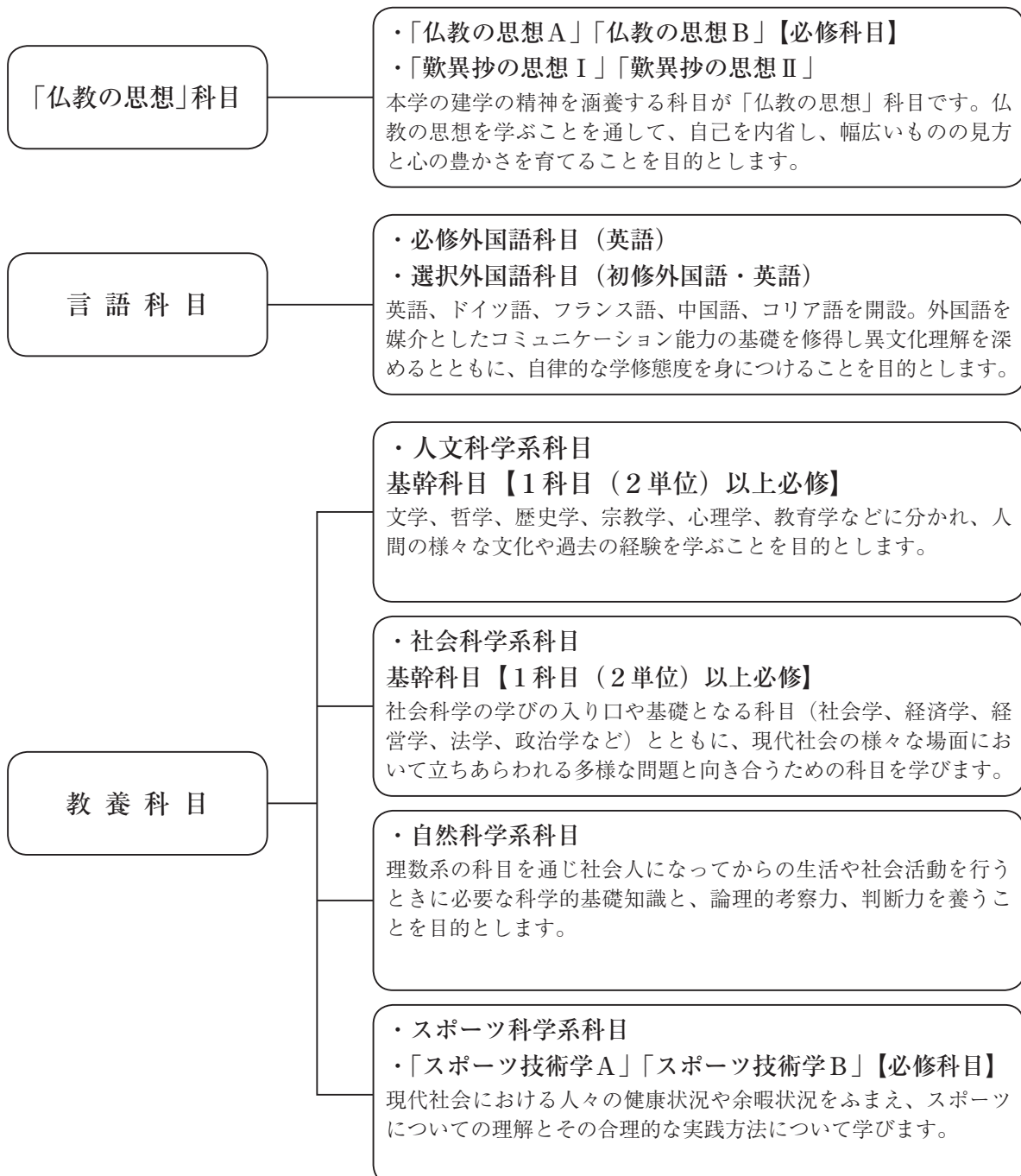
1. 教養教育とは

(1) 教養教育の理念・目的

本学の教養教育は、人間の根源的な問いからその内面を見つめる思考の幅を広げ、人間をとりまく多様な世界を知ることを通じて、自己を確立できる人間の育成を目指して開講されています。このため、建学の精神に基づく高い倫理性や豊かな人間性ととともに、知性・感性を兼ね備え、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成、つまり、幅広い知識と知的な諸技法の習得に基づく論理的思考力や判断力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する力と、国際的なコミュニケーション能力をもった「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としています。

(2) 教養教育科目とは

本学の教養教育は、「仏教の思想」科目・言語科目・教養科目の3つの科目区分で構成されており、これら全体を教養教育科目とよびます。



1. 必修科目の履修について

「教養教育科目」として開設している科目の中から、次表に示す科目を必修科目として合計16単位を履修しなければなりません。

科目区分	科目名	各単位数	合計単位数
「仏教の思想」科目	仏教の思想A、仏教の思想B	各2単位	4単位
言語科目	英語ⅠA、英語ⅠB、英語ⅡA、英語ⅡB、英語Ⅲ、英語Ⅳ	各1単位	6単位
教養科目			
人文科学系科目	選択必修科目として定める各科目（基幹科目）	1科目（2単位）以上	2単位以上
社会科学系科目	選択必修科目として定める各科目（基幹科目）	1科目（2単位）以上	2単位以上
スポーツ科学系科目	スポーツ技術学A、スポーツ技術学B	各1単位	2単位

（1）仏教の思想の履修について

「仏教の思想」科目区分のうち、「仏教の思想A、B（各2単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりません。詳細は本ページ以降の説明をよく読んでください。

（2）英語の履修について

「言語科目」区分のうち、必修外国語として英語6単位を履修しなければなりません。配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次学期以降再履修しなければなりません。詳細は本ページ以降の説明をよく読んでください。

（3）教養科目の履修について

「教養科目」区分のうち、「人文科学系科目」「社会科学系科目」に設置されている「基幹科目（学びの入門となる科目や諸学の基本を学ぶ科目）」の中から各1科目（2単位）以上を履修してください。（選択必修となります）

（4）スポーツ技術学の履修について

「スポーツ技術学A、B（各1単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降再履修しなければなりません。詳細は本ページ以降の説明をよく読んでください。

●「仏教の思想」科目について

「仏教の思想」科目では、1年次の必修科目「仏教の思想A」「仏教の思想B」と、2年次以降の選択科目「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」が開設されています。ここでは「仏教の思想」を中心に説明します。

（1）目的と意義

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的としています。「仏教の思想」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で1年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。この「仏教の思想」を平易に理解するために、次のような教育目標を掲げています。

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。
2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。
4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。
6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

(2) 履修方法について

①必修科目

「仏教の思想A」「仏教の思想B」は必修科目です。配当されたセメスターにおいて必ず受講してください。

②単位認定

「仏教の思想A」「仏教の思想B」はそれぞれ独立した科目で、単位認定は別々に行われます。

③クラス指定

授業内容の系統性を確保するため、「仏教の思想A」「仏教の思想B」は同一の授業担当者になります。学部指定やクラス指定を行っていますので、時間割の指示にしたがって履修登録してください。

④再履修

配当されたセメスターで不合格となった場合は、次の年次において再履修してください。なお、この場合は上記③（同一の授業担当者による受講およびクラス指定）は適用しません。

また、3年次以上は、同一セメスターで、A・Bを同時履修することが可能です。

<同時履修例>

学 期	科目名
第1学期（前期）	「仏教の思想A」・「仏教の思想B」（再履修）
第2学期（後期）	「仏教の思想B」・「仏教の思想A」（再履修）

●言語科目について

言語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語、日本語（留学生のみ対象）が開設され、必修外国語科目と選択外国語科目とに区分されます。言語科目のうち、必修外国語科目（英語）6単位を必ず修得してください。なお、6単位を越えて修得した単位数は、教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

(1) 目的と意義

外国語教育では、母語とはまったく異なる言語に接することで、母語に基づいた思考様式とはまったく異なった思考様式に対する認識・理解を深めることができます。また、これにより、外国の文化、芸術、社会におけるさまざまな伝統や価値観をより深く理解する能力も養われます。さらにそれは、日本語を客観的にながめ、自らの日本語能力を見直すよい機会ともなるでしょう。このような意味で、外国語教育は大学生活に必須の学問的基礎訓練の一環となっています。こうした目標を達成するには、地道な努力の継続が欠かせないこと、また、教室外での自発的な研修も必要であることを心に留めておいてください。

[英語科目]

●英語（必修科目）科目の到達目標

辞書を使いながら標準的な語彙を用いた文字または音声による英語の内容を的確に捉えられるようにします。さらに、正確な情報を把握するために基本的な文法構造と語彙を習得します。

1年次では主に英語受信能力の向上に焦点を置き、2年次では発信能力の育成も視野に入れながら、英語の4技能の充実をはかります。さらに2年間の必修を終えた後、3年次以降にも英語継続学習の動機付けを行います。

●英語セミナー（選択科目）の到達目標

英語セミナーは、必修科目で養った基礎的な運用能力のレベルアップをはかるとともに、個々のニーズに合わせた英語運用能力の向上を目指します。例えば専門分野での学習や留学に対応できるように、知的情報の受信発信能力のさらなる向上を目標とします。

[初修外国語]

本学では、英語以外の外国語で、歴史的・社会的・文化的に見て重要な言語の中からドイツ語、フランス語、中国語、コリア語の4言語を「初修外国語」として開講しています。

英語以外の外国語を学ぶことによって、その運用能力を身につけるとともに、言語一般の普遍的構造や機能に対する理解を深め、世界を複眼的に考察する視点を養います。

必修外国語科目（英語）、選択外国語科目の履修方法および教育内容は次のとおりです。

(2) 必修外国語科目（英語）の履修について

本当に使える外国語の力を身につけたいといった要望に応え、「読む・聴く・話す・書く」といった技能のレベルアップを図るとともに、国際社会において確固とした判断・主張・行動ができるための素地の育成をめざします。

① 開講科目

科目	開講	科目概要	履修方法	再履修
英語ⅠA、ⅠB	1セメ	基礎的な英語力の見直し	クラス指定が行われます。指定された科目を履修登録してください。	各科目の次の開講 Semester から再履修が可能です。予備登録を行い、履修を行ってください。
英語ⅡA、ⅡB	2セメ	「Ⅰ」を発展させた基礎力の強化		
英語Ⅲ	3セメ	「Ⅰ、Ⅱ」をもとに4技能(Reading、Writing、Speaking、Listening)の		
英語Ⅳ	4セメ	さらなる養成		

②習熟度別クラス編成について

必修外国語である英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、英語圏の文化に対する理解および情報伝達のための英語力（読む、書く、聴く、話す）の総合的向上を図るために、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。習熟度別クラスについては、入学時に実施する英語クラス編成テスト（プレースメントテスト）の得点結果によって編成します。

③再履修

必修外国語科目（英語）が不合格になった場合は、再履修科目を履修しなければなりません。

「英語（再）」は予備登録が必要となります。

履修方法等については、各学期の履修指導期間にポータル等で周知しますので、希望の曜講時を選択し登録してください。なお、クラスは受講者数が均等になるように大学で割り振りしますので、受講予定者自身が授業担当者（クラス）を選択することはできません。不合格となった科目数しか履修は認められませんのでご注意ください。

(3) 選択外国語科目の履修について

選択外国語科目には、新しい言語にチャレンジするための入門科目と発展科目であるセミナー科目が開設されています。より高度な運用能力（読む・聴く・話す・書く）の向上を図るとともに、そのことばが用いられている国・地域の文化的、社会的事情について理解を深めることをめざします。

① 開講科目

開講科目は下記のとおりです。

	1年次		2年次	
	1セメ	2セメ	3セメ	4セメ
初修外国語 ・ 初修外国語セミナー	ドイツ語ⅠA、ⅠB フランス語ⅠA、ⅠB 中国語ⅠA、ⅠB コリア語ⅠA、ⅠB	ドイツ語ⅡA、ⅡB フランス語ⅡA、ⅡB 中国語ⅡA、ⅡB コリア語ⅡA、ⅡB	ドイツ語セミナーA フランス語セミナーA 中国語セミナーA コリア語セミナーA	ドイツ語セミナーB フランス語セミナーB 中国語セミナーB コリア語セミナーB
英語セミナー	英語セミナーA 1	英語セミナーA 2	英語セミナーB 1 英語セミナーC 1 英語セミナーD 1 英語セミナーE 1 英語セミナーF 1	英語セミナーB 2 英語セミナーC 2 英語セミナーD 2 英語セミナーE 2 英語セミナーF 2

② 履修方法

選択外国語科目は全て予備登録が必要となります。

履修方法等については、各学期の履修指導期間にポータル等で周知しますので、希望の曜講時を選択し登録してください。

③ 先修制

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された科目（単位）を修得していなければ、その科目を履修することができない制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

選択外国語科目には下記のとおり先修制が定められていますので履修には注意が必要です。

先修制授業科目等	履修の要件となる授業科目名および単位
ドイツ語セミナー A、B	「ドイツ語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB」の中からいずれかの1単位の修得
フランス語セミナー A、B	「フランス語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB」の中からいずれかの1単位の修得
中国語セミナー A、B	「中国語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB」の中からいずれかの1単位の修得
コリア語セミナー A、B	「コリア語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB」の中からいずれかの1単位の修得

2. 学科指定・クラス指定

必修科目は、学科指定もしくはクラス指定がありますので別途指示に従って履修登録してください。

3. 教養教育科目の予備登録について

教養教育科目のうち、下記の科目は、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。この予備登録は、通常の履修登録に先立って行われます。予備登録の結果発表にしたがって履修登録を行ってください。

予備登録を行う際は、学期ごとに定められている履修登録制限単位数に基づき、履修計画をたてた上で、予備登録を行ってください。

- ① 「英語（再）」
- ② 「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「コリア語」の各選択外国語科目。
- ③ 「英語セミナー」、「ドイツ語セミナー」、「フランス語セミナー」、「コリア語セミナー」の各科目。
- ④ 「自然観察法」
- ⑤ 「スポーツ技術学A、B（再）」※通常の予備登録とは異なる方法で行います。

予備登録の結果、受講が許可された科目は、Web履修登録画面にあらかじめ確定した状態で表示されます。その場合、登録の取消はできませんので注意してください。

(1) 予備登録の方法

本学ホームページの「ポータルログイン」から、Web予備・事前登録画面にアクセスの上、希望科目を選択します。予備登録期間履修方法等については、各学期の履修指導期間にポータルおよび掲示板等で周知しますので必ず確認してください。

(2) 予備登録にあたっての注意事項

- ①第1学期(前期)予備登録は、第1学期(前期)および通年開講科目のみ予備登録対象となり、第2学期(後期)予備登録は、第2学期(後期)開講科目が予備登録対象科目となります。ただし、4年次生以上は通年登録(年1回登録)のため、第2学期(後期)開講科目についても第1学期(前期)に予備登録を行ってください。
- ②各年次について定められている履修登録制限単位数の範囲で予備登録をしてください。
- ③重複登録(同一曜講時に2科目以上の予備登録をすること)、二重登録(すでに所定単位を修得した授業科目を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること)をした場合、当該科目はすべて無効となります。

4. 教養科目について

教養科目は、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」「スポーツ科学系科目」の4つの系列に分類されており、各系列から偏りなく履修することを通じ、幅広い教養を身につけることを可能にしています。全ての教養科目は自由に選択できますが、選択必修として「人文科学系科目」「社会科学系科目」に設置されている基幹科目(学びの入門となる科目や諸学の基本を学ぶ科目)の中から各系列ごとに1科目以上(2単位以上)修得する必要があります。

(1) 人文科学系科目

人文科学は、人間の様々な文化や過去の経験を研究する学問領域で、大きくは文学、哲学、歴史学、宗教学、心理学、教育学などに分かれます。人文科学系科目では、先入観や偏見から自由になってものごとを考える力、芸術作品を鑑賞する能力、感情や意見の表現の仕方、人間の心理を理解する方法などを身につけることを目的にしています。

(2) 社会科学系科目

社会科学(社会学、経済学、経営学、法学、政治学など)は、絶えず変動し複雑さを増す現代社会を広く見渡すとともに、現代社会の諸問題を多角的に捉え、思考・判断する力を養います。そのために、様々な学問分野が培ってきた「ものの見方」や「考え方」、さらには幅広い知識や知的な諸技法を学びます。

(3) 自然科学系科目

自然科学は社会生活を送るうえで重要な分野の一つをなしています。社会人になってからの生活や社会活動の際に必要な科学的基礎知識と、論理的考察力、判断力を養います。数学、情報科学、物理学、天文学、科学史、地球科学、生物学、環境学、化学などの主要分野をカバーする科目を開設します。

(4) スポーツ科学系科目

生涯にわたり健康で文化的な生活の基礎を築くとともに、文化としてのスポーツに対する理解を促し、現代社会におけるスポーツの役割や人間の身体がもつ可能性について考える機会とするための科目を設定しています。具体的には実際にスポーツや身体活動を行う実習科目や行動変容を促す講義科目を開設します。

◆「スポーツ技術学」の履修について

「スポーツ技術学A、B（各1単位）」は、必修科目です。配当された学期において必ず履修してください。

①履修方法

科目	開講	履修方法	再履修
スポーツ技術学A	1セメ	入学式当日に提出された「種目調査票」に基づきクラス指定を行います。指定されたクラスを履修登録してください。	ポータルで周知を行います。通常のWeb予備登録とは異なるスケジュールとなるので必ずポータル等を確認してください。
スポーツ技術学B	2セメ		

②再履修

スポーツ技術学A、Bが不合格になった場合は、当該科目を再履修しなければなりません。

「スポーツ技術学A、B（再）」は予備登録が必要となりますが、通常のスケジュールや運用とは異なります。履修方法等については、ポータル等で周知しますので、必ず確認を行ってください。

5. 日本語科目等（留学生対象科目）について

留学生を対象に、「日本語」を開講しています。
履修・登録にあたっては必ず理工学部教務課窓口で相談してください。

科目名	単位	配当年次	履修単位の取扱い
日本語	1	1年次以上	教養教育科目の選択科目として認定

設置科目 【2015年度以降入学生】

◎は必修科目 ●は選択必修科目（基幹科目） ○は選択科目

科目区分	授業科目名	単位数	科目属性	配当年次			
				1年次		2年次	
				前	後	前	後
「仏教の思想」科目	仏教の思想A	2	必修	◎			
	仏教の思想B	2	必修		◎		
	歎異抄の思想Ⅰ	2				○	
	歎異抄の思想Ⅱ	2					○
言語科目	英語ⅠA	1	必修	◎			
	英語ⅠB	1	必修	◎			
	英語ⅡA	1	必修		◎		
	英語ⅡB	1	必修		◎		
	英語Ⅲ	1	必修			◎	
	英語Ⅳ	1	必修				◎
	英語セミナー A1	2		○			
	英語セミナー A2	2			○		
	英語セミナー B1	2				○	
	英語セミナー B2	2					○
	英語セミナー C1	2				○	
	英語セミナー C2	2					○
	英語セミナー D1	2				○	
	英語セミナー D2	2					○
	英語セミナー E1	2				○	
	英語セミナー E2	2					○
	英語セミナー F1	2				○	
	英語セミナー F2	2					○
	海外英語研修	2	■			○	
	ドイツ語ⅠA	1		○			
	ドイツ語ⅡA	1			○		
	ドイツ語ⅠB	1		○			
	ドイツ語ⅡB	1			○		
	フランス語ⅠA	1		○			
	フランス語ⅡA	1			○		
	フランス語ⅠB	1		○			
	フランス語ⅡB	1			○		
	中国語ⅠA	1		○			
	中国語ⅡA	1			○		
	中国語ⅠB	1		○			
	中国語ⅡB	1			○		
	コリア語ⅠA	1		○			
コリア語ⅡA	1			○			
コリア語ⅠB	1		○				
コリア語ⅡB	1			○			
ドイツ語セミナー A	2				○		
ドイツ語セミナー B	2					○	
フランス語セミナー A	2				○		
フランス語セミナー B	2					○	
中国語セミナー A	2				○		
中国語セミナー B	2					○	
コリア語セミナー A	2				○		
コリア語セミナー B	2					○	
日本語	※	1		○			

科目区分	授業科目名	単位数	科目属性	配当年次			
				1年次		2年次	
				前	後	前	後
人文科学系科目 教養科目	哲学入門	2	選必	●			
	倫理学入門	2	選必	●			
	クリティカル・シンキング	2	選必	●			
	西洋の文学A	2	選必	●			
	西洋の文学B	2	選必			●	
	宗教学のすすめ	2	選必	●			
	宗教の世界	2	選必	●			
	日本の文学M	2	選必	●			
	日本の文学N	2	選必		●		
	言語学入門	2	選必	●			
	歴史入門	2	選必	●			
	日本の歴史M	2	選必	●			
	日本の歴史N	2	選必		●		
	アジアの歴史M	2	選必			●	
	アジアの歴史N	2	選必				●
	西洋の歴史M	2	選必	●			
	西洋の歴史N	2	選必	●			
	心理学入門	2	選必	●			
	教育原論A	2	選必	●			
	教育原論B	2	選必		●		
	学習・発達論A	2				○	
	学習・発達論B	2					○
	倫理学A	2				○	
	倫理学B	2					○
	日本の文化	2		○			
	心理学A	2				○	
	心理学B	2					○

教育課程
科 教養教育
目 育

科目区分	授業科目名	単位数	科目属性	配当年次				
				1年次		2年次		
				前	後	前	後	
教養科目 社会科学系科目	法学のすすめ	2	選必	●				
	日本国憲法	2	選必	●				
	政治学のすすめ	2	選必	●				
	社会統計学のすすめ	2	選必	●				
	社会学のすすめ	2	選必	●				
	地理学のすすめ	2	選必	●				
	経済学のすすめ	2	選必	●				
	社会調査のすすめ	2	選必	●				
	経営学のすすめ	2	選必	●				
	人権論A	2			○			
	人権論B	2				○		
	現代社会とメディア	2					○	
	現代社会と福祉	2					○	
	現代社会と法	2					○	
	環境と社会	2					○	
	平和学A	2					○	
	ジェンダー論	2					○	
	文化人類学	2					○	
	国際社会論	2					○	
	現代社会の諸問題	2					○	
	地域論	2					○	
	企業と会計	2					○	
	現代社会と労働	2					○	
	社会思想史	2					○	
	情報倫理	2					○	
	情報社会とメディア	2			○			
	教養科目 自然科学系科目	生活の中の数学★	2			○		
		生活の中の統計技術★	2			○		
		生活の中の化学◆★	2				○	
生活の中の物理★		2				○		
生活の中の生物学★		2			○			
生活の中の地学		2				○		
生命と科学★		2					○	
里山学		2			○			
科学技術史		2			○			
現代の技術		2				○		
自然観察法		2					○	
雑草学		2				○		
環境と人間A		2					○	
環境と人間B		2					○	
情報と人間		2				○		
スポーツ系科目		スポーツ技術学A	1	必修		◎		
		スポーツ技術学B	1	必修			◎	
		健康とスポーツ	2			○		
		現代社会とスポーツ	2					○
教養教育科目 特別講義		教養教育科目特別講義	2				○	

⚠ 注意事項

- 各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です（一部例外あり）。
(例：1年次配当科目であれば、2年次以降生も受講可能)
- 上記配当セメスターに関わらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。
(各年度の開講セメスターは本学ホームページ〈<http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/risyu/>〉および時間割等で確認してください)
- 各開講科目は年度により不開講となる場合もあります。各年度での科目の開講状況は毎年度の時間割で必ず確認してください。
- 印の選択必修（基幹）科目は、人文科学系20科目のうち1科目（2単位）必修、社会科学系9科目のうち1科目（2単位）必修。
- ◆印「生活の中の化学」は物質化学科では履修不可。
- ★印の6科目のうち、卒業要件単位として認められるのは1科目2単位まで。
(余剰分はフリーゾーンにも計上されない)
- 印「海外英語研修」は1・2年次のみ履修可能。
- 同一の科目名で授業担当者が異なる場合でも同一科目として取り扱います。
よって、同じセメスターにおいて、2つ以上同時に履修することや一度単位認定された科目を再度履修することはできません。
- 同一の科目名でありながら、「〇〇A」「〇〇B」「〇〇M」「〇〇N」とある科目や「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」とある科目は、それぞれ独立した科目であり、いずれも卒業要件として認定されます。「〇〇A」という科目を修得していなくても、「〇〇B」の履修は可能です。なお、「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」の「I」「II」「III」は科目内容のグレードを表していますので、できるだけ順序だてて履修してください。
- ※印「日本語」は留学生対象科目
- 「教養教育科目特別講義」は複数の科目が開講されるが、卒業要件単位として認められるのは4科目8単位まで。

①教養教育科目の履修方法 【2008～2014年度入学生】

教養教育とは

(1) 教養教育の目的と意義

本学の教養教育は、建学の精神を具現化する高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ねそなえ、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成を目的として開講されています。

つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する総合的な判断力と、国際的なコミュニケーション能力を持った「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としており、その達成のために以下の目標を掲げています。

1. コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の向上
2. 歴史認識と社会認識に基づく自己の確認と自律
3. 学問や科学技術が問いかけている諸課題・問題の理解
4. 知的訓練ないし知的鍛錬

(2) 教養教育科目とは

本学の教養教育は、主に教養教育科目として提供されており、瀬田学舎では、基礎科目（6分野）と総合科目（「情報」「福祉」「国際」「環境」をキーワードとする）にわけて、学際的・系統的履修を可能にしています。

■基礎科目

「基礎科目」は、仏教、スポーツ、外国語、人文科学、社会科学、自然科学の各分野からなり、幅広く社会全体を見渡す知識や教養を深めるために、学部専門を問わず大学における学修の基礎となることを目的とする全学共通の授業科目です。幅広い分野の授業科目を可能な限り受講することをすすめます。

1. 必修科目の履修について

「基礎科目」として開設している科目の中から、以下の科目を必修科目として合計12単位を履修しなければなりません。

分野	科目名	単位数	合計単位数
仏教	仏教の思想A、仏教の思想B	各2単位	4単位
外国語	英語ⅠA、英語ⅠB、英語ⅡA、英語ⅡB、英語Ⅲ、英語Ⅳ	各1単位	6単位
スポーツ	スポーツ技術学A、スポーツ技術学B	各1単位	2単位

(1) 仏教の思想の履修について

「仏教の思想A・B（各2単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(2) スポーツ技術学の履修について

「スポーツ技術学A、B（各1単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

(3) 英語の履修について

必修外国語として英語6単位を履修しなければなりません。配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次学期以降再履修しなければなりません。この場合は、再履修クラスを予備登録後、履修してください。

●「仏教の思想」について

(1) 目的と意義

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通じて、自己をふり返り、幅広い物の見方と心の豊かさを育てることを目的としています。自己と現実世界を見つめる時間、それが「仏教の思想」の講義といってもいいでしょう。「仏教の思想」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で一年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。この「仏教の思想」を平易に理解するために、以下の教育目標を掲げています。

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実を見極める眼を育てる。
2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。
4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。
6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

●外国語科目の意義

大学における外国語教育の目的は、それぞれの外国語の運用能力を養うことだけではありません。母国語とは異質の言語に接することにより、各民族の思考様式を反映している言語にたいする認識を深め、外国の芸術、文化をより深く理解する能力を養うことがその目的です。

また、母国語との間に行われる訳解の日常作業は、外国語能力の養成のみならず、一般に論理的思考能力の錬磨のため伝統的に大きな役割を果たしてきました。さらにそれが日本語を客観的に眺め、学生が自分の日本語能力を検証し得る数少ない機会の一つとなっています。

これらが一体となって大学生活に必須とされる学問的基礎訓練の一環をなしています。この目標に近づくためには、大学の外国語教育に対する正しい理解を持つとともに、訓練にたえうる忍耐力、持続力が不可欠です。教室外での自発的研修ももちろん必要です。

＜習熟度別クラス編成について＞

必修外国語である英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、英語圏の文化に対する理解および情報伝達のための英語力（読む、書く、聴く、話す）の総合的向上を図るために、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。習熟度別クラスについては、入学時に実施する英語クラス編成テスト（プレースメントテスト）の得点結果によって編成します。

＜科目概要＞

英語ⅠA・ⅠB	基礎的な英語力の見直し
英語ⅡA・ⅡB	「Ⅰ」を発展させた基礎力の強化
英語Ⅲ・Ⅳ	「Ⅰ、Ⅱ」をもとに4技能（Reading、Writing、Speaking、Listening）のさらなる養成

2. 学科指定・クラス指定

必修科目は、学科指定もしくはクラス指定がありますので別途指示に従って履修登録してください。

3. 教養教育科目の予備登録について

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

- (1) 「スポーツ技術学A・B」は、予備登録が必要となります。別途指示に従ってください。
- (2) 「英語（再）」は、予備登録が必要となります。先着順となりますので別途指示に従ってください。
- (3) 「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」の各科目は、予備登録が必要となります。
- (4) 「英語セミナー」の各科目は、予備登録が必要となります。

4. 先修制について

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された科目（単位）を修得していなければ、その科目を履修することができない制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

＜先修制授業科目＞

- ① ドイツ語セミナーAもしくは、Bを履修するためには「ドイツ語IA・IB・IC・ID（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ② フランス語セミナーAもしくは、Bを履修するためには「フランス語IA・IB・IC・ID（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ③ 中国語セミナーAもしくは、Bを履修するためには「中国語IA・IB・IC・ID（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。
- ④ 韓国語セミナーAもしくは、Bを履修するためには「韓国語IA・IB・IC・ID（各1単位）」のいずれか1単位を修得していなければならない。

＜英語以外の外国語概要＞

ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語IA・IB	「未知なることば」への入門
ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語IC・ID	総合的な言語運用能力の獲得
ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語セミナーA、セミナーB	異文化へのアプローチ

■ 総合科目

「総合科目」は、21世紀のキーワードである『情報』・『福祉』・『国際』・『環境』を中心として、幅広い視野に立脚しつつ、現代のテーマ・問題・ニーズなどに対応した科目を開設しています。「基礎科目」は、主として分野によって科目を開設していますが、「総合科目」は、分野の枠組みを越えた科目群であり、「基礎科目」につづいてさらに幅広い視野をもち人間的に成長するために構成されたものです。「基礎科目」と同様にできるだけ多くの授業科目を履修し、在学期間中の自己研鑽に努めることを望みます。

5. 予備登録について（総合科目）

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

- (1) 「自然観察法」は、予備登録が必要となります。

6. 教養教育科目特別講義の履修について

総合科目群には、教養教育科目特別講義を開設しています。教養教育科目特別講義については、卒業要件として認めるものは、4科目8単位までとなりますので、履修の際は注意してください。

設置科目 【2008~2014年度入学生】

■基礎科目

科目名	単位数	配当年次			
		1年次		2年次	
		前	後	前	後
仏教の思想A	必修 2	○			
仏教の思想B	必修 2		○		
スポーツ技術学A	必修 1	○			
スポーツ技術学B	必修 1		○		
英語ⅠA	必修 1	○			
英語ⅠB	必修 1	○			
英語ⅡA	必修 1		○		
英語ⅡB	必修 1		○		
英語Ⅲ	必修 1			○	
英語Ⅳ	必修 1				○
英語セミナーA1	選択 2	○			
英語セミナーA2	選択 2		○		
英語セミナーB1	選択 2			○	
英語セミナーB2	選択 2				○
英語セミナーC1	選択 2			○	
英語セミナーC2	選択 2				○
英語セミナーD1	選択 2			○	
英語セミナーD2	選択 2				○
英語セミナーE1	選択 2			○	
英語セミナーE2	選択 2				○
英語セミナーF1	選択 2			○	
英語セミナーF2	選択 2				○
ドイツ語ⅠA	選択 1	○			
ドイツ語ⅠB	選択 1		○		
ドイツ語ⅠC	選択 1	○			
ドイツ語ⅠD	選択 1		○		
ドイツ語セミナーA	選択 2			○	
ドイツ語セミナーB	選択 2				○
フランス語ⅠA	選択 1	○			
フランス語ⅠB	選択 1		○		
フランス語ⅠC	選択 1	○			
フランス語ⅠD	選択 1		○		
フランス語セミナーA	選択 2			○	
フランス語セミナーB	選択 2				○
中国語ⅠA	選択 1	○			
中国語ⅠB	選択 1		○		
中国語ⅠC	選択 1	○			
中国語ⅠD	選択 1		○		
中国語セミナーA	選択 2			○	
中国語セミナーB	選択 2				○

科目名	単位数	配当年次			
		1年次		2年次	
		前	後	前	後
韓国語ⅠA	選択 1	○			
韓国語ⅠB	選択 1		○		
韓国語ⅠC	選択 1	○			
韓国語ⅠD	選択 1		○		
韓国語セミナーA	選択 2				○
韓国語セミナーB	選択 2				○
※日本語	選択 1	○	○		
文学入門	選択 2	○	○		
哲学入門	選択 2	○	○		
心理学入門	選択 2	○	○		
教育原論A	選択 2	○			
教育原論B	選択 2		○		
発達と教育A	選択 2				○
発達と教育B	選択 2				○
歴史入門	選択 2			○	○
倫理学入門	選択 2	○	○		
言語学入門	選択 2	○	○		
論理学入門	選択 2	○	○		
法学入門	選択 2	○	○		
日本国憲法	選択 2	○	○		
政治学入門	選択 2	○	○		
統計入門	選択 2	○	○		
社会学入門	選択 2	○	○		
経済学入門	選択 2	○	○		
社会思想史入門	選択 2			○	○
生活の中の数学	選択 2	★			
生活の中の物理	選択 2		★		
※生活の中の化学	選択 2		★		
生命と科学	選択 2				★
生活の中の統計技術	選択 2	★	★		
※生活の中の生物学	選択 2	★			

⚠️注意事項

1) 各印は開講時期を示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です(一部例外あり)。

(例：1年次配当科目であれば、2年次以降生も受講可能)

なお、配当セメスター等は年度により、変更する場合があります。(各年度の開講セメスターは本学ホームページ〈<http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/kyoga/risyu/>〉および時間割等で確認してください)

2) ★印の6科目のうち、卒業要件単位として認めるのは、1科目2単位まで。(余剰分はフリーゾーンにも計上されない。)

3) ※印「生活の中の化学」について、物質化学科の学生は履修不可。

4) ※印「生活の中の生物学」について、2012年度以前入学生は履修不可

5) ※印「日本語」は留学生対象科目

■総合科目

科目名	単位数		配当年次			
			1年次		2年次	
			前	後	前	後
情報社会とメディア	選択	2	○	○		
現代社会とマス・メディア	選択	2			○	○
情報と人間	選択	2		○		
スポーツ文化論	選択	2			○	
情報倫理	選択	2			○	
現代社会と福祉	選択	2	○			
メディアにみる福祉	選択	2		○		
世界の福祉	選択	2			○	
国際社会と日本A	選択	2				○
国際社会と日本B	選択	2			○	
国際社会と日本C	選択	2			○	
日本の文化	選択	2		○		
アジアの文化	選択	2			○	○
欧米の文化	選択	2			○	○
海外英語研修	選択	2		○		
科学技術史	選択	2	○			
現代の技術	選択	2		○		
環境と倫理	選択	2			○	
環境と人間A	選択	2			○	○
環境と人間B	選択	2			○	○
自然観察法	選択	2			○	
人権論A	選択	2	○			
人権論B	選択	2		○		
平和学入門	選択	2	○	○		
ジェンダー論	選択	2	○	○		
生命と共生	選択	2	○	○		
人間と社会と法	選択	2			○	
生活の中の宗教	選択	2	○	○		
現代社会と宗教	選択	2	○	○		
現代社会とスポーツ	選択	2				○
健康とスポーツ	選択	2		○		
大学生入門	選択	2	○			
歎異抄の思想Ⅰ	選択	2			○	
歎異抄の思想Ⅱ	選択	2				○
◆教養教育科目特別講義A	選択	2	○			
◆教養教育科目特別講義B	選択	2		○		
◆教養教育科目特別講義C	選択	2	○			
◆教養教育科目特別講義D	選択	2		○		
◆教養教育科目特別講義E	選択	2	○			
◆教養教育科目特別講義F	選択	2	○	○		
◆教養教育科目特別講義G	選択	2		○		

※2016年度不開講

※2016年度不開講

※2016年度不開講

※2010年度以降不開講

◆印の7科目のうち、卒業要件単位として認めるのは4科目8単位まで

②学部固有科目の履修方法 【2014年度以降入学生】

機械システム工学では広範囲の知識とそれを実際に応用する能力が必要とされる。そのため本学科ではフローチャートに示すように、数学や物理、計算機基礎実習、機械システム工学入門などの基礎科目を学び、それらを基礎として「力学」、「熱・流体」、「電子・制御」、「材料・加工」、「機械設計」、「システム」などに分類される学科固有科目の専門科目を系統的に修得していくカリキュラムとなっている。なお、フローチャートは学科固有科目を中心として主に関係が深いものを線で結んでいるが、結ばれていない科目も互いに密接に関連している。本学科では、「実験・実習」や「演習」に分類される科目を重視しており、3年次までに配当されている講義内容の理解をより深いものとするよう配慮している。また、機械システム工学総合演習では、各々の講義で学んできたものを有機的に結びつけ、機械システム工学として体系づける。4年次における特別研究（卒業研究）では、3年次までに培った機械システム工学の基礎を土台として1年間をかけて、機械システム工学の諸問題に関する国内外の論文・文献の講読と、各自個別の研究テーマに関する研究を行い、卒業論文の作成と発表を行う。

履修単位に関する具体的条件等は、「卒業・進級の要件」、「設置科目」にあるので、注意事項も含めてよく読むこと。特に学年ごとに進級するために必要な最低取得単位と条件が定められているので注意して履修計画をたてること。

1. 学部内共通科目の履修方法

学部内共通科目は理工学部6学科の共通科目であるが、本学科では、「物理実験」、「計算機基礎実習Ⅰ」は必修科目、「学外実習（キャリア実践実習）」、「グローバル人材育成プログラムⅠ（海外キャリア実践教育及び実習A）」を選択必修とし、特に重要としている。また、「科学技術英語」は特別研究に役立つばかりでなく、今後の国際化に対応するためにも必修としている。

2. 学科固有科目の履修方法

学科固有の専門科目には、機械システム工学を学ぶものとして修得を義務付けられている必修科目と、各自の興味に応じて自由に選べる選択科目が用意されている。なお、「基礎数学」と「基礎物理学」は、機械システム工学に関連する多くの専門科目を学ぶための基礎となる重要な科目であるので、高等学校において基礎物理（物理Ⅰ）、物理（物理Ⅱ）や数学Ⅲを履修していない学生およびそれらが苦手な学生は積極的に受講すること。「基礎数学」と「基礎物理学」は学科固有科目（選択）として設定される。なお、「基礎数学」と「基礎物理学」は、1年次のみ受講可能であるので注意すること。

3年次までに配当されている「実験・実習」に分類される必修科目は、4年次に進級する際にすべて修得していることが必要条件となっている。これらの科目は定められた年次で修得しておかないと4年間で卒業することが困難となるので特に注意すること。また、必修科目を配当年次で修得できなかった場合、次年度で履修したい科目と時間割が重なるなどして履修計画をたてる際に制限が生じることがあるので留意すること。

3-1. 卒業・進級の要件 (2015年度以降入学生)

(1)卒業要件単位 (最低) 数表

卒業のためには下表に示すように必修科目および選択科目をあわせて124単位の修得が必要である。

区分		単位数	
教養教育科目	必修	仏教	4
		英語	6
		スポーツ	2
	選択必修	基幹	2
		人文社会	2
選択	12		
(小計)	(28)		
学部内共通科目	必修	6	
	選択必修	2	
	選択	8	
	(小計)	(16)	
学科固有科目	必修	56	
	選択	24	
	(小計)	(80)	
合計	124		

⚠ 注意事項

- A) 教養教育科目の選択必修科目 (基幹科目) の余剰修得単位は、教養教育科目の選択科目 (必修・選択必修以外の科目を指す) として計上される。
- B) 学部内共通科目は原則として総合科目から4単位以上取得すること。
- C) 基礎数学、基礎物理学は1年次のみ履修可能とし、学科固有科目 (選択) として認める。

(2)進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間 (最低)
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒業	4年間

(3)進級に係る取得単位 (最低) 数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区分	単位数	
2年進級	必修科目単位数	14
	卒業要件総修得単位数	30 D)
3年進級	必修科目単位数	30
	卒業要件総修得単位数	62 E)
4年進級	必修科目単位数	60
	選択必修科目単位数	2
	卒業要件総修得単位数	102 F)
卒業	必修科目単位数	74
	選択必修科目単位数	6
	卒業要件総修得単位数	124

⚠ 注意事項

- D) 特別措置として、1年次留年生は、2年次配当の実験・実習科目 (物理実験、計算機プログラミング実習、計算機応用実習) 以外の登録を登録制限単位数まで認める。希望者は理工学部教務課へ所定の期間内に申し出ること。
- E) 特別措置として、2年次留年生は、3年次配当の実験・実習・演習科目 (機械システム工学実験Ⅰ、機械システム工学実験Ⅱ、学外実習 (キャリア実践実習)、グローバル人材育成プログラムⅠ・Ⅱ、要素設計、設計製図、材料力学・機械力学演習、熱・流体演習、電子・制御演習、機械システム工学総合演習、セミナー、計算力学実習) 以外の登録を登録制限単位数まで認める。希望者は理工学部教務課へ所定の期間内に申し出ること。

F) 原則として、機械システム工学入門、物理実験、計算機基礎実習Ⅰ、計算機プログラミング実習、計算機応用実習、機械システム工学実験Ⅰ、機械システム工学実験Ⅱ、機械製図Ⅰ、機械製図Ⅱ、機械システム工学総合演習、セミナーは全て修得していること。また、材料力学・機械力学演習、熱・流体演習、電子・制御演習については、2科目以上修得していること。

3-2. 卒業・進級の要件 (2014年度入学生)

(1)卒業要件単位 (最低) 数表

卒業のためには下表に示すように必修科目および選択科目をあわせて124単位の修得が必要である。

区分		種類	単位数
教養教育科目	基礎科目	必修	12
		選択	10
		(小計)	(22)
	総合科目	選択	6
(小計)		(6)	
学 部 内 共 通 科 目	内 目	必修	6
		選択必修	2
		選択	8 A)
		(小計)	(16)
学 科 固 有 科 目	内 目	必修	56
		選択	24 B)
		(小計)	(80)
合 計			124

⚠ 注意事項

- A) 学部内共通科目は原則として総合科目から4単位以上取得すること。
B) 基礎数学、基礎物理学は1年次のみ履修可能とし、学科固有科目(選択)として認める。

(2)進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間 (最低)
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒 業	4年間

(3)進級に係る取得単位 (最低) 数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区分		単位数
2年進級	必修科目単位数	14
	卒業要件総修得単位数	30 C)
3年進級	必修科目単位数	30
	卒業要件総修得単位数	62 D)
4年進級	必修科目単位数	60
	選択必修科目単位数	2
	卒業要件総修得単位数	102 E)
卒 業	必修科目単位数	74
	選択必修科目単位数	2
	卒業要件総修得単位数	124

⚠ 注意事項

- C) 特別措置として、1年次留年生は、2年次配当の実験・実習科目(物理実験、計算機プログラミング実習、計算機応用実習)以外の登録を登録制限単位数まで認める。希望者は理工学部教務課へ所定の期間内に申し出ること。
D) 特別措置として、2年次留年生は、3年次配当の実験・実習・演習科目(機械システム工学実験Ⅰ、機械システム工学実験Ⅱ、学外実習(キャリア実践実習)、グローバル人材育成プログラムⅠ・Ⅱ、要素設計、設計製図、材料力学・機械力学演習、熱・流体演習、電子・制御演習、機械システム工学総合演習、セミナー、計算力学実習)以外の登録を登録制限単位数まで認める。希望者は理工学部教務課へ所定の期間内に申し出ること。

E) 原則として、機械システム工学入門、物理実験、計算機基礎実習Ⅰ、計算機プログラミング実習、計算機応用実習、計算力学実習、機械システム工学実験Ⅰ、機械システム工学実験Ⅱ、機械製図Ⅰ、機械製図Ⅱ、要素設計、設計製図、機械システム工学総合演習、セミナーは全て修得していること。また、材料力学・機械力学演習、熱・流体演習、電子・制御演習については、2科目以上修得していること。

4. 設置科目

区分	授業科目	単位数	配当年次 (前期・後期)								備考				
			1年		2年		3年		4年						
			前	後	前	後	前	後	前	後					
学部内 共通科目 総合	英語	科学技術英語	必修	2								○			
	化学	化学概論Ⅰ	選択	2	○										
		化学概論Ⅱ	選択	2		○									
	生物	生物学概論Ⅰ	選択	2			○								
		生物学概論Ⅱ	選択	2				○							
	地学	地学概論Ⅰ	選択	2	○										
		地学概論Ⅱ	選択	2		○									
	実験・実習	物理実験	必修	2				○							
		化学基礎実験	選択	2				○							
		計算機基礎実習Ⅰ	必修	2	○										
		自然観察実習	選択	2	○										
		生物学実験	選択	2						○					
		地学実験	選択	2	○										
		学外実習(キャリア実践実習)	選必	2					○						
		グローバル人材育成プログラムⅠ	選必	2					○						
		グローバル人材育成プログラムⅡ	選択	2					○						履修希望者は必ずⅠ・Ⅱ両方を登録すること
	総合	科学思想史	選択	2				○		○			○		原則として総合分野より4単位以上修得すること。
		情報学概論	選択	2			○		○			○			
		環境科学	選択	2			○		○			○			
		資源エネルギー論	選択	2			○		○			○			
人間工学		選択	2			○		○			○				
工学概論		選択	2			○		○			○				
生体情報概論		選択	2			○		○			○				
技術者倫理		選択	2			○		○			○				
生態学概論		選択	2			○		○			○				
地域環境概論		選択	2			○		○			○				
地球環境概論		選択	2			○		○			○				
情報と職業		選択	2			○		○			○				
MOT概論		選択	2			○		○			○				
MOT演習		選択	2			○		○			○				
知的財産概論		選択	2		○		○		○		○				
キャリアデザイン		選択	2	○			○		○		○				
キャリアプランニング	選択	2			○										

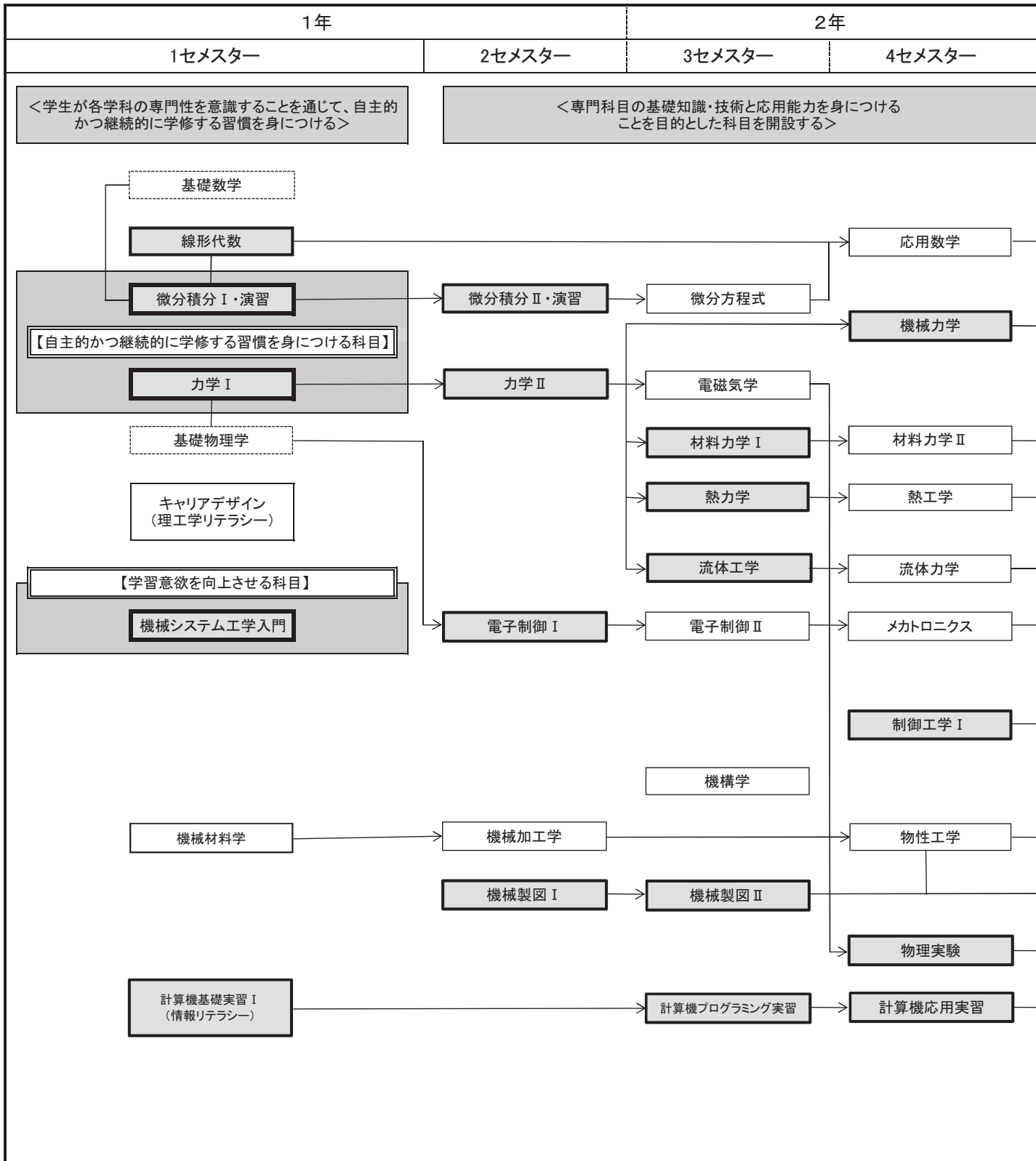
教育課程
専学
攻
科部

区分	授業科目	単位数	配当年次（前期・後期）								備考					
			1年		2年		3年		4年							
			前	後	前	後	前	後	前	後						
学科固有専門科目	数学	基礎数学	選択	2	○										注1)	
		線形代数	必修	2	○											
		微分積分Ⅰ・演習	必修	3	○											
		微分積分Ⅱ・演習	必修	3		○										
		微分方程式	選択	2			○									
		応用数学	選択	2				○								
		確率・統計	選択	2					○							
	物理学	基礎物理学	選択	2	○											注1)
		力学Ⅰ	必修	2	○											
		力学Ⅱ	必修	2		○										
		電磁気学	選択	2			○									
	力学	材料力学Ⅰ	必修	2			○									
		材料力学Ⅱ	選択	2				○								
		材料力学・機械力学演習	必修	1					○							
	機械力学	材料力学	必修	2					○							
		熱工学	必修	2			○									
		熱力学	必修	2			○									
	熱・流体	流体工学	必修	2			○									
		流体力学	選択	2				○								
		熱工学	選択	2				○								
		熱・流体演習	必修	1						○						
	材料・加工	伝熱工学	選択	2						○						
		機械材料学	選択	2	○											
		機械加工学	選択	2		○										
		材料強度学	選択	2					○							
	メカトロニクス・制御	物性工学	選択	2				○								
		電子制御Ⅰ	必修	2		○										
		電子制御Ⅱ	選択	2			○									
		機構学	選択	2			○									
		メカトロニクス	選択	2				○								
		制御工学Ⅰ	必修	2				○								
		制御工学Ⅱ	選択	2					○							
		電子・制御演習	必修	1						○						
		計測工学	選択	2						○						
		システム工学	選択	2							○					
	ロボット工学	選択	2								○					
実験・実習科目	特別講義	選択	2					○			○					
	機械システム工学入門	必修	1	○												
	機械製図Ⅰ	必修	2		○											
	機械製図Ⅱ	必修	2			○										
	要素設計	必修	2					○								
	設計製図	必修	2						○							
	計算機プログラミング実習	必修	2			○										
	計算機応用実習	必修	2				○									
	計算力学実習	必修	2					○								
	機械システム工学実験Ⅰ	必修	2						○							
	機械システム工学実験Ⅱ	必修	2							○						
	機械システム工学総合演習	必修	2							○						
	プレゼンテーション演習	随意	②						○							
	セミナー	必修	2							○						
	特別研究	必修	6								○		○			

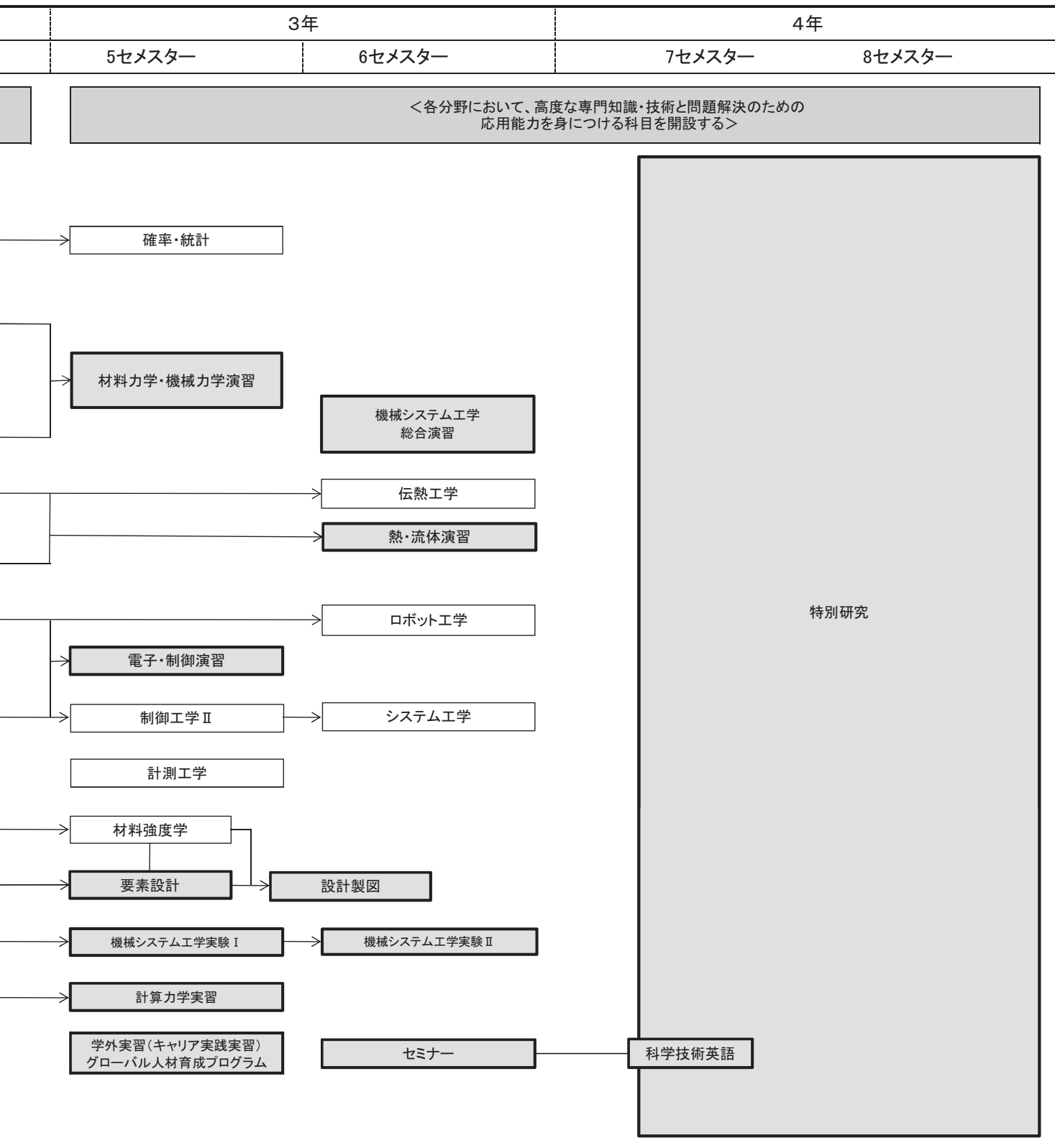
「必修」=必修科目、「選必」=選択必修科目、「選択」=選択科目、「随意」=随意科目（卒業要件単位に含めない）

⚠️ 注意事項 1) 「基礎数学」および「基礎物理学」は1年次のみ履修可能であり、学科固有科目（選択）として認定する。

5. カリキュラムフローチャート



教育課程
専学
攻
科部



教育課程
 専学
 攻
 科部

は必修科目
 (選択必修科目含む)
 は選択科目

②学部固有科目の履修方法 【2009年度～2013年度入学生】

機械システム工学では広範囲の知識とそれを実際に応用する能力が必要とされる。そのため本学科ではフローチャートに示すように、数学や物理、計算機基礎実習などの基礎科目を学び、それらを基礎として「力学」、「熱・流体」、「電子・制御」、「材料・加工」、「機械設計」、「システム」などに分類される学科固有科目の専門科目を系統的に修得していくカリキュラムとなっている。なお、フローチャートは学科固有科目を中心として主に関係が深いものを線で結んでいるが、結ばれていない科目も互いに密接に関連している。本学科では、「実験・実習」や「演習」に分類される科目を重視しており、3年次までに配当されている講義内容の理解をより深いものとするよう配慮している。また、機械システム工学総合演習では、各々の講義で学んできたものを有機的に結びつけ、機械システム工学として体系づける。4年次における特別研究（卒業研究）では、3年次までに培った機械システム工学の基礎を土台として1年間をかけて、機械システム工学の諸問題に関する国内外の論文・文献の講読と、各自個別の研究テーマに関する研究を行い、卒業論文の作成と発表を行う。

履修単位に関する具体的条件等は、「卒業・進級の要件」、「設置科目」にあるので、注意事項も含めてよく読むこと。特に学年ごとに進級するために必要な最低取得単位と条件が定められているので注意して履修計画をたてること。

1. 学内共通科目の履修方法

学内共通科目は理工学部6学科の共通科目であるが、本学科では、「物理実験」、「計算機基礎実習Ⅰ」は必修科目、「学外実習（キャリア実践実習）」、「グローバル人材育成プログラムⅠ（海外キャリア実践教育及び実習A）」を選択必修とし、特に重要としている。また、「科学技術英語」は特別研究に役立つばかりでなく、今後の国際化に対応するためにも必修としている。

2. 学科固有科目の履修方法

学科固有の専門科目には、機械システム工学を学ぶものとして修得を義務付けられている必修科目と、各自の興味に応じて自由に選べる選択科目が用意されている。なお、「基礎数学」と「基礎物理学」は、機械システム工学に関連する多くの専門科目を学ぶための基礎となる重要な科目であるので、高等学校において物理ⅠB、物理Ⅱや数学Ⅲを履修していない学生およびそれらが苦手な学生は積極的に受講すること。「基礎数学」と「基礎物理学」および他学科の固有科目を修得したものは、自由選択科目として本学科の卒業要件単位数に含めることができる。なお、「基礎数学」と「基礎物理学」は、1年次のみ受講可能であるので注意すること。

3年次までに配当されている「実験・実習」に分類される必修科目は、4年次に進級する際にすべて修得していることが必要条件となっている。これらの科目は定められた年次で修得しておかないと4年間で卒業することが困難となるので特に注意すること。また、必修科目を配当年次で修得できなかった場合、次年度で履修したい科目と時間割が重なるなどして履修計画をたてる際に制限が生じることがあるので留意すること。

3. 卒業・進級の要件

(1)卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区分		種類	単位数
教養教育科目 (共同開講科目)	基礎科目	必修	12
		選択	10
	(小計)		(22)
	総合科目	選択	6
(小計)		(6)	
学 部 内 共 通 科 目	必修	6	
	選択必修	2	
	選択	10 A)	
	(小計)		(18)
学 科 固 有 科 目	必修	53	
	選択	26	
	(小計)		(79)
自 由 選 択 科 目	選択	9 B)	
	(小計)		(9)
合 計			134

⚠ 注意事項

- A) 学部内共通科目は原則として総合分野から4単位以上取得すること。
- B) 自由選択科目については、区分を問わず修得することができる(随意科目は除く)。なお、基礎数学、基礎物理学、他学科科目は自由選択科目とする(他学科科目の単位制限無し)。

(2)進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間 (最低)
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒業	4年間

(3)進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区分		単位数
2年進級	必修科目単位数	14
	卒業要件総取得単位数	30 C)
3年進級	必修科目単位数	30 E)
	卒業要件総取得単位数	62 D)
4年進級	必修科目単位数	62 E)
	卒業要件総取得単位数	112 F)
卒業	必修科目単位数	73
	卒業要件総取得単位数	134

⚠ 注意事項

- C) 特別措置として、1年次留年生は、2年次配当の実験・実習科目(物理実験、計算機実習Ⅱ、計算機応用実習)以外の登録を登録制限単位数まで認める。希望者は理工学部教務課へ所定の期間内に申し出ること。
- D) 特別措置として、2年次留年生は、3年次配当の実験・実習・演習科目(機械システム工学実験Ⅰ、機械システム工学実験Ⅱ、学外実習(キャリア実践実習)、グローバル人材育成プログラムⅠ・Ⅱ(海外キャリア実践教育及び実習A・B)、要素設計、設計製図、材料力学演習、熱・流体演習、電子・制御演習、機械システム工学総合演習、セミナー)以外の登録を登録制限単位数まで認める。希望者は理工学部教務課へ所定の期間内に申し出ること。
- E) 選択必修科目である学外実習(キャリア実践実習)もしくはグローバル人材育成プログラムⅠ(海外キャリア実践教育及び実習A)の2単位を含む。
- F) 原則として、物理実験、計算機基礎実習Ⅰ、計算機実習Ⅰ、計算機実習Ⅱ、計算機応用実習、機械システム工学実験Ⅰ、機械システム工学実験Ⅱ、学外実習(キャリア実践実習)もしくはグローバル人材育成プログラムⅠ・Ⅱ(海外キャリア実践教育及び実習A・B)、機械製図Ⅰ、機械製図Ⅱ、要素設計、設計製図、機械システム工学総合演習、セミナーは全て修得していること。また、材料力学演習、熱・流体演習、電子・制御演習については、2科目以上修得していること。

4. 設置科目

区分	授業科目	単位数	配当年次(前期・後期)								備考				
			1年		2年		3年		4年						
			前	後	前	後	前	後	前	後					
学部内 共通科目	英語	必修	2							○					
	科学技術英語	必修	2							○					
	化学	化学概論Ⅰ	選択	2	○										
		化学概論Ⅱ	選択	2		○									
	生物	生物学概論Ⅰ	選択	2			○								
		生物学概論Ⅱ	選択	2				○							
	地学	地学概論Ⅰ	選択	2	○										
		地学概論Ⅱ	選択	2		○									
	実験・実習	物理実験	必修	2				○							
		化学基礎実験	選択	2				○							
		計算機基礎実習Ⅰ	必修	2	○										
		自然観察実習	選択	2	○										
		生物学実験	選択	2						○					
		地学実験	選択	2	○										
		学外実習(キャリア実践実習)	選必	2					○						
		海外キャリア実践教育及び実習A	選必	2					○						
		海外キャリア実践教育及び実習B	選択	2					○						
		グローバル人材育成プログラムⅠ	選必	2					○						
	グローバル人材育成プログラムⅡ	選択	2					○							
	総合	科学思想史	選択	2				○							
		情報学概論	選択	2			○		○			○			
		環境科学	選択	2			○		○			○			
		資源エネルギー論	選択	2			○		○			○			
		人間工学	選択	2			○		○			○			
工学概論		選択	2			○		○			○				
生体情報概論		選択	2			○		○			○				
工業経済		選択	2			○		○			○				
技術者倫理		選択	2			○		○			○				
生態学概論		選択	2			○		○			○				
地域環境概論		選択	2			○		○			○				
地球環境概論		選択	2			○		○			○				
情報と職業		選択	2			○		○			○				
MOT概論		選択	2			○		○			○				
MOT演習	選択	2			○		○			○					
知的財産概論	選択	2		○		○				○					
キャリアデザイン	選択	2	○			○				○					
キャリアプランニング	選択	2			○					○					

2009～2010年度入学生対象
履修希望者は必ずA・B
両方を登録すること
2011年度以降入学生対象
履修希望者は必ずI・II
両方を登録すること

〔原則として総合
分野より4単位
以上取得するこ
と。〕

2016年度不開講

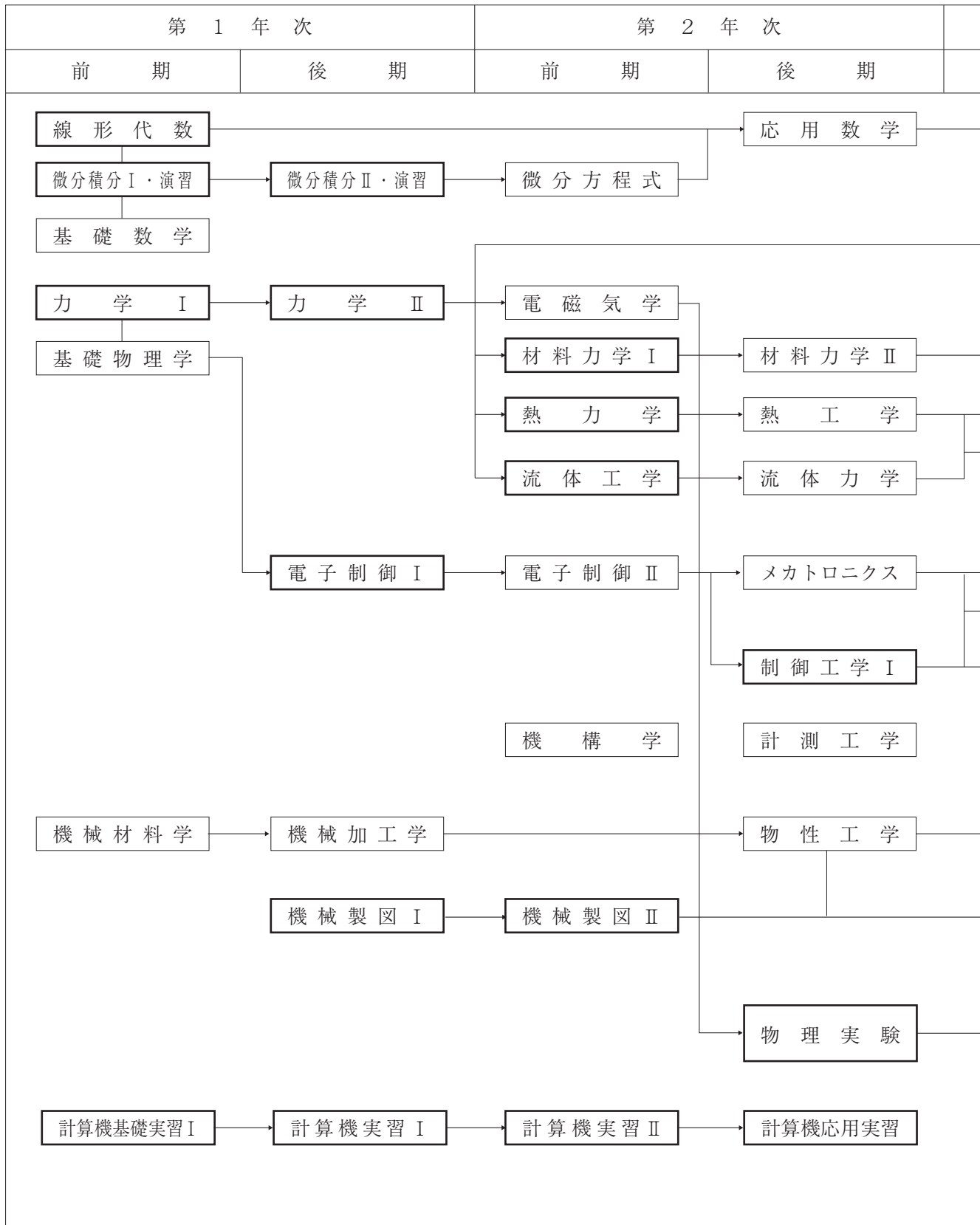
教育課程
専学
攻
科部

区分	授業科目	単位数	配当年次（前期・後期）								備考																												
			1年		2年		3年		4年																														
			前	後	前	後	前	後	前	後																													
学科固有科目	数学	基礎数学	選択	2	○																															注1)			
		線形代数	必修	2	○																																		
		微分積分Ⅰ・演習	必修	3	○																																		
		微分積分Ⅱ・演習	必修	3		○																																	
		微分方程式	選択	2			○																																
		応用数学	選択	2				○																															
		確率・統計	選択	2					○																														
	物理学	基礎物理学	選択	2	○																																	注1)	
		力学Ⅰ	必修	2	○																																		
		力学Ⅱ	必修	2		○																																	
		電磁気学	選択	2			○																																
	力学	材料力学Ⅰ	必修	2			○																																
		材料力学Ⅱ	選択	2				○																															
		材料力学演習	必修	1					○																														
		振動工学	選択	2						○																													
	熱・流体	流体工学	必修	2			○																																
		熱力学	必修	2			○																																
		流体力学	選択	2				○																															
		熱工学	選択	2				○																															
		熱・流体演習	必修	1						●		○																											注2)
	材料・加工	機械材料学	選択	2	○																																		
		機械加工学	選択	2		○																																	
		材料強度学	選択	2							○																												
		物性工学	選択	2					○																														
	メカトロ・制御	電子制御Ⅰ	必修	2		○																																	
		電子制御Ⅱ	選択	2			○																																
		機構学	選択	2			○																																
		メカトロニクス	選択	2				○																															
		制御工学Ⅰ	必修	2				○																															
		制御工学Ⅱ	選択	2					○																														
		電子・制御演習	必修	1						●		○																											
		計測工学	選択	2				●		○																													注2)
		システム工学	選択	2									○																										
		ロボット工学	選択	2										○																									
	特別講義	選択	2									○															○												
実験・実習科目	機械製図Ⅰ	必修	2		○																																		
	機械製図Ⅱ	必修	2			○																																	
	要素設計	必修	2					○																															
	設計製図	必修	2									○																											
	計算機実習Ⅰ	必修	2	○	●																																	注2)	
	計算機実習Ⅱ	必修	2			○																																	
	計算機応用実習	必修	2				○																																
	機械システム工学実験Ⅰ	必修	2									○																											
	機械システム工学実験Ⅱ	必修	2										○																										
	機械システム工学総合演習	必修	2											○																									
	プレゼンテーション演習	随意	②										○																										
	セミナー	必修	2											○																									
	特別研究	必修	6																								○	○											

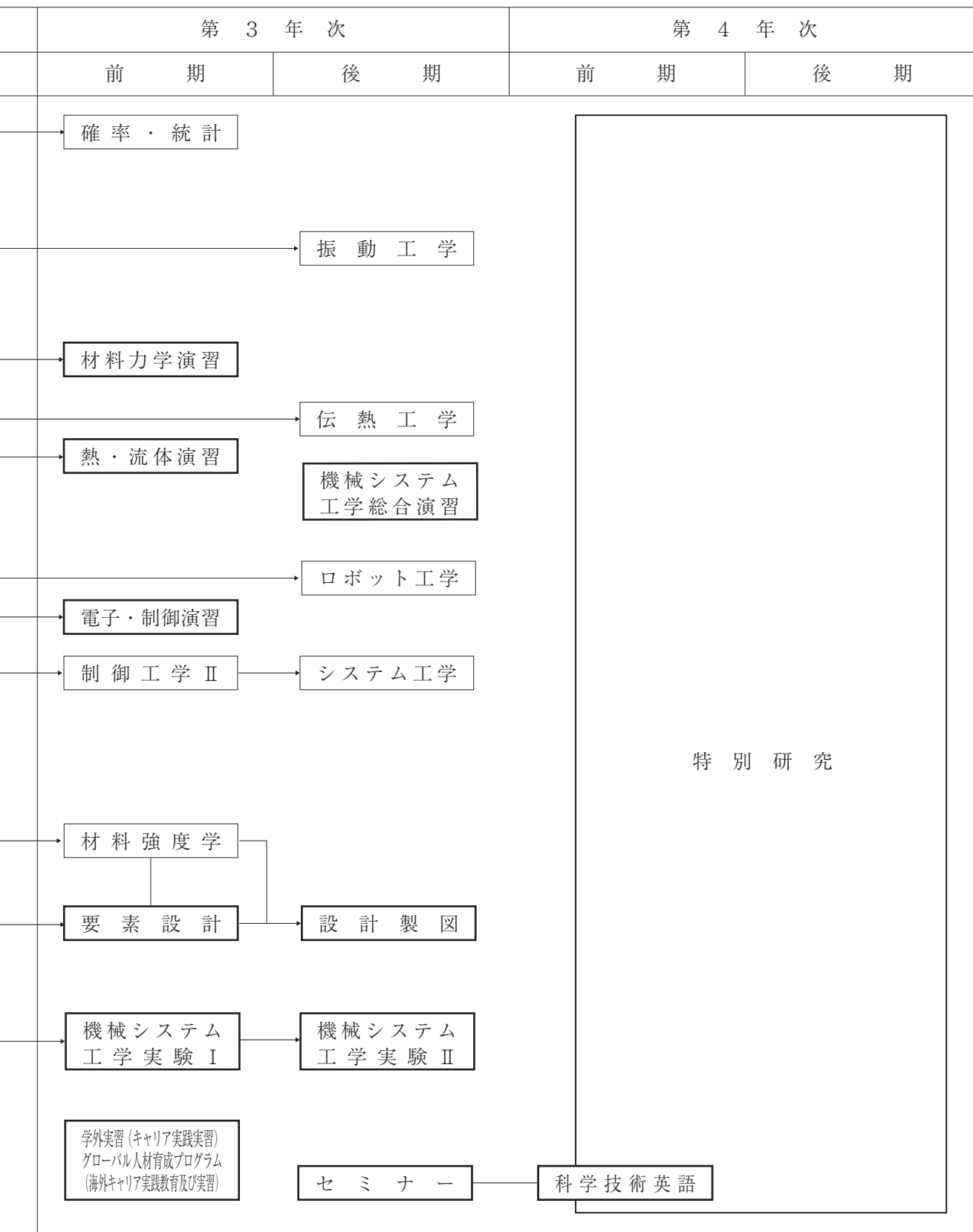
「必修」=必修科目、「選必」=選択必修科目、「選択」=選択科目

⚠ 注意事項 1) 「基礎数学」および「基礎物理学」は1年次のみ履修可能であり、自由選択科目として認定する。
 2) ●は通常の開講学期であるが、カリキュラム改革の都合上、○の学期に開講されているので注意すること。

5. カリキュラムフローチャート



教育課程
専学
攻
科部



は必修科目
(選択必修科目含む)



は選択科目

教育課程
専学
攻
科部

③固有科目カリキュラム対照表

2014年度以降入学生		2013年度以前入学生	
科目名	単位数	科目名	単位数
学部内共通科目			
科学技術英語	2	科学技術英語	2
化学概論Ⅰ	2	化学概論Ⅰ	2
化学概論Ⅱ	2	化学概論Ⅱ	2
生物学概論Ⅰ	2	生物学概論Ⅰ	2
生物学概論Ⅱ	2	生物学概論Ⅱ	2
地学概論Ⅰ	2	地学概論Ⅰ	2
地学概論Ⅱ	2	地学概論Ⅱ	2
物理実験	2	物理実験	2
化学基礎実験	2	化学基礎実験	2
計算機基礎実習Ⅰ	2	計算機基礎実習Ⅰ	2
自然観察実習	2	自然観察実習	2
生物学実験	2	生物学実験	2
地学実験	2	地学実験	2
学外実習（キャリア実践実習）	2	学外実習（キャリア実践実習） ※2008年度以前入学生は、「学外実習」	2
グローバル人材育成プログラムⅠ	2	グローバル人材育成プログラムⅠ ※2009～2010年度入学生は、「海外キャリア実践教育及び実習A」	2
グローバル人材育成プログラムⅡ	2	グローバル人材育成プログラムⅡ ※2009～2010年度入学生は、「海外キャリア実践教育及び実習B」	2
科学思想史	2	科学思想史	2
情報学概論	2	情報学概論	2
環境科学	2	環境科学	2
資源エネルギー論	2	資源エネルギー論	2
人間工学	2	人間工学	2
工学概論	2	工学概論	2
生体情報概論	2	生体情報概論	2
		工業経済	2
技術者倫理	2	技術者倫理	2
生態学概論	2	生態学概論	2
地域環境概論	2	地域環境概論	2
地球環境概論	2	地球環境概論	2
情報と職業	2	情報と職業	2
MOT概論	2	MOT概論	2
MOT演習	2	MOT演習	2
知的財産概論	2	知的財産概論	2
キャリアデザイン	2	キャリアデザイン	2
キャリアプランニング	2	キャリアプランニング	2

2014年度以降入学生		2013年度以前入学生	
科目名	単位数	科目名	単位数
学科固有科目			
基礎数学	2	基礎数学	2
線形代数	2	線形代数	2
微分積分Ⅰ・演習	3	微分積分Ⅰ・演習	3
微分積分Ⅱ・演習	3	微分積分Ⅱ・演習	3
微分方程式	2	微分方程式	2
応用数学	2	応用数学	2
確率・統計	2	確率・統計	2
基礎物理学	2	基礎物理学	2
力学Ⅰ	2	力学Ⅰ	2
力学Ⅱ	2	力学Ⅱ	2
電磁気学	2	電磁気学	2
材料力学Ⅰ	2	材料力学Ⅰ	2
材料力学Ⅱ	2	材料力学Ⅱ	2
機械力学	2	振動工学	2
材料力学・機械力学演習	1	材料力学演習	1
流体工学	2	流体工学	2
熱力学	2	熱力学	2
流体力学	2	流体力学	2
熱工学	2	熱工学	2
熱・流体演習	1	熱・流体演習	1
伝熱工学	2	伝熱工学	2
機械材料学	2	機械材料学	2
機械加工学	2	機械加工学	2
材料強度学	2	材料強度学	2
物性工学	2	物性工学	2
電子制御Ⅰ	2	電子制御Ⅰ	2
電子制御Ⅱ	2	電子制御Ⅱ	2
機構学	2	機構学	2
メカトロニクス	2	メカトロニクス	2
制御工学Ⅰ	2	制御工学Ⅰ	2
制御工学Ⅱ	2	制御工学Ⅱ	2
電子・制御演習	1	電子・制御演習	1
計測工学	2	計測工学	2
システム工学	2	システム工学	2
ロボット工学	2	ロボット工学	2
特別講義	2	特別講義	2
機械システム工学入門	1		
機械製図Ⅰ	2	機械製図Ⅰ	2
機械製図Ⅱ	2	機械製図Ⅱ	2
要素設計	2	要素設計	2
設計製図	2	設計製図	2
計算機プログラミング実習	2	計算機実習Ⅰ	2
計算力学実習	2	計算機実習Ⅱ	2
計算機応用実習	2	計算機応用実習	2
機械システム工学実験Ⅰ	2	機械システム工学実験Ⅰ	2
機械システム工学実験Ⅱ	2	機械システム工学実験Ⅱ	2
機械システム工学総合演習	2	機械システム工学総合演習	2
プレゼンテーション演習	②	プレゼンテーション演習	②
セミナー	2	セミナー	2
特別研究	6	特別研究	6

④他学科科目の履修について

理工学部では自主的学習プランの作成と幅広い知識の習得や総合的思考力を養うために、他学科科目の履修を可能にしています。履修を希望する者は以下の事項に注意して履修してください。

1. 履修可能他学科科目

<科目>

各学科から提供された科目の中から、履修希望者の所属する学科が履修を認めた科目。
(理工学部教務課備えつけの、他学科科目受講可否一覧を参照してください。)

<配当年次・対象>

科目提供学科での配当年次および対象入学年度に従います。
履修要項で確認してください。

<開講曜講時>

理工学部教務課カウンターに設置している他学科の時間割表で確認してください。

2. 単位認定

他学科科目は、各学科次の通り単位認定されます。

<数理情報学科>

フリーゾーン科目として10単位まで認定。

<電子情報学科>

学科固有科目の選択科目として6単位まで認定。

ただし、2012年度以降入学生については、科目提供学科での配当年次にかかわらず、卒業年次においてのみ履修を認める。なお、履修にあたっては指導教員の指導を受けること。

<機械システム工学科>

2007年度入学生から2013年度入学生は、自由選択科目として9単位まで認定。

2014年度以降入学生は、随意科目として認定。

<物質化学科>

学科固有科目選択科目として6単位まで認定。

<情報メディア学科>

フリーゾーン科目として8単位まで認定。

<環境ソリューション工学科>

2007年度入学生から2013年度入学生は、フリーゾーン科目として8単位まで認定。

2014年度以降入学生は、学科固有選択科目として4単位まで認定。

3. 履修方法

受講登録より事前に、必ず『他学科科目履修届』(理工学部教務課窓口にて配付)を提出してください。(提出がない場合、受講、単位認定ができない場合があります。)

履修登録制限単位数に含まれます。

⚠️ 注意事項

科目によっては該当学科の受講生を優先するため、受講可能人数を制限する場合があります。(その場合、掲示にて発表しますので注意してください。)

⑤日本技術者教育認定機構（JABEE）について

1. JABEEとは

JABEEとは「日本技術者教育認定機構」のことです。英語名の“Japan Accreditation Board for Engineering Education”の頭文字をとったもので「ジャビー」と愛称されています。JABEEは、大学などの高等教育機関のプログラムを審査し、その内容が国際的に認められるレベルにあり、技術者として活動するために必要な知識や能力の養成に成功していると判断したとき、認定を与えます。

2. JABEEによる認定制度

JABEEによる審査は、定められた明確な基準に照らし、書類審査と実地審査に基づいて、厳密かつ公正に行われます。JABEEはまた、アメリカ、イギリスを始め、世界各国が加盟するワシントン協定に加盟しており、JABEEの認定は国際的な認定として認められています。

3. 認定の基準

JABEEは以下の基準をすべて満たした技術者教育プログラムに対して認定を与えます。

- (1)大学や教育プログラムは、社会のニーズに一致する使命と目的を明示しなければならない。
- (2)教育プログラムは、使命と目的に沿う具体的な教育目標を定義し、教育活動の成果がこれらの教育目標と日本技術者教育認定制度が求める教育成果を如何に満たしているかを示さなければならない。
- (3)教育プログラムを継続的に改善する仕組みを持たなければならない。
- (4)入学学生の質、教員、設備、大学のサポート、財務などの諸問題を教育プログラムの目標と結びつけて十分検討してあること。

これらの項目は、教育機関が、整然とした教育目標と教育戦略を持ち、必要な水準の教育活動を維持し継続的に改善していくために、人的資源や設備が組織的にも財務的にも充分であることを要求するものです。(JABEEホームページより)

4. 認定を受けるメリット

JABEEから認定を受けるためには、基準を満たすため数々の教育改善を継続的に実行することが求められます。また、それを客観的に説明する努力も必要となります。このようにして、学部や学科での教育内容や方法に継続的な改善が加えられるので、学生諸君は常に社会の要求に合致した質の高い教育を受けられることが保証されます。また、JABEE認定プログラムを修了するということは、国際的に通用する技術者として認められるための第一歩を踏み出すことでもあります。その評価が、卒業後の皆さんの活躍により益々高まり、広範囲なものになることを期待します。また、修了生には技術士になるための1次試験（技術士補試験）が免除されるなどの直接的なメリットも期待できます。

5. 理工学部における取り組み

本学理工学部ではJABEE認定に対し深い関心を寄せており、2003年度には、物質化学科が関西にある私立大学の化学系としては初めて、JABEEの認定を受けました。

⑥卒業年次生の大学院授業科目の履修について (大学院修士課程推薦入学試験受験予定者対象)

理工学部では、卒業年次生のうち特に優秀な学生に対し、学部における修学に影響のない範囲で本学大学院理工学研究科科目（以下、大学院科目）の履修を認めています。この制度の利用者には大学院への進学を奨励するため、学内推薦入学試験の受験を要件としています。

大学院科目の履修ならびに学内推薦入学試験の受験に関して、指導教員または教務委員とよく相談することをおすすめします。

また、大学院理工学研究科修士課程1年修了制を利用して、大学院理工学研究科修士課程の在学期間を短縮することが可能です。これは、文部科学省の大学院設置基準および本学大学院学則第12条に基づき実施されるものです。

1. 出願資格

大学院科目を出願できる者は、次の各号に該当し、かつ研究科委員会の定める要件を満たさなければなりません。

- ①本学理工学部の卒業年次生
- ②大学院科目を履修する能力を有する者
- ③本学大学院理工学研究科への進学を希望している者であって、かつ学内推薦入学試験（詳細は学内推薦入学試験要項を参照してください。）に出願を希望している者。ただし、同試験において不合格となった場合および入学手続を所定の期間に行わなかった場合は履修許可を取り消すものとする。
- ④各専攻において別途定める基準を満たす者

2. 出願方法

大学院科目の履修を希望する者は、卒業年次の第一学期（前期）履修登録時に所定の願書を理工学部教務課に提出し、研究科委員会の議に基づき、教授会の承認を得て、履修が許可されます。

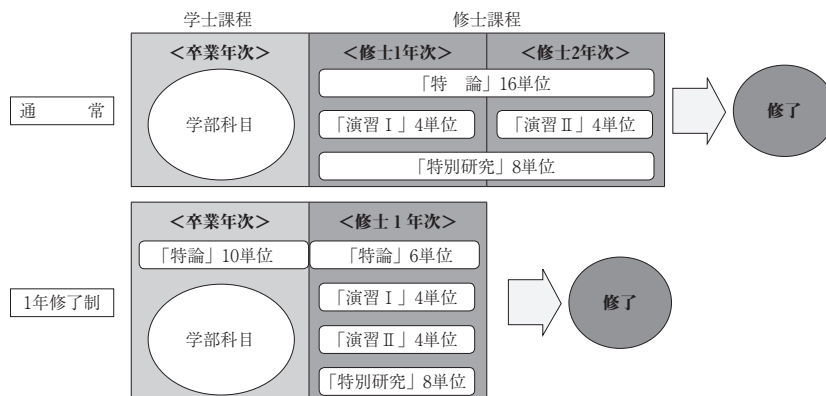
3. 単位認定

許可された者が、出願した大学院科目に合格した場合は、本学大学院理工学研究科に入学した際に、研究科委員会の議を経て大学院科目として単位が認定されます。

この単位は、理工学部の卒業要件単位としては認められませんので、注意してください。

4. 修士課程1年修了制のしくみ

修士課程を1年間で修了するためには、下図のように、卒業年次の時に大学院の特論科目（10単位）を修得し（大学院入学時に単位認定）、修士1年次の時に修了要件単位に必要な特論科目（6単位）と演習Ⅰ・Ⅱ（8単位）、特別研究（8単位）を修得して、修士論文の審査に合格しなければなりません。



Ⅳ その他の教育課程・教育プログラム

理工学部の教育課程の他にも、みなさんが受講できる多様な教育課程・教育プログラムがあります。詳細は、ホームページ、配布冊子などで確認するとともに、各担当窓口にお問い合わせください。

(1) 留学・単位互換制度・各種インターンシッププログラム

留学について	担当窓口・関係情報
<p>龍谷大学では、国際的な社会に貢献できる人材の育成を目的として、学生の海外派遣を積極的に推進するため、様々な留学制度を整備しています。</p> <p>経済、社会、文化、政治などあらゆる局面で国際的な相互依存関係が深まっている現在、海外の大学での学修、文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。</p>	<p>(担当窓口) グローバル教育推進センター 深草学舎 和顔館 1階 / 瀬田学舎 智光館 2階 ※単位認定に関する相談は理工学部教務課 瀬田学舎 1号館 1階</p> <p>(関係情報) ・「留学ガイド」グローバル教育推進センターで配布 ・グローバル教育推進センター ホームページ</p> <p>(URL) http://intl.ryukoku.ac.jp</p>
大学コンソーシアム京都「単位互換制度」	担当窓口・関係情報
<p>大学コンソーシアム京都では、京都地域の50以上の大学・短期大学が協定を締結し、各大学の科目を履修できる「単位互換授業」の制度を設置しています。</p> <p>一部の科目は、京都駅前前の「キャンパスプラザ京都」で開講されます。</p>	<p>(担当窓口) 理工学部教務課 瀬田学舎 1号館 1階 ※単位認定できる科目、出願資格・手続きなど、まずは、理工学部教務課で確認してください。</p> <p>(履修に関する情報) 本学HP「履修要項」で確認してください。</p> <p>(URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・大学コンソーシアム京都 単位互換制度特設サイト</p> <p>(URL) http://www.consortium.or.jp/special/tani_gokan/index.html</p>
環びわ湖大学・地域コンソーシアム「単位互換制度」	担当窓口・関係情報
<p>環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換制度とは、滋賀県内にある12の大学や短期大学の科目を履修し、それを所属大学・短期大学の単位として認定する制度です。</p> <p>滋賀県特有の内容をテーマにした科目や、各大学・短期大学の学部・学科・専攻で特徴的な科目などが提供されています。</p> <p>(「一般社団法人環びわ湖大学・地域コンソーシアム」HPより一部抜粋)</p>	<p>(担当窓口) 理工学部教務課 瀬田学舎 1号館 1階 ※単位認定できる科目、出願資格・手続きなど、まずは、理工学部教務課で確認してください。</p> <p>(履修に関する情報) 本学HP「履修要項」で確認してください。</p> <p>(URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・「環びわ湖・地域コンソーシアム」単位互換制度</p> <p>(URL) http://www.kanbiwa.jp/business/27gokan.html</p>

「放送大学科目」履修制度	担当窓口・関係情報
<p>放送大学とは、テレビ・ラジオ、またその記録媒体等を効果的に活用して、大学教育の機会を多くの人々に提供していく正規の大学で、放送大学学園法に基づき設立されています。</p> <p>本学と放送大学が単位互換に関する協定を締結したことにより、1997年度以降入学生は、本学部が指定した「放送大学科目」を受講することによって修得した単位を卒業要件単位として認定されます。この「放送大学科目」を受講する学生は、放送大学では「特別聴講学生」として扱われます。</p>	<p>(担当窓口) 理工学部教務課 瀬田学舎 1館1階 ※受講希望者は、「特別聴講学生出願票」を理工学部教務課窓口に提出してください。 (提出期限は例年6月中旬です。)</p> <p>(履修に関する情報) 本学HP「履修要項」で確認してください。</p> <p>(URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・放送大学 (URL:http://www.ouj.ac.jp)</p>
協定型インターンシッププログラム	担当窓口・関係情報
<p>本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして全学共通の協定型インターンシップを展開しています。このインターンシップは、建学の精神にもとづくきめ細かな事前・事後学習を展開する、本学独自の特色のあるインターンシッププログラムです。</p>	<p>(担当窓口) インターンシップ支援オフィス 深草学舎 5号館1階/瀬田学舎 1号館1階</p> <p>(履修に関する情報) 本学HP「履修要項」で確認してください。</p> <p>(URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・「インターンシッププログラム リーフレット」 (インターンシップ支援オフィス配布) ・インターンシップ支援オフィス (URL : http://career.ryukoku.ac.jp/internship/internship.html)</p>
大学コンソーシアム京都「インターンシップ・プログラム」	担当窓口・関係情報
<p>大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラムは、就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラム(コーオペ教育)として、1998年度より全国に先駆けて開始しています。単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、社会人基礎力を育成するカリキュラムを持ったキャリア教育として、受講生からも高い満足度を得ています。</p>	<p>(担当窓口) 理工学部教務課 瀬田学舎 1館1階 または、インターンシップ支援オフィス 深草学舎 5号館1階/瀬田学舎 1号館1階</p> <p>(履修に関する情報) 本学HP「履修要項」で確認してください。</p> <p>(URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」(インターンシップ支援オフィス配布) ・大学コンソーシアム京都 インターンシップサイト (URL : http://www.consortium.or.jp/project/intern)</p>

大学コンソーシアム京都「単位互換制度」および「インターンシップ・プログラム」について

大学コンソーシアム京都は、京都地域の大学および短期大学が各大学から特色ある科目を提供し、相互に科目履修のできる「単位互換制度」を運営しています。また、学生が在学中に企業や行政機関およびNPO・NGO等において就業体験をする「インターンシップ・プログラム」を開講し、これらの事業内容を年々充実すると共に継続的に発展させています。

この「単位互換制度」および「インターンシップ・プログラム」等の大学コンソーシアムの事業には、本学を含め50以上の大学および短期大学が参加しており、これまでも多くの学生が参加しています。

これらの教育プログラムの具体的な内容等の案内および出願手続きの資料等については、理工学部教務課（および「インターンシップ・プログラム」についてはインターンシップ支援オフィス）窓口にて配付します。

1. 「単位互換制度」について

この事業のために用意された特定の授業のうち、理工学部が予め認定対象科目（掲示でお知らせします）として認めた科目を「単位互換履修生」として受講し、試験に合格すれば、下記の要領にしたがって単位が認定されます。受講料は無料です。（ただし、科目により実習・演習料金等が別途必要となる場合があります。）

また、京都駅前「キャンパスプラザ京都」においても「単位互換科目」としての授業科目が各大学から提供されています。本学部の学生が他大学において提供された科目を受講する際は、「単位互換履修生」として扱われることになっています。

(1)履修条件

履修条件は、下記のとおりです。なお、不明な点は理工学部教務課で確認してください。

【2008年度以降入学生】

学科	単位互換制度名	備 考			
		単位認定	登録制限	受講対象	備考
数理情報学科	大学コンソーシアム京都	・在学期間中にフリーゾーン科目として上限2単位まで単位を認定する。	履修登録制限単位には含まない。	1年次生～3年次生（卒業年次生は随意科目として受講可。）	大学コンソーシアム京都の単位互換科目と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換科目を合わせて在学期間中に上限8単位まで履修を認める。
	環びわ湖大学・地域コンソーシアム				
機械システム工学科	大学コンソーシアム京都	<2008～2013年度入学生> 自由選択科目として上限2単位まで単位を認定する。			
	環びわ湖大学・地域コンソーシアム	<2014年度以降入学生> 随意科目として単位を認定する。			
電子情報学科 物質化学科 情報メディア学科 環境ソリューション工学科	大学コンソーシアム京都	<2008～2014年度入学生> 在学期間中に教養教育科目の総合科目として上限2単位まで単位を認定する。			
	環びわ湖大学・地域コンソーシアム	<2015年度以降入学生> 在学期間中に教養教育科目の選択科目として上限2単位まで単位を認定する。			

(2)出願手続きについて

「大学コンソーシアム京都 単位互換制度」で提供される授業の履修を希望する学生は、前期・後期・集中科目とも、4月初旬の指定された登録日に出願手続きをおこなってください。

出願手続きは、ポータルサイトにログインして、「大学コンソーシアム京都単位互換出願」に入力してください。なお、受講機会拡大のため、後期科目の定員に余裕がある科目について9月中旬に後期追加登録を

おこないます。

なお、出願日については、ポータルサイト（学内版）で確認してください。

科目開設大学の都合により、男子学生の受講が制限されたり、科目の性質から学部および学年が制限される場合があります。受講資格については、大学コンソーシアム京都のホームページ「単位互換開講科目webシラバス」を参照してください。

(3)履修許可および履修手続き

申し込み者多数の場合は、選考（書類選考等）をおこなう場合があります。科目開設大学からの選考結果は4月末頃に掲示およびメールでお知らせします。後期追加登録は10月上旬に選考結果をお知らせします。許可を受けた者は、科目開設大学によっては、指定の期日までに所定の手続き（身分証明書用写真、実習費用の必要な場合には、費用の納入など）を必要とする場合がありますので、科目開設大学の指示に従ってください。

(4)単位互換履修生の学籍およびその取り扱い

- ①履修手続きを完了した者は、科目開設大学における「単位互換履修生」となります。
- ②単位互換履修生は許可を受けた授業科目について受講することができ、当該科目についての試験に合格すれば、単位の認定を受けることができます。
- ③単位互換履修生は、自分が受講する科目開設大学の定める範囲において、履修期間中に限りその大学の施設（図書館等）を利用することができます。
- ④休講・補講・教室変更等の連絡は、大学コンソーシアム京都ホームページで確認してください。
ホームページアドレス <http://www.consortium.or.jp/>

(5)試験について

試験期間は、科目開設大学の定めるところにより実施されますので、当該科目と本学の試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに理工学部教務課窓口に相談してください。

なお、単位互換科目に関し本学定期試験と重なった場合の取扱いは以下のとおりです。

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）

○印は、随意科目として扱う科目

本学の授業科目	大学コンソーシアム科目	対応方法	本学の科目の追試対象	追試受験料
◎	◎	大学コンソーシアム科目を優先して受験させる	認める	免除
○	◎	大学コンソーシアム科目を優先して受験させる	認める	免除
◎	○	本学の科目を優先して受験すること。ただし、本人の判断により選択可能。	認める	必要
○	○	本人の判断により選択	認める	必要

(6)その他の注意事項

大学コンソーシアム京都の単位互換科目のほとんどは人数制限があり、希望者全員が受講できるものではありません。しかしながらその一方では、受講が許可されたにも関わらず受講を放棄する学生も多数います。許可された科目を放棄することは、受講を許可されなかった学生のみならず、科目開設大学にも大変な迷惑をかけることとなります。出願にあたっては、途中で放棄することのないよう、キャンパス間の移動時間の確保も含めて慎重に科目を選択し、受講が許可された場合には必ず最後まで受講するようにしてください。大学コンソーシアム京都の単位互換科目の成績は全て、3月下旬に配付される第2学期（後期）分の成績表に記載されます。

2. 「インターンシップ・プログラム」について

大学コンソーシアム京都が実施する「インターンシップ・プログラム」には、以下のプログラムが用意されています。

- ①短期実践型（夏期）「ビジネスコース」・「パブリックコース」
夏期休暇を中心としたインターンシップを企業や行政機関およびNPO・NGO等においておこなう。
- ②長期プロジェクト型「プログレスコース」
3～6ヶ月の長期にわたり企業、NPOなどで実際にひとつのプロジェクトを担当する。

「インターンシップ・プログラム」は理工学部では最終評価に合格すれば、以下のとおり単位が認定されます。なお、インターンシップ・プログラムを受講希望で単位認定を希望の場合は、必ず事前（応募まで）に理工学部教務課および各学科の学外実習実施委員まで相談すること。

学部	学科・専攻	科目名称 (学則上の名称)	科目 単位数	単位数 (上限)	科目区分	必須・ 選択区分	対象年次	単位認定 の取り扱い	備 考
理工 学部	全学科	****	**	**	****	****	1～2年次生	単位認定 対象外	
		学外実習 (キャリア実践実習)	2	2単位	固有科目	学科によっ て異なる。	3年次生	合格(G) ※不合格(D)	3年次生受講生は、「学 外実習（キャリア実践 実習）」で読み替える。

※具体的な単位認定方法（単位登録・評価方法・履修制限等）は理工学部教務課に確認してください。

これらの「インターンシップ・プログラム」の受講を希望する学生は、本学の授業や定期試験等と「インターンシップ・プログラム」の日程が重なることも考えられますので理工学部教務課窓口で事前に相談してください。

なお、コースのプログラム内容等については、「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」で確認してください。

(1)資格要件 理工学部学生の履修条件は以下のとおりです。

3年次に、「学外実習（キャリア実践実習）」の科目として履修登録を行うこと。

※3年次以外の受講については、単位認定対象外とする。

(2)出願手続について

理工学部教務課、またはインターンシップ支援オフィス窓口において、「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」と受講を希望するコースの「インターンシップ・プログラム出願票」を受け取り、「募集ガイド」を熟読のうえ、「出願票」に必要事項を記入、写真を貼付し、キャンパスプラザ京都の「大学コンソーシアム京都事務局窓口」に定められた期日までに提出してください。なお、出願できるのは、1名につき1コースであり、複数コースへの出願、同一コースの重複出願があった場合は、その全てが無効になるので注意してください。

(3)インターンシップ・プログラムの枠組みについて

「事前学習」→「実習（中間指導）」→「事後学習」をひとつの枠組みとした、各コースの目的に沿ったプログラムの学習・実習がおこなわれます。

①事前学習について

実習に先だって、実習が有意義なものとなるように準備に万全をきすためのプログラムで、オリエンテーション、実習先の研究を通じ職業意識を啓蒙するディスカッション、最低限必要なパソコンのスキルアップやビジネスマナー講座などがあります。

②実習について

実習先において正（準）社員・職員と同じ責任と意識をもった就業体験ができるよう、各受入先では特

色あるプログラムが策定されています。

③事後学習について

ゼミクラスで各々の実習体験を報告することによって、自らの問題意識や関心を明確にし、今後の学習効果やライフプランにつなげていくことを重点とした学習をおこないます。

(4)実習先の決定について

実習生の希望や適性を考慮して、大学コンソーシアム京都インターンシップ事業推進室の総合コーディネーター（大学教員）を中心とした「選考委員会」にて決定されます。この際、受け入れ人数の問題等によって、必ずしも希望する業界や職種で実習できない場合があることを出願時から理解しておいてください。

(5)定期試験及び追試験受験資格の認定

インターンシップ受入先の都合により、やむを得ず実習期間と定期試験日時が重なることがあります。当該実習と定期試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに理工学部教務課窓口にご相談してください。

なお、インターンシップの実習期間が本学定期試験と重なった場合の取扱いは、次のとおりです。

本学の 授業科目	インターンシップ	対応方法	本学の科目の 追試対象	追試受験料
◎	◎	インターンシップを優先する	認める	免除
○	◎	インターンシップを優先する	認める	免除
◎	○	本人の判断により選択可能	認める	免除
○	○	本人の判断により選択可能	認める	免除

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）

○印は、随意科目として扱う科目

環びわ湖大学・地域コンソーシアム 「単位互換制度」について

環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換制度が提供する科目を履修し、それを単位として認定する制度です。

この制度では滋賀県特有の内容をテーマにした科目や各大学や短期大学の学部・学科・専攻の特徴的な科目が提供されています。本学の学生は本学の定める範囲において、単位互換科目を受講することができます。

(1)履修条件

履修条件は、下記のとおりです。なお、不明な点は理工学部教務課で確認してください。

【2008年度以降入学生】

学科	単位互換 制度名	備 考			
		単位認定	登録制限	受講対象	備考
数理情報学科	大学コンソーシアム京都	・在学期間中にフリーゾーン科目として上限2単位まで単位を認定する。	履修登録制限単位には含まない。	1年次生～3年次生 (卒業年次生は随意科目として受講可。)	大学コンソーシアム京都の単位互換科目と環びわ湖大学コンソーシアムの単位互換科目を合わせて在学期間中に上限8単位まで履修を認める。
	環びわ湖大学・地域コンソーシアム				
機械システム工学科	大学コンソーシアム京都	<2008～2013年度入学生> 自由選択科目として上限2単位まで単位を認定する。			
	環びわ湖大学・地域コンソーシアム	<2014年度以降入学生> 随意科目として単位を認定する。			
電子情報学科 物質化学科 情報メディア学科 環境ソリューション工学科	大学コンソーシアム京都	<2008～2014年度入学生> 在学期間中に教養教育科目の総合科目として上限2単位まで単位を認定する。			
	環びわ湖大学・地域コンソーシアム	<2015年度以降入学生> 在学期間中に教養教育科目の選択科目として上限2単位まで単位を認定する。			

(2)出願手続きについて

環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換制度で提供される科目の履修を希望する学生は、指定された登録期限日までに出願手続きを行ってください。出願書類は、環びわ湖大学・地域コンソーシアムのホームページより「環びわ湖大学・地域コンソーシアム 単位互換履修生 出願票」をダウンロードし、1科目1枚として、理工学部教務課の窓口に出願してください。

受講料は、実習費等が別途必要な場合を除いて無料です。ただし、実習費等が必要な科目については、履修許可通知が届いた後、科目開設大学の指示にしたがって納入してください。

(3)履修許可および履修手続きについて

出願者多数の場合は、科目開設大学において選考が行われ（原則として、出願票に各自が記載した「志望理由」をもとに選考されます）、選考結果は本学を通じて出願者に通知します。許可通知は4月末頃の予定です。前期科目の場合、出願して履修許可通知があるまでの4月前半に授業が開始されることがあります。この場合、履修許可通知があるまでは、その出願科目を仮受講してください。

許可通知の後、科目開設大学によっては写真提出等の別途手続きを必要とする場合もありますので、科目開設大学の指示に従ってください。

以下の項目については、「大学コンソーシアム京都『単位互換制度』」に準じていますので、当該HPを参照してください。

(4)単位互換履修生の学籍およびその取り扱い

※休講・補講・教室変更等は、所属の学部教務課で確認してください。

(5)試験について

(6)その他の注意事項

放送大学科目の受講について

【文学部、経済学部、法学部、政策学部、国際（国際文化）学部、社会学部コミュニティマネジメント学科、理工学部数理情報学科・機械システム工学科、適用】

放送大学とは、テレビ・ラジオまたその記録媒体等を効果的に活用して、大学教育の機会を多くの人々に提供していく正規の大学で、放送大学学園法に基づき設立されています。

本学と放送大学が単位互換に関する協定を締結したことにより、学生は、本学部が指定した「放送大学科目」を受講することによって取得した単位を卒業要件単位として認定されます。この「放送大学科目」を受講する学生は、放送大学では「特別聴講学生」として扱われます。

受講希望者は下記要領を熟読の上、所定の手続きをしてください。

なお、受講にあたっては、1単位あたり5,500円（2単位科目、11,000円）の授業料が必要になります。

1. 履修方法および単位認定等について

①出願および履修期間

「特別聴講学生」の履修期間は、2セメ（法学部を除く）、4セメ、6セメ（1、2、3年後期）の1学期間（6ヶ月）です。

特別聴講学生出願票は理工学部教務課窓口にあります。

出願および履修・試験期間は次のとおりです。

出願期間	履修期間	単位認定試験期間
6月頃（予定）	10月～翌年1月 （予定）	1月下旬（予定） 不合格の場合、同年7月下旬～8月に行われる単位認定試験（再試験）を受験することができます。（無料）

※詳細は、学部教務課の掲示板をご確認ください。

②履修できる放送大学科目

理工学部（数理情報学科・機械システム工学科）

放送大学（教養学部）開講科目全てを対象とする。

<DVD、CDの視聴について>

4号館1階にある放送大学滋賀学習センターで、DVDおよびCDの視聴ができます。

学習センター内での視聴はどの都道府県でも可能ですが、貸出については、所属学習センター（滋賀学習センター）のみとなります。

③学期毎の履修登録制限

理工学部が定めている履修登録制限単位数には含みません。

④単位認定できる上限単位数

理工学部（数理情報学科・機械システム工学科）	随意科目として、4単位まで
------------------------	---------------

⑤履修方法

学期開始までに送付される印刷教材と本学ならびに学習センターに設置されているDVD、CDによる視聴および通信指導によって学習し、学期末に本学において単位認定試験を受けることになります。

通信指導とは、原則15回の放送授業のうち8回まで学習を終え、放送大学から通知される課題についてレポートを放送大学に提出し、放送大学教員による採点・評価・指導を受ける通信添削です。この通信指導に合格しなければ、単位認定試験は受験できません。

⑥単位認定試験について

単位認定試験は、例年1月下旬頃に実施する予定です。

試験は、原則として所属学習センターで受験することになります。

深草・大宮学舎の学生は、「京都学習センター（京都市大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）内）」瀬田学舎の学生は、「滋賀学習センター（瀬田学舎4号館1階）」の所属となります。

事情により所属以外の学習センター等で受験を希望する場合は、「特別聴講学生出願票」に希望場所のコードを記入の上、提出してください。

その他の詳細については、学部教務課窓口で確認ください。

なお、試験当日欠席した場合は、追試験制度はありませんので、次学期で再試験を受験してください。（「⑨再履修（再試験）について」を参照。）

⑦単位の認定

成績表は放送大学から本人および本学に通知されます。本学は成績等を確認の上、単位認定します。

⑧単位取得

試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定します。

なお、放送大学の成績評価は、④A,B,C（合格）、D,E（不合格）等の標記によって通知されるため、本学では次のような素点換算により本学成績表に表示します。

放送大学	本学素点換算
④ (90点以上)	95
A (89～80点)	85
B (79～70点)	75
C (69～60点)	65
D (59～50点)	55
E (49点以下)	45
未 (未受験)	0
否 (受験資格無)	0

⑨再履修（再試験）について

放送大学では、次学期（3セメ、5セメ、7セメ）において再履修（再試験）制度があります。

この制度は単位認定試験や通信指導において不合格になった場合（試験欠席、通信レポート未提出も含む）、次学期の1回に限り再試験の受験ならびに通信レポートの再提出ができます。

次学期での再試験を希望する場合は、放送大学に対する手続きは不要ですが、本学の履修登録で放送大学科目の登録をしなければなりません。

なお、再試験は、例年7月下旬～8月上旬に実施されます。

詳しくは放送大学のホームページ（<http://www.ouj.ac.jp>）で確認してください。

⑩放送大学科目の試験と本学の試験日時が重なった場合

放送大学科目の試験期間は本学と同じ時期に実施されます。このことにより、放送大学科目と本学科目の

試験時間が重なった場合は、原則として放送大学科目を優先して受験し、本学科目については、追試験で受験してください。

なお、この場合に限り、追試験の適用を次のとおりとします。

(ア)追試験の受験料は無料です。

(イ)諸課程科目についても実施の対象になります。

※その他については、通常の追試験制度に準じます。

2. 放送大学への出願および本学での履修登録について

①放送大学科目出願について

受講希望者は、出願期間（詳細は学部掲示板をご確認ください）に「特別聴講学生出願票」を理工学部教務課窓口へ提出してください。放送大学科目は、出願期間までに単位認定試験の時間割が発表されていますので、試験日・時限を確認の上、出願してください。

②学費について

入学料は無料ですが、授業料として1科目（2単位）につき、11,000円（1単位あたり5,500円、テキスト費込）が必要です。出願後、放送大学から送付されてくる用紙にて、直接、納入してください。

③本学での履修登録について

放送大学科目を受講する場合は、「特別聴講学生出願票」の提出の他に本学の履修登録で放送大学科目を登録しなければなりません。また、次学期で再試験を受験する場合も同様に履修登録してください。

履修登録（本登録）をしないで単位認定試験および再試験を受験し合格しても、本学の単位として認定されないので注意してください。

3. 龍谷大学以外での学習方法

①視聴方法

テレビ・ラジオともBSデジタル放送やケーブルテレビにより全国どこでも受信できます。ケーブルテレビで視聴するには、お住まいのケーブルテレビ局の配信状況を確認してください。また、視聴方法等については、それぞれのケーブル局に確認してください。

②再視聴

所定の時間帯に視聴できなかった場合や、繰り返し学習したい場合は、都合の良い日に視聴することが出来ます。学習センターは土曜日、日曜日も利用できます。（月曜日、祝日休み）

所属する学習センターでは、DVD、CDの貸出を受けることが出来ます。

※なお、学習センターの利用に際しては放送大学の学生証を必ず持参してください。

③滋賀学習センターの所在地

瀬田学舎4号館1階

4. 出願から成績評価までの流れ

出願後の手続きについては、後日、放送大学から自宅に書類が送付されますので、そちらでご確認ください。

〈参考〉

※以下の日程はすべて予定です。詳細な日程等につきましては、必ず学部教務課の掲示板をご確認ください。

①放送大学科目の登録手続き

出願・科目登録申請	6月下旬	理工学部教務課窓口
授業料の払込み	9月上旬	後日、自宅に送付されてくる用紙で振込んでください。
教材の配付	学費納入確認後随時	放送大学から自宅に送付されます。
学生証の交付	学費納入確認後随時	自宅に送付されてくる入学許可書を所属学習センターへ持参し、交付を受けてください。
履修登録（本学）	日程については、掲示板等で確認してください。	理工学部教務課窓口

②受講および単位認定試験等について

授業開始（15回）	10月1日頃～	本学（深草学舎）5号館2階・3階セルフラーニング室および学習センター
通信指導問題の送付	11月上旬まで	放送大学から自宅に送付されます。
通信指導解答の提出	12月上旬まで	放送大学へ直接提出。8回まで視聴を終了してください。
通信指導添削の返送	1月中旬	放送大学→学生
単位認定試験通知	1月中旬	放送大学→学生
放送授業終了	1月下旬	
単位認定試験	1月下旬	試験の場所等詳細は学部教務課の掲示板を確認してください。
成績通知	3月上旬	放送大学→学生 放送大学→本学

※単位認定試験ならびに通信指導を不合格になった場合は、次学期（3セメ、5セメ、7セメ）で1回限り、再試験ならびに通信レポートの再提出ができます。

放送大学への手続きは不要ですが、本学の履修登録で「放送大学科目」を登録してください。

履修登録をせず再試験に合格しても、本学の単位として認定されませんので注意してください。

※日程は目安です。詳細は学部教務課の掲示板をご確認ください。

協定型インターンシッププログラム

1. プログラムについて

本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして全学共通の協定型インターンシップを展開しています。このインターンシップは、建学の精神にもとづくきめ細かな事前・事後学習を展開する、本学独自の特色のあるインターンシッププログラムです。具体的な内容については、インターンシップ支援オフィスが毎年度発行する「インターンシッププログラム」のリーフレットを参照してください。

また、理工学部では、卒業要件単位として単位認定されます。詳細については、下記のとおりです。

(1)対象学年

学部3年次に、「学外実習（キャリア実践実習）」の科目として履修登録を行うこと。

※3年次以外の受講については、単位認定対象外とする。

なお、協定型インターンシッププログラムを受講希望で単位認定を希望の場合は、必ず事前（応募まで）に理工学部教務課および各学科の学外実習実施委員まで相談すること。

(2)単位認定

※具体的な単位認定方法（単位登録・評価方法・履修制限等）は理工学部教務課にて確認してください。

学部	学科・専攻	科目名称 (学則上の名称)	科目 単位数	単位数 (上限)	科目区分	必修・ 選択区分	対象年次	単位認定 の取り扱い	備考
理工 学部	全学科	****	**	**	****	****	1～2年次生	単位認定 対象外	
		学外実習 (キャリア実践実習)	2	2単位	学部内共通 科目	学科によっ て異なる。	3年次生	合格(G) ※不合格(D)	3年次生受講生は、「学 外実習（キャリア実践 実習）」で読み替える。

(3)応募方法

当プログラムの応募方法等の詳細内容については、インターンシップ支援オフィスで毎年度配布される募集要項を参照してください。

(4)シラバス

インターンシップ支援オフィスの掲示板等で確認してください。

(5)定期試験及び追試験受験資格の認定

インターンシップ受入先の都合により、やむを得ず実習期間と定期試験日時が重なることがあります。当該実習と定期試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに理工学部教務課窓口にご相談ください。

なお、協定型インターンシップの実習期間が本学定期試験と重なった場合の取扱いは、次のとおりです。

本学の授業科目	協定型 インターンシップ	対応方法	本学の科目の 追試対象	追試受験料
◎	◎	インターンシップを優先する	認める	免除
○	◎	インターンシップを優先する	認める	免除
◎	○	本人の判断により選択可能	認める	免除
○	○	本人の判断により選択可能	認める	免除

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）

○印は、随意科目として扱う科目

※ただし、協定型インターンシップが単位認定されない場合（協定型インターンシップが上記○、および◎に当てはまらない場合）は、各学部の判断で追試験の対象と認定されても追試験受験料は免除としない。

(6) 注意事項

このインターンシップ・プログラムは、事前学習・実習・事後学習の全てのカリキュラムを通じて、キャリア形成を支援する内容となっているため、原則欠席することはできません。また、途中で辞退することは、実習先（企業・各種団体等）に大変な迷惑をかけることになるため、特別な事情がない限り認められません。

諸 課 程

(1) 諸課程

教職課程	担当窓口・関係情報
<p>教職課程は、教員免許状の取得を目指す学生を対象とした課程です。教科等に関する確かな専門的知識はもちろん、広く豊かな教養、人間の成長・発達への深い理解、生徒に対する教育的愛情、教育者としての使命感を基盤とした、実践的な指導力を養成することを目的に設置しています。</p>	<p>(担当窓口) 教職センター 深草学舎 紫英館 1階 大宮学舎 西饗 1階 瀬田学舎 3号館 1階</p> <p>(関係情報) 『教職課程ガイドブック』</p>
本願寺派教師資格課程	担当窓口・関係情報
<p>浄土真宗本願寺派教師（住職）となるための資格です。本願寺派教師資格として必要な科目を履修することで取得できます。</p>	<p>(担当窓口) 理工学部教務課 瀬田学舎 1号館 1階</p> <p>(URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p>
博物館学芸員課程	担当窓口・関係情報
<p>資料の収集・保管・展示および調査研究等の業務に携わり、博物館の事業全般をサポートする博物館学芸員を養成します。</p>	<p>(担当窓口) 理工学部教務課 瀬田学舎 1号館 1階</p> <p>(URL) http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p>

(2) 特別研修講座・各種講座・試験について

課程	目的・内容	担当部署
開教使課程	<p>将来、海外開教使（外国における真宗伝道）を志す人のために、必要な知識を修得させることを目的とした講座</p>	文学部教務課
矯正・保護課程	<p>刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員、犯罪や非行をしてしまった人たちの社会復帰の手助けをする保護観察官等の専門職やボランティアとして活躍する人たちを養成することを目的としています。</p>	<p>(全学) 矯正・保護総合センター事務部 深草学舎至心館 1階 (深草) 法学部教務課 深草学舎 紫英館 1階 (大宮) 文学部教務課 大宮学舎 西饗 1階 (瀬田) 社会学部教務課 瀬田学舎 6号館 1階</p>
法職課程	<p>司法書士試験をはじめ、各種公務員試験（裁判所事務官試験など）の合格や法科大学院進学を目指す学生に対し、体系的かつ効率的な講座及び最新の試験情報などを提供し、合格者を輩出することを目的としています。</p>	<p>法学部教務課 深草学舎 紫英館 1階</p>
教員採用試験対策講座	<p>教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座</p>	<p>教職センター 深草学舎 紫英館 1階 大宮学舎 西饗 1階 瀬田学舎 3号館 1階</p>

課 程	目的・内容	担当部署
<p>キャリア支援講座</p> <p>※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。</p> <p>※名称は変更することがあります。</p> <p>※開講する学舎が限定されていることがあります。</p>	<p><目的・内容> 就職活動のサポートや公務員試験対策、将来のキャリアアップのための資格試験対策などを目的とした各種講座</p> <p><就職対策系> 就職筆記試験対策講座／エントリーシート対策講座／</p> <p><試験対策> 公務員講座</p> <p><資格系> TOEIC®講座／旅行業務取扱管理者講座／FP技能士講座（3級・2級AFP）／宅地建物取引士講座／基本情報技術者講座／MOS講座（Excel2013、Word2013）／社会福祉士国家試験講座／介護職員初任者研修講座／CAD利用技術者講座（2級）／色彩検定講座／秘書検定講座／</p>	<p>キャリアセンター 深草学舎 5号館1階 大宮学舎 西翼1階 瀬田学舎 1号館1階</p>
<p>RECコミュニティカレッジ 外国語コース</p>	<p><生涯学習講座 「RECコミュニティカレッジ」の外国語コース> REC生涯学習講座「RECコミュニティカレッジ」の「外国語コース」では、入門から上級までレベルに応じた英語講座を多数開講しているほか、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語も開講しており、語学力を向上させ、正規の授業を補完できる内容となっています。 本学学生は割引価格で受講できます。詳しくはREC（京都・滋賀）の窓口で配布している『RECコミュニティカレッジパンフレット』をご覧ください。</p> <p>※「RECコミュニティカレッジ」では、「外国語コース」のほか、「仏教・こころ」「文化・歴史」など多様な講座を開講しています。</p>	<p>REC事務部 深草学舎 紫光館5階 瀬田学舎 RECホール</p>

本願寺派教師資格課程について

本願寺派の寺院出身者のうち、多くの方が在学中にこの課程科目を受けています。この「教師」とは、浄土真宗本願寺派における寺院の住職になる資格にあたるもので、1回生のときからこの課程にかかわる科目を、いくつか履修することができます。もちろんこの資格を取得するためには、最終的には、本山が実施している研修（教師教修）を受けなければなりません。

受講を希望する場合は、各学部の科目一覧を確認し、履修登録してください。

本山教師科目	本学開講の関連科目	年次	単位	備考
真宗教義	真宗学概論	2	4	通年
仏教教義	仏教学概論	2	4	通年
真宗史	真宗史	1	4	通年
仏教史	日本仏教史	1	4	通年
宗教概説	宗教学概論	2	4	通年
勤式作法	勤式	1	4	*通年
宗門法規	宗門法規	1	2	◎前期集中
布教法	教化法	1	4	*通年

隔年開講科目があるので計画的に履修してください。

*……2016、2018、2020年度開講

◎……2015、2017、2019年度開講

学修生活の手引き

I 窓口事務・保健管理センター ・障がい学生支援室について

1. 窓口事務

窓口取扱時間は次のとおりです。ただし、日曜日・祝日並びに大学で定める休業日を除きます。

1-1 理工学部教務課窓口・教学部の窓口取扱時間

理工学部教務課窓口、瀬田教学部

曜日等	取扱時間	備考
月、水、木、金	9:00～17:30	ただし、授業実施日・試験期間以外の期間は、11:45～12:45を閉室し、窓口業務は行いません。
火	10:45～17:30	
土、日、祝日並びに大学の定める休業日	窓口業務は行いません。	

1-2 届書・願書および各種証明書

理工学部教務課窓口で取り扱う届書・願書および各種証明書には次のものがあります。なお、用紙はすべて本学所定のものを使用してください。（理工学部教務課窓口で受け取ることができます。）

(1) 届書（※印のものは、保証人の連署が必要。）

事項	添付書類
※保証人変更届	特になし
現住所変更届	特になし
改姓名届	住民票記載事項証明書

(2) 願書（※印のものは、保証人の連署が必要。）

事項	添付書類	受付期間
※休学願	理由書または診断書	○1年間・第1学期休学 当該年度の6月30日まで ○第2学期休学 当該年度の12月31日まで
※復学願	理由書	○第1学期復学 前年度3月1日から3月31日まで ○第2学期復学 当該年度9月1日から9月30日まで
※退学願	理由書または診断書、学生証	
追試験受験願	理由書、追試験料納付書、診断書等の証明書	当該科目の試験日を含め4日以内 (土・日・祝日は含まない)

(3) 各種証明書の交付申請

各種証明書は、原則として学内に設置している「証明書自動発行機」にて発行します。証明書自動発行機を利用する際は、「学生証」と「全学統合認証パスワード」が必要です。

ただし、証明書の種類によっては、証明書自動発行機から発行できない証明書がありますので、その場合は、証明書自動発行機で各種証明書の交付願を出力し、理工学部教務課窓口にて提出・交付申請を行ってください。

なお、電話やファクシミリ、電子メールによる証明書の交付申請は一切取り扱っておりませんので、予め留意してください。

各種証明書の交付に必要な日数や手数料は、下表のとおりです。

交付に必要な日数等	証明書の種類	手数料	備考
即日交付	在学証明書	1通 100円	左記証明書は、証明書自動発行機から直接発行が可能です。
	卒業（修了）証明書		
	卒業（修了）見込証明書		
	学業成績証明書	1通 200円	
	健康診断証明書		
	卒業（修了）・学業成績証明書		
	卒業（修了）見込・学業成績証明書	無料	
学割証			
2日後交付	単位修得証明書	1通 100円	左記証明書は、証明書自動発行機で交付願を出力し、理工学部教務課窓口へ提出してください。
	単位修得見込証明書		
	在籍証明書		
	教育職員免許状取得見込証明書		
	本願寺派教師資格科目履修証明書		
1週間後交付	学力に関する証明書	1通 200円	
	英文証明書	1通 300円	

(注1) その他の証明書等詳細については、本学ホームページの「各種証明書発行について」をご確認ください。

(注2) 手数料の納金は、すべて証明書自動発行機で行ってください。

(注3) 卒業見込に関する証明書は、データ更新等の処理に伴い発行できない期間が生じることがありますので注意してください。詳しくは理工学部掲示板でお知らせします。

(注4) 「卒業（見込）証明書」、「学業成績証明書」は、「卒業（見込）・学業成績証明書」という1枚の証明書として交付が可能です。特に分ける必要のない場合、「卒業（見込）・学業成績証明書」で交付を受けてください。

《卒業後の証明書交付申請》

電話による申請は一切受け付けておりません。

本学ホームページ（<http://www.ryukoku.ac.jp>）の「対象者別」→「卒業生の方」→「証明書の発行」にアクセスし、「各種証明書発行について」－「郵送で申請の場合」から「証明書交付願」フォームをダウンロードできます。なお、携帯電話には対応していませんのでご了承ください。

① 郵送で申請する場合

郵送による申請は、下記の内容に留意してください。

<p>◆証明書に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な証明書の種類と枚数 ・必要な証明書の使用目的 ・証明書の提出先 <p>◆申請者に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏名（在学時の姓から変更がある場合は、旧姓も記入してください） ・生年月日 ・出身学部、学科名（文学部は専攻名） ・学籍番号 ・卒業年度 ・連絡先（現住所）（郵便番号を含む） ・電話番号 ・証明書送付先 （連絡先と同じ場合は記入不要です。） <p>※原則として証明書の送付は本人宛に限ります。</p>	<p>◆同封が必要なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返信用封筒 返信先住所を明記してください。 （返信に必要な切手を貼付してください。） ・手数料（切手に限る） ・身分証明書のコピー
--	---

② 直接、来学する場合

直接、来学して窓口で申請する場合は、身分証明書（運転免許証・健康保険証・パスポート等のいずれか）を持参の上、証明書自動発行機から出力される「証明書交付願」に必要な事項を記入し、理工学部教務課窓口へ申請してください。直接、来学された場合は、和文証明書（教員免許状・学力に関する証明書を除く）については、文学部を除き即日交付が可能です。文学部は原則として2日後（土・日・祝日・夏期・冬期休業日を除く）の交付となります。※窓口取扱時間をご確認ください。

(4) 学校学生生徒旅客運賃割引証（以下、「学割証」）(手数料無料、即日交付)

学割証は、証明書自動発行機から直接発行ができます。ただし、必ず学生証を持参してください。なお、証明書自動発行機から発行できる枚数は1人年間20枚までです。年間20枚を超えて必要な場合は、理工学部教務課に申し出てください。

◆ 学割証の使用については、学割証裏面の注意事項を厳守することはもちろん、次の事項に注意してください。

ア. 学割証は本人に限って使用できますが、学生証を携帯しない場合は使用できません。

イ. 学割証の不正使用を行なった場合は、大学へのペナルティーとして、学割証の交付停止、既交付分の回収がされます。他の学生への不利益が生じますので、不正使用は絶対にやめてください。

ウ. 学割証は片道100kmを超える区間を乗車・乗船する場合に使用できます。割引率は普通運賃の2割引、有効期間は発行日から3カ月間です。なお、夏・冬期休暇前には学割証の申し込みが集中するので、余裕を持って申し込むようにしてください。

※なお、学生8名以上で（ただし、学生8名の他に教職員（非常勤講師含む）1名以上の引率者を含むことを条件として）旅行する場合は、運賃が5割引（ただし、引率者は3割引）となる制度があります。申込用紙（生協サービス事業部、各主要駅、旅行代理店等で求めてください）を出発日2週間前までに下記窓口へ提出の上、手続きすれば即日発行されます。

ゼミナールやクラスの場合……………理工学部教務課窓口

クラブやサークルの場合……………学生部

1-3 各種証明書の交付について

各種証明書および申請書の発行申込等には、学生証が必要です。また、手続き方法は、証明書自動発行機で申請書を交付しますので、理工学部教務課窓口にて申請手続きを行ってください。

◆ 証明書自動発行機の設置場所およびサービス時間等について

学舎	設置場所	曜日	時間帯
深草	21号館1階エントランスホール	月～金	8:45～21:45
		土	8:45～17:15
	紫英館1階理工学部教務課窓口	月～金	8:45～17:15 (但し、火曜日は10:30～)
		紫光館1階ロビー	月～土
大宮	西翼（新館）1階ロビー	月～金	8:45～20:15
		土	8:45～17:15
瀬田	1号館1階エントランスホール	月～土	9:00～17:30
	9号館農学部教務課前	月～金	9:00～17:30
	6号館社会学部教務課	月～金	9:00～17:30 (但し、火曜日は10:45～)
大阪・梅田 キャンパス	フロア	月～金	10:00～18:30 就職活動繁忙期は 10:00～19:00

⚠ 注意事項

- ・ 証明書自動発行機を利用するときは、「学生証」と学生個々に与えられる「全学統合認証パスワード」が必要です。
※パスワードは、学内パソコンのログイン用と同じです。新入生は入学時のオリエンテーションで説明します。
- ・ 上記サービス時間帯は、原則として学年暦にある講義期間中の対応とします。
- ・ オリエンテーション期間を含む新学期当初の予定、試験期間中、春期・夏期・冬期休暇中の運用時間等については、サービス時間を変更します。サービス時間は本学ポータル内「証明書発行機運用時間」で公開しています。
- ・ 証明書自動発行機から直接発行が可能な証明書の交付および交付願の出力はいずれの学舎の証明書自動発行機でも対応しています。ただし、証明書自動発行機から直接発行ができない証明書については、所定の手続きが必要となりますので、各自が所属する理工学部教務課窓口で申請してください。
- ・ 学生証の再発行手続きが生じた場合、理工学部教務課窓口申し出てください。証明書自動発行機にて申請書を交付しますので、必要事項を記入の上、理工学部教務課窓口へ提出してください。
- ・ 証明書自動発行機では、証明書交付以外に各種特別研修講座や就職対策講座などの講座受講申込にも対応しています。その他、手数料が必要な場合も原則として証明書自動発行機にて対応します。
- ・ 夜間時間帯および土曜日において、証明書自動発行機に故障が生じた場合や「買い間違えた」場合の対応は、翌日もしくは翌月曜日以降となります。

1-4 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2009年5月施行の「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」（「裁判員法」）に伴い、みなさんが裁判員（候補者）に選任される可能性があります。

「呼出状」が届いて教育上の配慮が必要な場合は、速やかに理工学部教務課に相談してください。

裁判員（候補者）を務める場合は、当該学部長から当該授業科目を授業欠席すること及びそれによる教育上の不利益について講義担当者に配慮を求めることとします。試験については追試で対応することとし、追試料は無料とします。

2. 保健管理センター

保健管理センターの利用については、本学HP『保健管理センター』に掲載しています。（<http://www.ryukoku.ac.jp/hoken/index.php>）

毎年、4月には学生の定期健康診断が実施されますので、日程をHPで確認するようにしてください。

その他、主に次の情報を掲載しています。

- (1) カウンセラーに相談したい
- (2) 保健師・看護師に相談したい
- (3) 医師の診療を受けたい
- (4) 急な怪我をした
- (5) タバコをやめたい
- (6) 健康チェックをしたい
- (7) 健康診断
- (8) 健康診断証明書・健康診断書発行について
- (9) AEDについて知りたい

3. 障がい学生支援室

障がい学生支援室は、すべての学生が社会参加に向けて主体的に取り組むことを支援するという視点に立ち、障がいのある学生の学修や学生生活上の困難に対し、様々な相談、支援を行っています。また、障がいのある学生とサポートをする学生、その他すべての学生や教職員が互いに理解し、尊重し合える関係づくりを目指し、サポーター養成や研修会、交流会などにも取り組んでいます。詳しくは、本学HP『障がい学生支援』に掲載しています。

Ⅱ 気象警報発令および交通機関の運行中止に伴う授業 および定期試験の取り扱いについて

暴風警報、暴風雪警報、特別警報及び特別警報に位置づける警報が発令された場合や交通機関の運行中止が発生した場合の授業および定期試験（以下「授業等」という。）の休講措置の実施または授業等の再開は、「**授業休止の取扱基準**」に基づき以下のとおりとします。

1. 気象警報発令時の授業等の取り扱いについて

以下のいずれかの地域に暴風警報、暴風雪警報、特別警報（大雨、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮）、特別警報に位置づける警報（地震・津波・噴火）（以下「警報」という。）が発令された場合の休講措置の実施または授業等の再開は次のように取り扱います。

<地域>

- | |
|---------------------------------|
| ① 京都府南部（京都・亀岡、南丹・京丹後、山城中部、山城南部） |
| ② 大阪府（北大阪、大阪市、東部大阪、泉州、南河内） |
| ③ 滋賀県南部（近江南部、東近江、甲賀） |
| ④ 兵庫県南部（阪神） |

(1) 警報が午前6時30分時点で**発令されている**場合

6:30	→	授業等の取り扱い
6:30時点で警報が発令されている場合		1・2講時は休講

(2) 警報が午前6時30分から1講時開始までの間に**発令された**場合

6:30～1講時	→	授業等の取り扱い
6:30から1講時開始までの間に警報が発令された場合		1・2講時は休講

(3) 警報が午前6時30分から午前10時30分の間に**解除された**場合

6:30～10:30	→	授業等の取り扱い
6:30から10:30の間に警報が解除された場合		3講時から実施（1・2講時は休講）

(4) 警報が午前10時30分以降も**発令されている**場合

10:30～	→	授業等の取り扱い
10:30以降も警報が発令されている場合		3～5講時は休講

(5) 警報が午前10時30分から午後2時の間に**解除された**場合

10:30～14:00	→	授業等の取り扱い
10:30～14:00の間に解除された場合		6講時から実施

(6) 警報が午後2時以降も**発令されている**場合

14:00～	→	授業等の取り扱い
14:00以降も警報が発令されている場合		終日休講

(7) 警報が授業等の実施中に**発令された**場合※

警報発令時（授業中）～	→	授業等の取り扱い
警報が授業等の実施中に発令された場合		その都度、学長が休講措置の実施時刻を判断する。

※警報が上記(3)(5)の時間内に解除された場合は、それぞれに記載の「授業等の取り扱い」に基づき、授業等を実施します。

(注1) 上記の警報が発令された場合は、身の安全を確保することを最優先に考えて行動してください。また、警報発令時に大学構内にいる学生は、大学の指示に従ってください。

(注2) 特別警報ではない大雨警報、大雪警報、波浪警報、高潮警報、および、注意報のいずれかが発令された場合は休講になりませんが、十分注意してください。

2. 交通機関の運行中止に伴う授業等の取り扱いについて

- (1) 以下のうち、2つ以上の交通機関（区間）の運行が全面的または部分的を問わず中止された場合の休講措置の実施または授業等の再開は、次のように取り扱います。
- (2) 瀬田学舎は以下に加えて、J R（京都～米原間）または帝産湖南交通（J R瀬田駅～龍谷大学間）のいずれか1つの運行が中止された場合も、次のとおり取り扱います。

※「運転見合わせ」の場合は、休講とはなりませんので注意してください。ただし、通学不能または通学困難と学長が認めた場合は休講とする場合がありますので、その都度、大学のホームページ及びポータルサイトを必ず確認してください。

<交通機関>

- ① J R（米原～西明石間）
- ② 京都市営バス・京都市営地下鉄（全区間）
- ③ 京阪電車（出町柳～淀屋橋間）
- ④ 阪急電車（河原町～梅田間、梅田～三宮間）
- ⑤ 近鉄電車（京都～橿原神宮前間）

運行状況・時刻	授業等の取り扱い
(1) 午前6時30分時点で 運行を中止している 場合	1・2講時は休講
(2) 午前6時30分から1講時開始までの間に 運行中止となった 場合	
(3) 午前6時30分から午前10時30分の間に 運行が再開された 場合	3講時から実施（1・2講時は休講）
(4) 10時30分以降も 運行を中止している 場合	3～5講時は休講
(5) 午前10時30分から午後2時の間に 運行が再開された 場合	6講時から実施
(6) 午後2時以降も 運行を中止している 場合	終日休講

<交通機関の運行が授業等の実施中に中止となった場合※>

運行中止時（授業中）	授業等の取り扱い
交通機関の運行が授業等の実施中に中止となった場合	その都度、学長が休講措置の実施時刻を判断する。

※運行の中止が上記(3)(5)の時間内に再開された場合は、それぞれに記載の「授業等の取り扱い」に基づき、授業等を実施します。

3. その他非常時の授業等の取り扱いについて

上記に関わらず、通学不能または通学困難と学長が認めた場合は、休講とすることがあります。

4. 休講措置の実施又は授業等の再開の告知について

休講措置の実施又は授業等の再開については、大学のホームページ及びポータルサイトにおいて、その都度、告知します。

なお、台風等による影響が前日から予想される場合等は、あらかじめその対応について事前に告知します。必ず確認してください。

5. 注意事項

- (1) 定期試験期間中にこの取り扱いが適用された場合、当該試験に関しては別途掲示等により指示します。
- (2) 警報が発令された場合の区域について、本学の「授業休止の取扱基準」で規定している区域は、気象庁の発表区域に従えば、以下のとおりとなります。

気象庁は、警報・注意報を二次細分区域で発表しますが、これを受けてメディア等では、簡潔かつ効果的に情報を伝えるために、状況に応じて「一次細分区域」、「市町村等をまとめた地域」、「二次細分区域」のいずれかによって該当する区域をお知らせします。下表のいずれかに警報が発令されているか確認するようにしてください。

【一次細分区域】	【市町村等をまとめた地域】	【二次細分区域】
京都府南部	南丹・京丹波	南丹市、京丹波町
	京都・亀岡	京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町
	山城中部	宇治市、八幡市、城陽市、京田辺市、久御山町、宇治田原町、井手町
	山城南部	木津川市、和束町、精華町、笠置町、南山城村
大阪府	大阪市	大阪市
	北大阪	豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
	東部大阪	守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市
	南河内	富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村
	泉州	堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町
滋賀県南部	東近江	近江八幡市、東近江市、竜王町、日野町
	近江南部	野洲市、守山市、草津市、栗東市、大津市南部
	甲賀	甲賀市、湖南市
兵庫県南部	阪神	神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町

【注】二次細分区域は、市町村を原則としますが、一部の市町村では、それらが分割されて設定されるケースがあります。本学「授業休止の取扱基準」で規定する区域では、大津市がこれに該当し、北部と南部に分割され、大津市南部のみが基準の該当区域となります。(大津市北部に暴風警報、暴風雪警報、特別警報、特別警報に位置づける警報が発令されても休講とはなりません)。

Ⅲ 学籍の取り扱い

1. 学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は入学によって発生し、入学は大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は卒業により消滅します。

2. 学籍簿

(1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の**学籍番号**が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明書（学生証）の番号でもありますから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み

T	1 6	0	0 0 1
L：文学部・文学研究科 E：経済学部・経済学研究科 B：経営学部・経営学研究科 J：法学部・法学研究科 T：理工学部・理工学研究科 C：社会学部・社会学研究科 W：国際文化学部 ・国際文化学研究科 H：政策学部 U：国際学部 N：農学部 S：短期大学部 F：法科大学院 M：実践真宗学研究科 R：留学生別科	入学年度（西暦） の下2桁	学生区分（主たる学生区分を記す） 学部生：0～7 編転入生：8 再入学生：9 修士課程：M 博士後期課程：D 研究生：R 短大専攻科生：A 専門職学位課程生：F 科目等特別履修生：U 科目等履修生：V その他（学術研究生）：Z （特別専攻生）：S	学部内における 個人番号

このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。ただし、頭のアルファベット（学部をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

(2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にする書類として、**学籍簿**（入学手続き時に各自が提出した書類）が編成されます。学籍簿に記載される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに所属の理工学部教務課窓口へ届け出て下さい。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

- (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
 - ア 学業成績表を受領するとき。
 - イ 試験を受けるとき。
 - ウ 各種証明書の発行を受けるとき。
 - エ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
 - オ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
 - カ 図書館を利用するとき。
 - キ その他、本人であることを確認することが必要なとき。
- (2) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用するので、大切に扱って下さい。ただし、在籍を証明する**在籍確認シール**は毎年学年始めに配付します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら、速やかに前年度のシールと貼り替えてください。(新入生は、住所欄に現住所を正確に記入し、学生証の指定された場所に各自貼ってください。

なお、シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。必ず、前年度のシールと貼り替えてください。また、該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は無効として取り扱いますので注意してください。
- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに理工学部教務課窓口にてその内容を届け出てください。
- (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに理工学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再交付願」(紛失・破損届)に必要な事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署(交番)に紛失届等の提出をしてください。
- (5) 学生証の再交付については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再交付願を出力できますので、所定の手続きを理工学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再交付には、2日以上を要するので注意してください。
- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。
- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。
- (8) 卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに理工学部教務課窓口にて返納してください。

4. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失(本学の学生でなくなる)する場合としては、**退学**と**除籍**の2種類があり、さらに退学はその内容により**依願退学**と**懲戒退学**に区分されます。

(1) 退学

① 依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失(本学の学生でなくなる)することです。依願退学は、学生の意志によるものであるから、何時でも願い出することはできますが、公的教育機関との関係であり、次の諸手続きが必要です。

- ア 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。
- イ 当該学期分の学費を納入していること。(学費の納入と学籍の取得は、対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格もありません。なお、学期当初に退学する場合は、学部で個別に対応をしているので相談してください。)
 - また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることはできません。

② 懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要のある場合があります。このため本学ではこれを**除籍**として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、懲戒退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

- ア 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
- イ 在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき。
- ウ 休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヶ月以上修学を中断しようとするときは、**休学**を願い出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

- ア 大学所定の書式により願い出ること。
- イ 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
- ウ 保証人と連署で願い出ること。

(2) 休学期間

- ア 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。
 - 1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31日までに理工学部教務課窓口で大学所定の書類を提出してください。
- イ 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。
- ウ 休学期間は連続して2年、通算して4年を越えることはできません。

(3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

(4) 復学の願い出

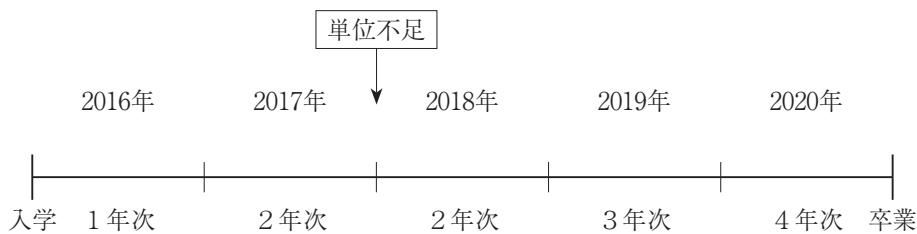
休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教

育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。したがって、復学の願い出は、学期開始日の前1ヵ月以内にしなければなりません。

6. 年次

理工学部では原級制度を実施するため所定の要件を満たしていなければ進級できません。この場合「年次」の進行は原年次復帰方式とします。学籍異動上は次のような扱いになります。

例) 2017年度を留年（留年異動日2018年4月1日）



7. 再入学

- (1) 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に入学を許可することがあります（学則第14条）。ただし、再入学を願い出たときが、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 学則第20条第1項第1号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条第2項）。ただし、再入学を願い出たときが除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせして下さい。

8. 編入学・転入学

本学の他学部（学科・専攻）、他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を理工学部教務課窓口へ速やかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

- (1) 本学の第3年次および第2年次に転入学又は編入学を希望する者については、選考の上これを許可することがある。（学則第13条）
- (2) 入学志願者は、所定の書式にしたがい入学願書、履歴書及び修学証明書を提出しなければならない。（学則第15条）
- (3) 他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願出てその許可を受けなければならない。（学則第18条の3）

Ⅳ 通学について（自転車・バイク・自動車）

1. 自転車・バイク通学について

自転車・バイクは、日々多くの学生が利用しています。

バイクはもちろんのこと、自転車も『軽車両』の仲間です。一瞬の気の緩みが取り返しのできない事故に繋がりがねません。学友の中でも、死亡事故が起こるなど、通学途上の交通事故が頻発しています。

また、「自転車・バイクが、狭い生活道路を、スピードを出して通行するので大変危険！」等の苦情が近隣住民から多数寄せられています。事故防止のために、交通ルール・マナーを遵守し、交通安全に十分配慮した運転を心掛けてください。万が一、交通事故に遭遇してしまった場合、負傷した、もしくは、相手に怪我を負わせてしまったという場合は、事故の大小に関わらず、119番・110番に通報し、相談してください。

2. 自転車・バイクの駐輪について

瀬田学舎では、学内に駐輪する自転車・バイクは必ず登録申請のうえ、登録シールの交付を受けて利用車両に添付する必要があります。この登録制度は、自転車・バイク通学をされる皆さんが、安全運転意識の向上、事故防止、盗難防止、放置車両の減少など、通学中に起こる様々なトラブルを回避する目的で実施しています。

登録は無料で、一度登録すれば卒業・修了まで有効です。登録受付は生協ショップSMYLEサービスカウンター（智光館1階）で随時行っています。

なお、自転車・バイクは必ず構内の指定された場所に駐輪してください。構内の建物周辺や路上等に長時間放置している車両は、「駐輪場利用要領」に基づき、一定期間保管の後、処分します。また、「駐輪場利用要領」に定めるとおり、駐輪場内での事故・盗難および破損について大学は一切関与しません。

利用者は、盗難防止に努め、駐輪にあたっては、必ず施錠を行ってください。2つ以上の施錠（ツーロック）により盗難防止効果が向上します。各自の責任で被害に遭わないよう十分注意してください。

（参考URL）自転車・バイク登録について

http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/support/bicycle.html

3. 自動車通学の禁止

本学では、自動車による通学を全面的に禁止しています。これは、交通事故の防止、大学周辺環境の維持などの理由からです。しかしながら、禁止しているにも関わらず、キャンパス近隣の公共施設や商業施設の駐車場等に無断で駐車し、通学する学生が見受けられます。迷惑駐車により、地域住民や近隣施設からの苦情も寄せられ、これらの行為は社会のルールに反するもので、大学の名誉を著しく傷つける行為です。

ルールに反した自動車通学が判明した場合には、保護者への連絡、ゼミ担当教員等からの指導をしたうえで、厳しく処分することとしています。学生の皆さんの節度ある行動を求めます。

4. 自動車の臨時入構許可について

自動車による通学を全面的に禁止していますが、以下のような理由があるときは、例外として許可することがありますので、必要な場合は必ず事前に以下窓口にご相談してください。

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| ① 夜間にまでおよぶ研究等で、公共交通機関の利用が困難な場合 | → 理工学部教務課 |
| ② 長期間の疾病や障がいなどにより、公共交通機関の利用が困難な場合 | → 理工学部教務課 |
| ③ 大学行事やクラブ活動のため、資材等を運搬するのに必要な場合 | → 学生部 |

許可なく入構した場合は、厳重に処分する対象となります。必要な事情がある場合には、必ず事前に相談してください。

大学院進学を目指す方へ

大学院理工学研究科入学ガイド

理工学研究科の教育内容や入学試験等の詳しい内容については、理工学部教務課窓口へお尋ねください。

I 理工学研究科について

理工学研究科では、修士課程、博士後期課程とも「数理情報学」「電子情報学」「機械システム工学」「物質化学」「情報メディア学」「環境ソリューション工学」の6専攻を開設しています。教育・研究スタッフの充実と設備・機器の拡充に力を注いでおり、一般企業や諸外国の研究機関との研究交流も積極的におこなっています。

本学附置研究所のひとつである科学技術共同研究センター、文部科学省の助成を得て設立された革新的材料・プロセス研究センター、古典籍デジタルアーカイブ研究センター、里山学・地域共生オープン・リサーチセンターなどの多くの研究施設において、様々な分野で先端的な学術研究活動を進めています。

II 入学試験について

1. 修士課程

(1) 学内推薦入学試験・・・5月

■出願資格：以下の①と②を満たしている者

①龍谷大学理工学部を当該年度3月の卒業見込みの者

②各専攻が定める推薦基準を有する者（※推薦基準については、必ず入学試験要項で確認してください。）

■出願期間：4月下旬～5月上旬

■試験科目：口述試験

(2) 一般入学試験（4月入学）・・・9月（秋期）、2月（春期）

■出願資格：大学を卒業した者及び当該年度3月の卒業見込みの者

■出願期間：①秋期 8月中旬～8月下旬

②春期 1月中旬～1月下旬

■試験科目：外国語・専門科目Ⅰ・専門科目Ⅱ・面接（口述試験）

2. 博士後期課程

(1) 一般入学試験（4月入学）・・・2月

■出願資格：修士の学位を得た者及び当該年度3月修士の学位を得る見込みの者

■出願期間：1月中旬～1月下旬

■試験科目：口述試験（修士論文あるいはそれに相当する学術論文ならびに今後の研究計画に関して、専門分野の外国語も含めた内容に関する口述試験）

Ⅲ 経済的支援（給付奨学金）について

本学では、学生の経済的な負担を減らし、勉学や研究に打ち込めるよう給付奨学金制度（返還不要）を設けています。2016年度には、本学大学院理工学研究科へ進学した学生に対して、以下の給付奨学金制度が導入されました。詳細は、当該年度の「奨学金ガイドブック」をご確認ください。

1. 修士課程

(1) 大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）＜自己応募＞

本学大学院理工学研究科修士課程への進学を奨励するため、本学学部から進学した者を対象に、給付する奨学金です。

＜申請時期・方法＞

以下の入学試験の出願期間（※）に所定の申請書を出願書類と併せて提出

○「大学院理工学研究科修士課程学内推薦入学試験」

○「大学院理工学研究科修士課程入学試験（秋期試験）」

※各入学試験の出願期間は、入試要項でご確認ください。

＜採用人数（予定）＞

24名（修士課程全体）

＜給付額（予定）＞

150,000円（入学年度のみ）

(2) 大学院研究奨励給付奨学金＜自己応募＞

本学大学院理工学研究科修士課程に在学し、自らの研究活動を計画的に実施する者を対象に給付する奨学金です。

＜申請時期・方法＞

当該年度の4月末までに所定の申請書を理工学部教務課へ提出

＜採用人数＞

別途掲示にて周知

＜給付額（予定）＞

300,000円（採用された年度のみ）

2. 博士後期課程

(1) 大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）＜自己応募＞

本学大学院理工学研究科博士後期課程への進学を奨励するため、本学大学院修士課程から進学した者を対象に、給付する奨学金です。

＜申請時期・方法＞

「大学院理工学研究科博士後期課程一般入学試験」の入学試験の出願期間（※）に所定の申請書を入試出願書類と併せて提出

※出願期間は、入試要項でご確認ください。

＜採用人数（予定）＞

5名（博士後期課程全体）

＜給付額（予定）＞

150,000円（入学年度のみ）

(2) **大学院研究奨励給付奨学金<自己応募>**

本学大学院理工学研究科博士後期課程に在学し、自らの研究活動を計画的に実施する者を対象に給付する奨学金です。

<申請時期・方法>

当該年度の4月末までに所定の申請書を理工学部教務課へ提出

<採用人数>

別途掲示にて周知

<給付額(予定)>

300,000円(採用された年度のみ)

(3) **理工学研究科博士後期課程特別給付奨学金**

本学大学院理工学研究科博士後期課程において優秀な学生を確保することを目的に、入学試験の成績優秀者に対して給付する奨学金です。

<給付額(予定)>

235,500円(授業料の半額相当額)

<給付期間>

3年間(毎年度、学業成績審査があります)

Ⅳ 研究助成について

大学院生の研究環境の向上を図るため、理工学研究科では、以下の独自の研究助成制度を設けています。(但し、休学中の者は除く)

1. 修士課程

(1) **理工学会補助**

申請にもとづき、50,000円(上限)／年度の学会発表にかかる旅費等を支給します。

(2) **大学院生研究援助費(年1回申請)**

申請にもとづき、6,000円(上限)／年度の図書費購入費、文献複写料を支給します。

(3) **学会発表援助費(年3回<上限>)**

教員の申請にもとづき、10,000円(1回当たりの上限額)×3回／年度を学生の学会発表援助費として支給します。

2. 博士後期課程

(1) **理工実験実習費研究助成**

申請にもとづき、200,000円(上限)／年度の研究助成金を支給します。各自の研究活動にかかる旅費、学会参加費等に充当できます。

(2) **理工学会補助**

申請にもとづき、50,000円(上限)／年度の学会発表にかかる旅費等を支給します。

(3) **大学院生研究援助費(年1回申請)**

申請にもとづき、6,000円(上限)／年度の図書費購入費、文献複写料を支給します。

(4) **学会発表援助費(年3回<上限>)**

教員の申請にもとづき、10,000円(1回当たりの上限額)×3回／年度を学生の学会発表援助費として支給します。

付 録

教員名簿

理工学部専任教員

※ダイヤルインは1号館、2号館、4号館は077-543-内線番号、3号館、7号館は077-544-内線番号

【数理情報学科】				内線	【電子情報学科】				内線		
飯田	晋司	1号館	513	研究室	7513	石崎	俊雄	1号館	411	研究室	7798
池田	勉	1号館	512	研究室	7512	上原	徹	1号館	443	研究室	7414
宇土	顯彦	1号館	506	研究室	7797	植村	涉	1号館	410	研究室	7410
大西	俊弘	3号館	1F教職センター内		7198	小野	景子	1号館	405	研究室	7405
國府	宏枝	1号館	501	研究室	7503	海川	龍治	1号館	402	研究室	7402
阪井	一繁	1号館	503	研究室	7508	川上	肇	1号館	403	研究室	7403
佐野	彰	1号館	538	演習室	7528	木村	昌弘	1号館	406	研究室	7406
高橋	隆史	1号館	508	研究室	7501	木村	睦	1号館	407	研究室	7407
谷	綾子	2号館	312	研究室	7654	熊野	雅仁	1号館	437	研究室	7437
中野	浩	1号館	514	研究室	7518	小島	肇	1号館	443	研究室	7414
樋口	三郎	1号館	502	研究室	7514	小堀	聡	1号館	401	研究室	7419
馬	青	1号館	505	研究室	7505	里井	久輝	2号館	311	研究室	7656
松木	平淳太	1号館	504	研究室	7488	斉藤	光徳	1号館	408	研究室	7487
道元	徹心	4号館	318	研究室	7868	張	陽軍	1号館	412	研究室	7412
森田	善久	1号館	509	研究室	7509	中川	晃成	1号館	409	研究室	7409
山岸	義和	1号館	510	研究室	7510	野口	紳一郎	1号館	443	研究室	7414
四ツ谷	晶二	1号館	511	研究室	7511	番	貴彦	1号館	438	研究室	7495
						藤井	大輔	1号館	437	研究室	7437
						山本	伸一	1号館	404	研究室	7404
【機械システム工学科】				内線	【物質化学科】				内線		
大津	広敬	1号館	301	研究室	7431	青井	芳史	1号館	205	研究室	7465
大槻	志郎	2号館	315	研究室	7657	Jonathan Augustine		2号館	314	研究室	7655
小川	圭二	1号館	315	研究室	7445	今井	崇人	1号館	307	研究室	7439
金子	康智	1号館	302	研究室	7432	岩澤	哲郎	1号館	201	研究室	7461
左近	拓男	1号館	313	研究室	7443	内田	欣吾	1号館	202	研究室	7462
塩見	洋一	1号館	316	研究室	7458	大柳	満之	1号館	206	研究室	7464
渋谷	恒司	1号館	314	研究室	7444	糟野	潤	1号館	211	研究室	7471
進藤	康則	1号館	308	研究室	7429	白井	健士郎	1号館	310	研究室	7440
田原	大輔	1号館	305	研究室	7435	白神	達也	1号館	210	研究室	7470
辻上	哲也	1号館	306	研究室	7411	富崎	欣也	1号館	209	研究室	7469
堤	一義	1号館	304	研究室	7446	中沖	隆彦	1号館	204	研究室	7661
永瀬	純也	1号館	311	研究室	7441	林	久夫	1号館	203	研究室	7463
西村	和男	1号館	317	研究室	7504	兵藤	憲吾	1号館	309	研究室	7599
野口	佳樹	1号館	303	研究室	7433	藤井	一郎	1号館	318	研究室	7466
Anh-Van Ho		1号館	319	研究室	7434	藤原	学	1号館	212	研究室	7472
本田	尚義	1号館	308	研究室	7429	前田	尚志	1号館	310	研究室	7440
前田	英史	1号館	320	研究室	7408	松中	岩男	1号館	307	研究室	7439
森	正和	1号館	312	研究室	7442	宮武	智弘	1号館	207	研究室	7467
						渡辺	英児	2号館	329	研究室	7667
						和田	隆博	1号館	208	研究室	7468

【情報メディア学科】			内線	【環境ソリューション工学科】			内線
岩嶋 浩樹	7号館	コラボレーション 演習準備室	7148	浅野 昌弘	7号館	環境研究室14	7114
岡田 至弘	7号館	情報研究室 2	7132	市川 陽一	7号館	環境研究室 4	7104
奥 健太	7号館	情報研究室14	7140	奥田 哲士	7号館	環境研究室 5	7105
片岡 章俊	7号館	情報研究室 5	7135	菊池隆之助	7号館	環境研究室 1	7101
寄能 雅文	7号館	コラボレーション 演習準備室	7148	岸本 直之	7号館	環境研究室 7	7107
芝 公仁	7号館	情報研究室11	7142	越川 博元	7号館	環境研究室 2	7102
新川 芳行	7号館	情報研究室 3	7133	近藤 倫生	7号館	環境研究室11	7111
曾我麻佐子	7号館	情報研究室13	7144	林 珠乃	7号館	実験実習準備室	7126
外村 佳伸	7号館	情報研究室 4	7134	桧尾 亮一	7号館	実験実習準備室	7117
野村 竜也	7号館	情報研究室 6	7136	丸山 敦	7号館	環境研究室12	7112
長谷 智弘	7号館	情報研究室 7	7137	水原 詞治	7号館	環境研究室 9	7109
藤田 和弘	7号館	情報研究室 1	7131	宮浦 富保	7号館	環境研究室 6	7106
三浦 雅展	7号館	情報研究室12	7143	山中 裕樹	7号館	環境研究室13	7113
三好 力	7号館	情報研究室 8	7138	遊磨 正秀	7号館	環境研究室 3	7103
吉見 毅彦	7号館	情報研究室 9	7139	横田 岳人	7号館	環境研究室 8	7108
渡辺 靖彦	7号館	情報研究室10	7141	Thomas T. Lei	7号館	環境研究室10	7110

【理工学部教務課】

077-543-7730 ~ 7732

緊急時の対応について

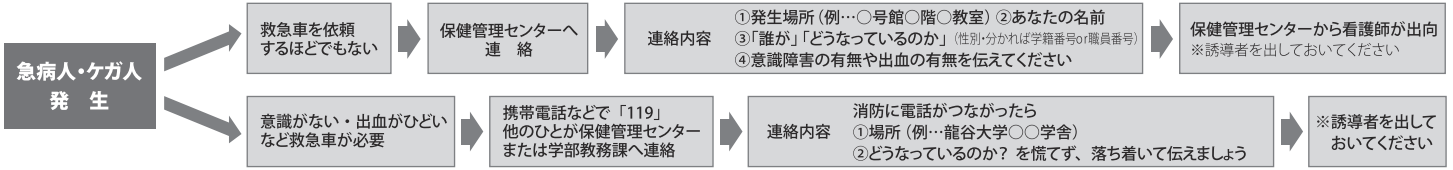
急な怪我をした、気分が悪くなった(応急処置)

授業や課外活動中に思わぬ事故で“けが”をしたり、急に体調が悪くなったような場合は、医師の診療時間外にも看護師が応急処置に応じています。また、教室等で急病やケガ人が発生し、保健管理センターまで来所できない場合は、保健管理センターから看護師が現場まで出向、対応します。

また、保健管理センターには休養室が設置されています。学内で体調を崩したときなどにご利用ください。

●各学舎の保健管理センター、対応時間と連絡先(土・日・祝日を除く)

学舎	利用時間	番号
深草学舎	8:45 ~ 17:15	075-645-7879 ダイヤルイン
大宮学舎	8:45 ~ 17:15	075-343-3322 ダイヤルイン
瀬田学舎	9:00 ~ 17:30	077-543-7781 ダイヤルイン



救急・夜間休日診療

※夜間・休日および年末年始の診療です。診察時間は必ず事前に電話で確認してください。

病院名	住所	電話番号	診療科目	診療受付時間
京都市急病診療所	JR二条駅すぐ 京都市中京区西ノ京東桐尾町6	354-6021	眼科・耳鼻咽喉科 ・内科	内科・眼科：土曜日…18:00~22:00 日曜・祝日、8/15・16、12/29~1/4…10:00~17:00 耳鼻咽喉科：日曜・祝日、8/15・16、12/29~1/4…10:00~17:00
京都市休日急病歯科中央診療所	京都市中京区西ノ京東桐尾町1 JR二条駅前 京都府歯科医師会口腔保健センター1階	812-8493	歯科	日曜・祝日、8/15・16、12/29~1/4…9:00~16:00
京都府精神科救急情報センター		323-5280	精神科	月~金…17:00~翌日8:30 土日・祝日及び年末年始…24時間
京都市休日急病歯科 南部診療所	京都市伏見区今町659-1 (京都府歯科医師会伏見会館1階)	622-3418	歯科	日曜・祝日、8/15・16、12/29~1/4…9:00~16:00

深草・大宮学舎近隣医療機関

※診療科目・診療時間等は変更される場合がありますので事前に電話で確認して下さい。
※救急指定病院は24時間の診療体制を行っています。診療科目など詳しいことは直接電話で確認して下さい。

病院名	住所	電話番号	診療受付時間	月	火	水	木	金	土	備考	
総合病院	京都医療センター ※救急指定病院	深草総合庁舎横 京都市伏見区深草向畑1-1	641-9161	【午前】8:30~10:30	○	○	○	○	○	×	
	久野病院 ※救急指定病院	JR「稲荷」駅下車 北へ約500m 京都市東山区本町22-500	541-3136	【午前】8:45~12:00 【夜診】★時間注意	○	○	○	○	○	○	★【夜診】月 5:15~8:00 火・金 4:45~8:00 水・木・土 5:45~8:00
	康生会 武田病院 ※救急指定病院	JR「京都」駅中央郵便局横 京都市下京区塩小路通西洞院東入東塩小路町841-5	361-1351	【午前】8:00~12:30 【午後】1:00~4:00	★診療科により 診療日異なる。						
	京都南病院	市バス「七条御前通」下車すぐ 京都市下京区西七条南中野町8	312-7361	【午前】8:30~12:00 【午後】1:30~4:30	★診療科により 診療日異なる。						
新京都市南病院 ※救急指定病院	市バス「西大路七条」下車徒歩7分 京都市下京区七条御所ノ内北町94番地	322-3344	【午前】9:00~12:00 【午後】4:30~7:30	○	○	○	○	○	×	★【診療時間】5:30~7:30	
内科	ふじた医院	七条大宮西南角 京都市下京区大宮通七条下ル御器屋町67	343-4188	【午前】9:00~12:00 【午後】5:30~7:30	○	○	○	○	○	○	内科・消化器科
	西澤内科医院	JR「京都」駅より徒歩5分 京都市下京区七条西洞院七条下ル大黒町253	343-5022	【午前】9:00~13:00 【午後】4:30~7:30	○	○	○	○	○	○	★8:15~12:00 内科・神経内科・循環器科
	仁木医院	砂川東児童公園横 京都市伏見区西浦町4丁目21	641-2411	【午前】9:00~12:00 【午後】5:00~7:30	○	○	○	○	○	○	内科・循環器科
	西医院	「稲荷」駅下車 北へすぐ 京都市伏見区深草稲荷御前町90	641-6251	【午前】9:00~11:30 【午後】6:00~8:00	○	○	○	○	○	○	内科・消化器科/眼科併設
外科	辻クリニック	第一軍道を東へ 京都市伏見区直達橋9-184-2	641-3073	【午前】9:00~12:30 【午後】4:30~7:30	○	○	○	○	○	○	外科・消化器科・整形外科・ 内科・皮膚科・泌尿器科
	岩田クリニック	竹田街道キリン堂薬局前 京都市伏見区竹田久保町19-1	646-2880	【午前】8:45~12:00 【午後】5:10~8:00	○	○	○	○	○	○	外科・胃腸科・内科・皮膚科・ 肛門科
外整形科	高生会整形外科クリニック	京阪「深草」駅 東へ徒歩1分 京都市伏見区直達橋10-157-2	647-2828	【午前】9:00~12:00 【午後】4:30~7:00	○	○	○	○	○	○	
眼科	西眼科クリニック	JR「稲荷」駅下車 北へすぐ 京都市伏見区深草稲荷御前町90	646-1900	【午前】9:00~12:00 【午後】4:00~7:00	○	○	○	○	○	○	★土【午前】9:00~13:00
	なかの眼科	JR「稲荷」駅下車 北へ 京都市伏見区深草稲荷中之町45	645-1572	【午前】9:00~12:00 【午後】5:00~7:00	○	○	○	○	○	○	
耳鼻科	大岡医院	市バス「西洞院正面」停留所から1分 京都市下京区西洞院正面下ル鍛冶屋町435-1	371-3387	【午前】9:00~12:30 【午後】5:00~7:30	○	○	○	○	○	○	※手術・検査のみ
	水田耳鼻咽喉科	京阪「藤森」駅東側 京都市伏見区深草直達橋4-348	641-1440	【午前】9:00~12:00 【午後】4:00~7:20	○	○	○	○	○	○	
婦人科	杉の下医院(女医)	京阪「深草」駅東側 京都市伏見区深草直達橋10丁目171	641-0371	【午前】9:00~12:00 【午後】5:30~7:30	○	○	○	○	○	○	婦人科・内科・皮膚科
歯科	ひろせ歯科医院	平安高校となり 京都市下京区大宮通り七条上ル御器屋町43	361-6480	【午前】9:00~13:00 【午後】2:30~6:00	○	○	○	○	○	○	【予約制】
	くいなばししばデンタルクリニック	地下鉄「くいな橋」駅1番出口すぐ 京都市伏見区武田中島町206 地下鉄くいな橋 駅前ビル1階	643-3545	【午前】10:00~13:00 【午後】3:00~8:00	○	○	○	○	○	○	▲第2・4木曜午後休診 ※毎週土【午後】3:00~5:00
	水谷歯科	師団街道警察学校の北側 京都市伏見区深草菟川町24-1	641-0675	【午前】9:00~12:00 【午後】3:00~7:00	○	○	○	○	○	○	★土【午後】2:00~6:00
皮膚科	小森医院	京阪「藤森」駅 出口2からすぐ 京都市伏見区深草堀田10-1ロースマンション 藤森C204	643-6355	【午前】9:30~12:45 【午後】2:00~3:45 【午後】5:00~7:45	○	○	○	○	○	○	

現在診療中の医療機関を探したいとき

【京都 健康医療よろずネット】

075-694-5499 <http://www.mfis.pref.kyoto.lg.jp>

(自動音声・FAXサービス)

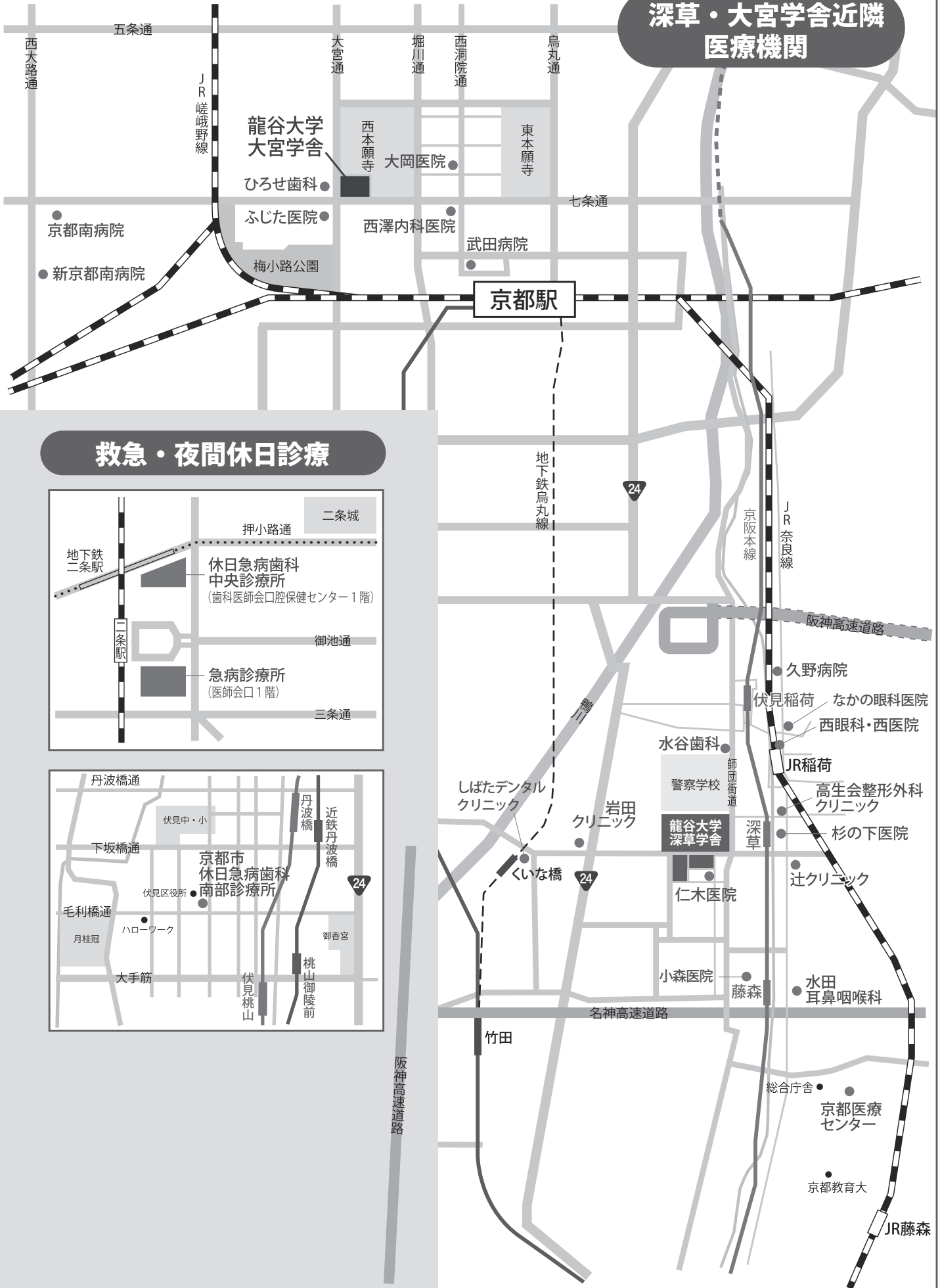
精神科救急医療に関する電話相談等

【京都府精神科救急情報センター】

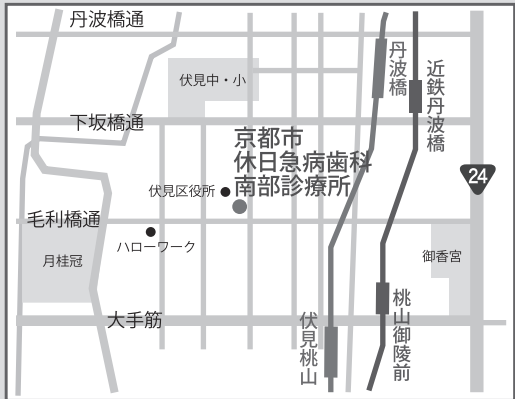
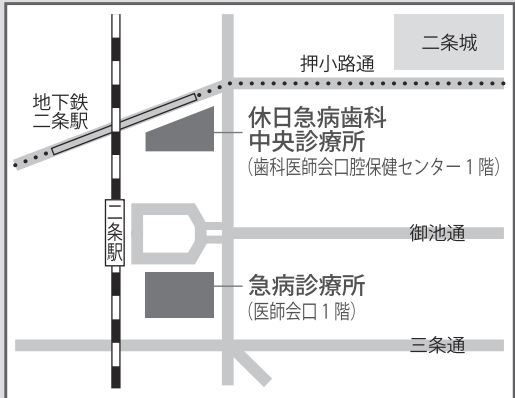
075-323-5280 月~金…17:00~翌日8:30、土日・祝日及び年末年始…24時間

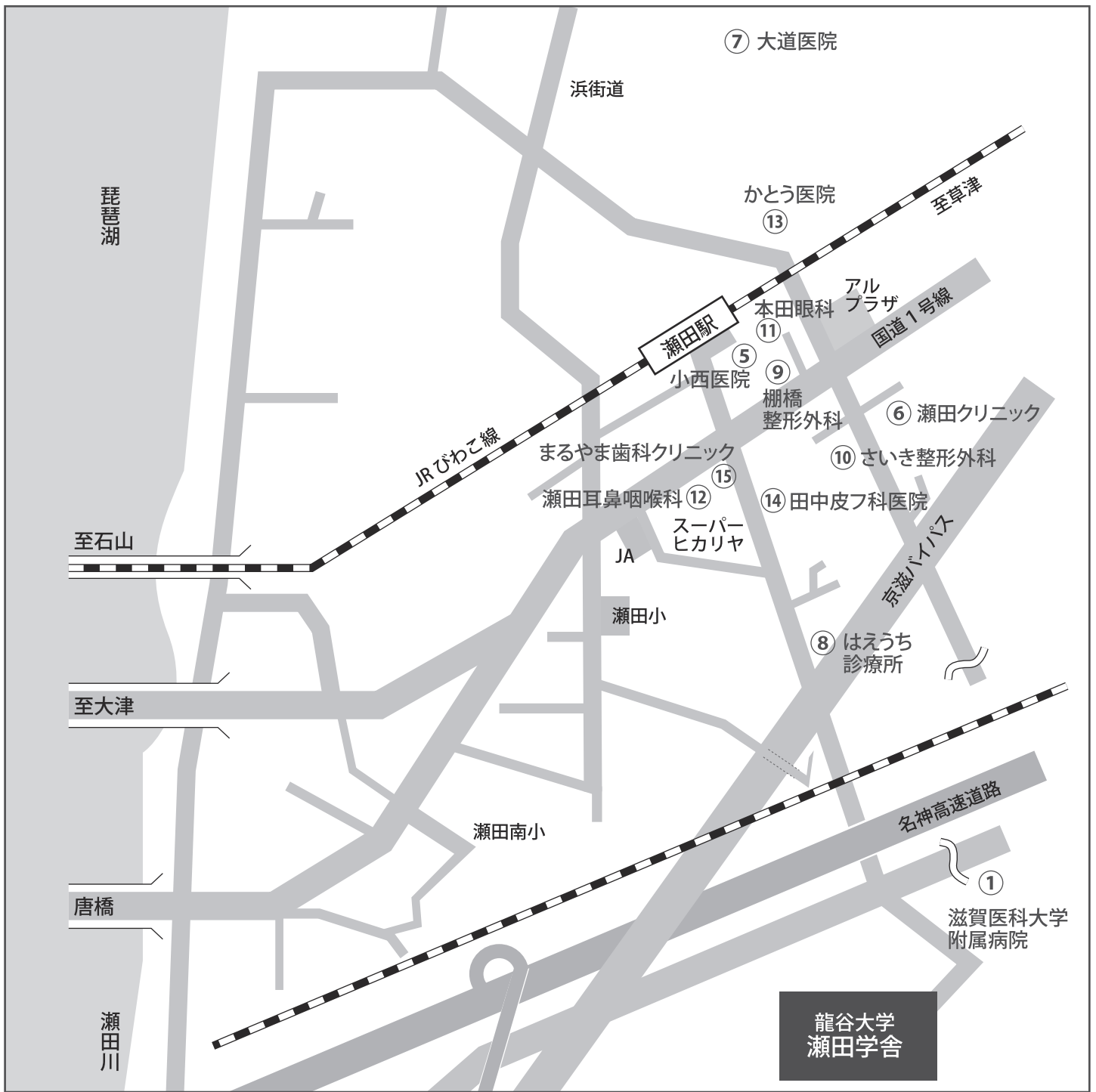


深草・大宮学舎近隣 医療機関



救急・夜間休日診療





瀬田学舎 近隣医療機関

※診療科目・診療日・診療時間等に変更される場合がありますので事前に電話で確認してください。

※救急指定病院は緊急時に備え、24時間の診療体制を行っています。診療科目など詳しいことは直接電話で確認してください。

病院名	住所	電話番号	診療受付時間	月	火	水	木	金	土	診療科目	
総合病院	① 滋賀医科大学 附属病院	大津市瀬田月輪町	077-548-2111 【時間外】548-2770	午前 8:30～10:30 月～金 午後 なし	○	○	○	○	○	×	
	② 大津市民病院	大津市本宮2丁目9-9	077-522-4607	午前 8:30～11:30 月～金 午後 なし	○	○	○	○	○	×	
	③ 大津赤十字病院	大津市長等1丁目1-35	077-522-4131	午前 8:00～11:30 月～金	○	○	○	○	○	×	
				午後 1:30～3:00 月～金 (消化器科・循環器科)	○	○	○	○	○	×	
④ JCHO滋賀病院	大津市富士見台16-1	077-537-3101	午前 8:30～11:30 月～金	○	○	○	○	○	×		
			午後 なし	×	×	×	×	×	×		
内科	⑤ 小西医院	JR瀬田駅前より徒歩1分 大津市大萱1丁目17-35	077-543-3600	午前 9:00～12:30 月・火・木・土 午後 5:00～7:30 月・火・木・金	○	○	×	○	○	×	内科 皮膚科 泌尿器科 外科
	⑥ 瀬田クリニック	JR瀬田駅前より徒歩8分 大津市一里山3丁目1-5 帝産バス「葛原遊園地」下車徒歩1分	077-545-3945	午前 9:00～12:00 月・土	○	×	×	×	×	○	
				午後 1:00～5:00 月・水・木	○	×	○	○	×	×	
⑦ 大道医院	JR瀬田駅より瀬田北中学校方向へ 徒歩15分 大津市大將軍1丁目15-7	077-547-3650	午前 9:00～12:00 月・火・木～日 (日曜AM診療あり)	○	○	×	○	○	○	内科 呼吸器内科 循環器内科	
			午後 2:00～4:00 火・木・金 4:30～7:30 月・火・木・金	○	○	×	○	○	×		
外科	⑧ はえうち診療所	帝産バス「一ツ松」下車徒歩1分 大津市一里山4丁目25-21	077-543-3861	午前 9:00～12:00 月・火・水・金・土	○	○	○	×	○	内科・胃腸 肛門科 外科(歯科)	
				午後 3:00～5:00 月・火・水・金	○	○	○	×	○	×	
整形外科	⑨ 棚橋整形外科	アルプラザ瀬田店西側 大津市大萱1丁目20-12	077-545-8020	午前 9:00～12:00 月～土	○	○	○	○	○	リハビリ科 外科	
				午後 3:30～6:30 月～金	○	○	○	○	○	×	
⑩ さいき整形外科	JR瀬田駅前より徒歩10分 大津市一里山3丁目19-4	077-545-7711	午前 9:00～12:00 月～金 9:00～12:00 土	○	○	○	○	○	○	リハビリ科	
			午後 4:00～7:00 月・火・水・金	○	○	○	×	○	×		
眼科	⑪ 本田眼科	JR瀬田駅前より徒歩3分 大津市大萱1丁目16-15	077-543-0878	午前 9:30～12:30 月・火・水・金・土	○	○	○	×	○		
				午後 4:00～6:00 月・火・水・金	○	○	○	×	○	×	
耳鼻科	⑫ 瀬田耳鼻咽喉科	JR瀬田駅前より徒歩5分 大津市一里山1丁目2-13	077-543-1490	午前 8:45～12:30 月～土	○	○	○	○	○	睡眠時無呼吸検査、 禁煙治療 火曜・補聴器外来	
				午後 3:15～7:00 月～金	○	○	○	○	○	×	
婦人科	⑬ かつう医院	JR瀬田駅より草津方向へ徒歩5分 大津市大將軍3丁目8-16	077-544-1012	午前 8:30～12:00 月～土 (第2土曜休診)	○	○	○	○	○	婦人科 内科 循環器科	
				午後 3:00～6:00 月・水・金	○	×	○	×	○	×	
皮膚科	⑭ 田中皮フ科医院	JR瀬田駅前より徒歩5分 大津市一里山1丁目8-29 一里山中央ビル2階	077-545-1232	午前 9:30～12:30 月・水・金・土	○	×	○	×	○		
				午後 4:00～7:00 月・水・金	○	×	○	×	○	×	
歯科	⑮ まるやま歯科クリニック	JR瀬田駅より東南方向へ徒歩3分 大津市一里山1丁目3-6	077-547-3560	午前 9:00～13:00 月～土	○	○	○	○	○		
				午後 3:00～8:00 月～金	○	○	○	○	○	×	

<救急医療ネットしが>



携帯電話検索サービス

<http://www.shiga.iryo-navi.jp/m/>

”救急医療ネットしが”は、滋賀県内の病院・診療所・歯科診療所などの医療機関を検索することができます。

<電話・FAX案内サービス>

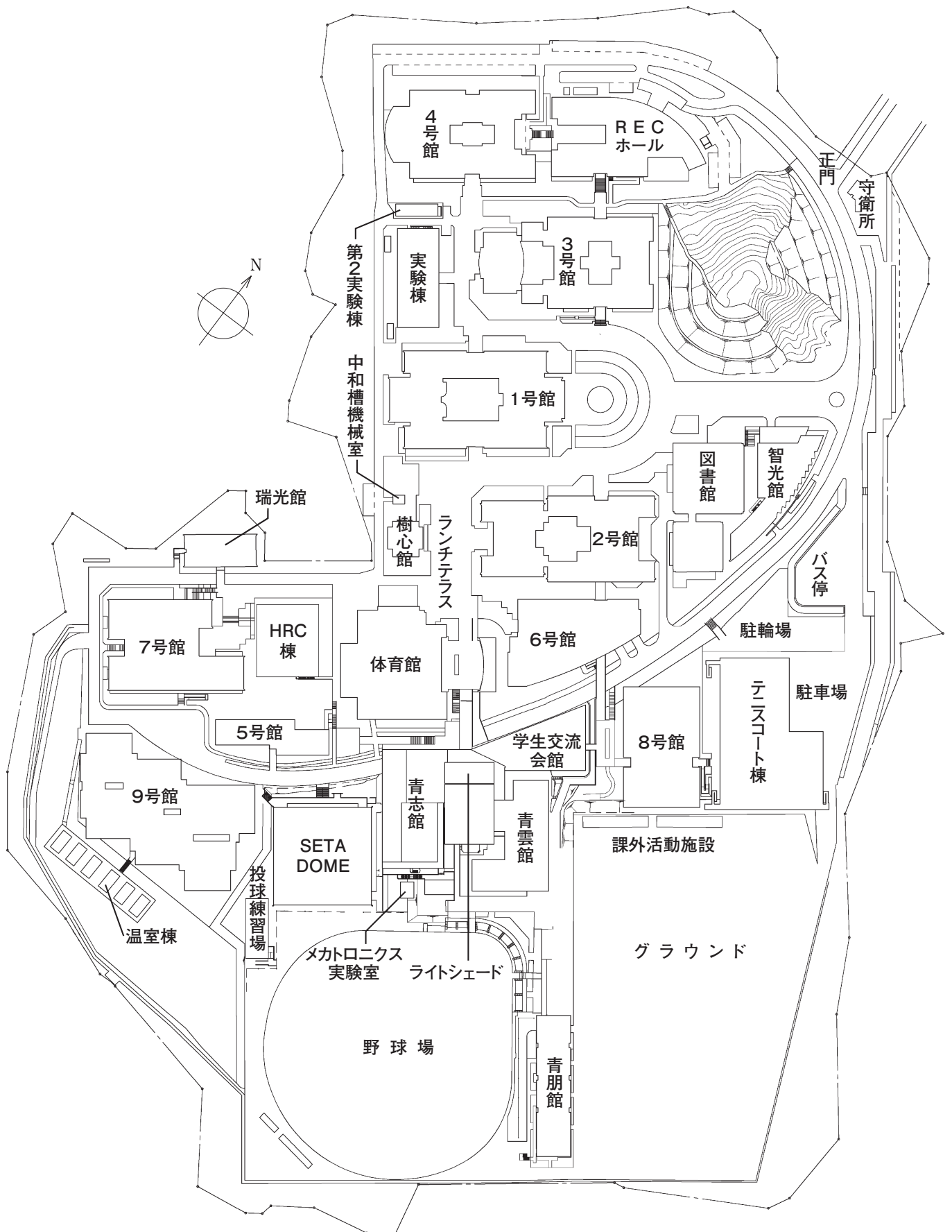
電話・FAXで現在診療中の医療機関をご案内するサービスです。

医療機関をお探しの地域	電話番号
大津市	077-525-3799
草津市、守山市、栗東市、野洲市	077-553-3799
甲賀市、湖南市	0748-62-3799
近江八幡市、東近江市、蒲生郡	0748-23-3799
愛知郡、東近江市	0749-45-3799
彦根市、犬上郡	0749-23-3799
長浜市、米原市	0749-63-3799
高島市	0740-22-3799

利用上の注意

- * 事前にメモの用意をしておくとう便利です。
- * 案内を受けた病院・診療所に行く場合は、必ず事前に電話で確認してください。
- * 重症の場合や命にかかわるような症状の場合は、救急車を要請してください。

龍谷大学瀬田学舎見取図



2016年度
理工学部 機械システム工学科 履修要項

2016年4月1日発行

編集発行 龍谷大学理工学部

〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5

印刷 アインズ株式会社

